

第7期福生市地域福祉計画
策定に向けた
基礎調査報告書

令和7年3月
福生市

目次

1章 アンケート調査	1
1 調査概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査概要	1
(3) 回収結果	1
(4) 図表の見方	2
2 市民調査結果	3
(1) 地域での活動について	3
(2) 地域とのつながりについて	13
(3) 暮らしの困りごとについて	25
(4) 福祉情報について	35
(5) 権利擁護について	38
(6) 再犯防止について	44
(7) これからの地域福祉について	50
(8) あなたご自身について	55
(9) 自由意見	72
3 地域福祉関連団体調査結果	77
(1) 貴団体・事業者のことについて	77
(2) 地域での取組について	81
(3) 活動（事業）を通して見える地域の状況について	87
(4) 権利擁護支援について	99
(5) 再犯防止について	102
(6) ご意見・ご要望等	105
2章 ヒアリング調査	108
1 調査概要	108
(1) 調査の目的	108
(2) 調査概要	108
2 調査結果	109

1 章 アンケート調査

1 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、第7期福生市地域福祉計画の策定にあたり、市民や地域の実態を把握し、施策や計画の評価指標を検討する基礎資料となることを目的として、実施しました。

(2) 調査概要

調査種	調査方法	実施期間
市民調査 (18 歳以上の 市民 3,000 人)	・ 郵送配布 ・ 郵送又は WEB 調査での回答を自由 選択 ・ やさしい日本語版の回答フォーム の作成	令和 6 年 11 月 7 日～11 月 25 日 ※12 月 9 日受付分までを反映
地域福祉関連 団体調査 (123 団体)	・ 郵送配布・回収	令和 6 年 10 月 10 日～10 月 27 日 ※11 月 12 日受付分までを反映

(3) 回収結果

■市民調査

調査票	配付数	回答方法		回収数計	回収率
		紙	web		
一般	3,000	737	218	955	
やさしい日本語版			12	12	
合計	3,000	737	230	967	32.2%

■地域福祉関連団体調査 123 件配付、回収数 82 件、回収率 66.7%

(4) 図表の見方

- ◇回答結果の割合(%)は、集計対象者数に対するそれぞれの回答数の割合を、小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ◇複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、それぞれの回答結果の割合の合計は100.0%を超えることがあります。
- ◇グラフ・表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇グラフ・表中の「n (number of cases)」は、集計対象者数を表しています。回答者を限定する条件のある設問では、集計対象も限定されるため、nの値が異なる場合があります。
- ◇クロス集計の結果の記載にあたり、分析軸となる項目の「無回答」は省略しています。そのため、分析軸となる項目の回答者数の合計は、全体の数と一致しない場合があります。

2 市民調査結果

(1) 地域での活動について

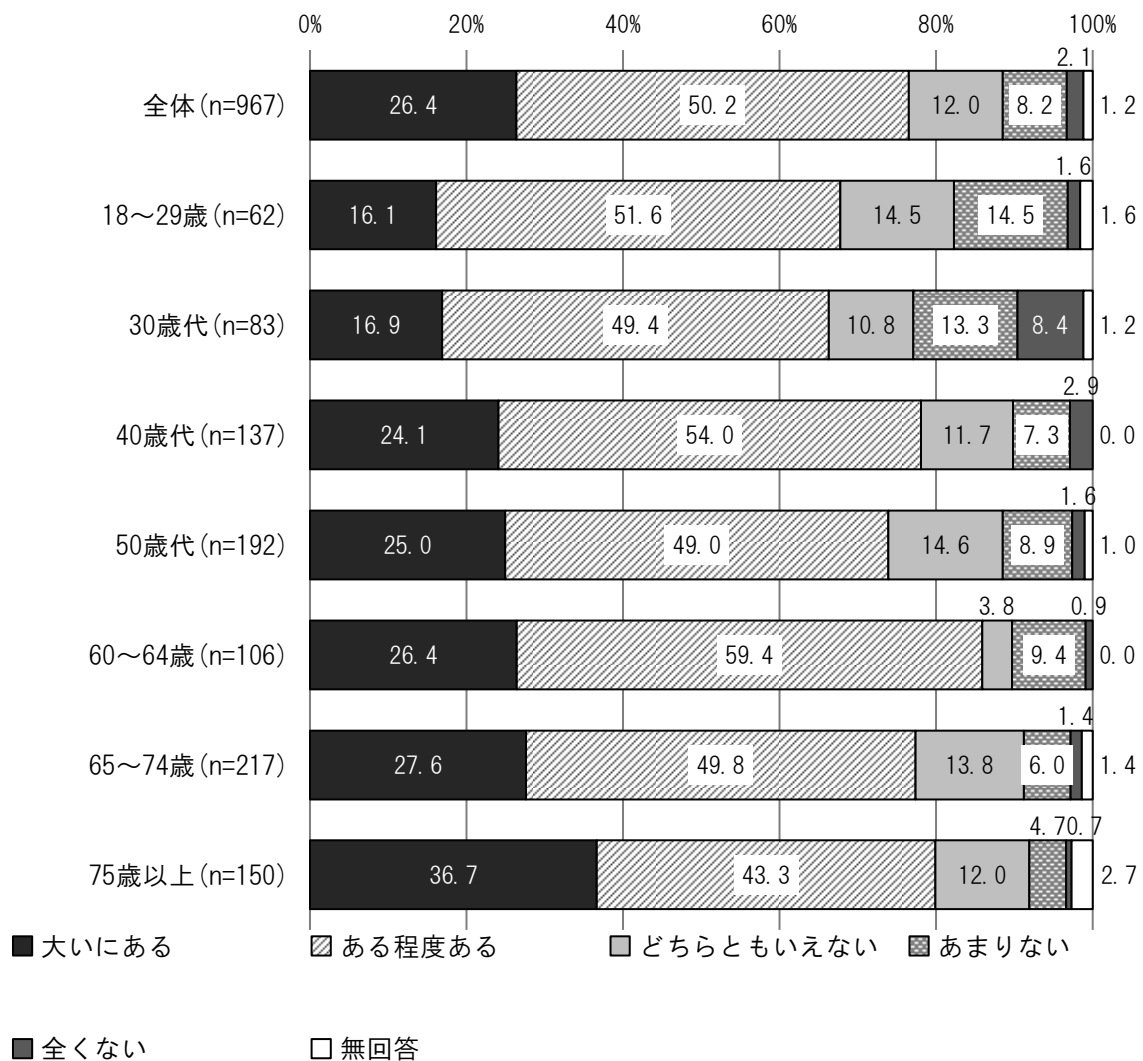
問1 あなたは、福生市に愛着がありますか。 × 年齢

(単数回答)

全体では「ある程度ある」が50.2%と最も多く、次いで「大いにある」が26.4%、「どちらともいえない」が12.0%となっています。

年齢別にみると、いずれも「ある程度ある」が最も多くなっています。

<18～29歳><30歳代>では、「大いにある」が1割台となっています。

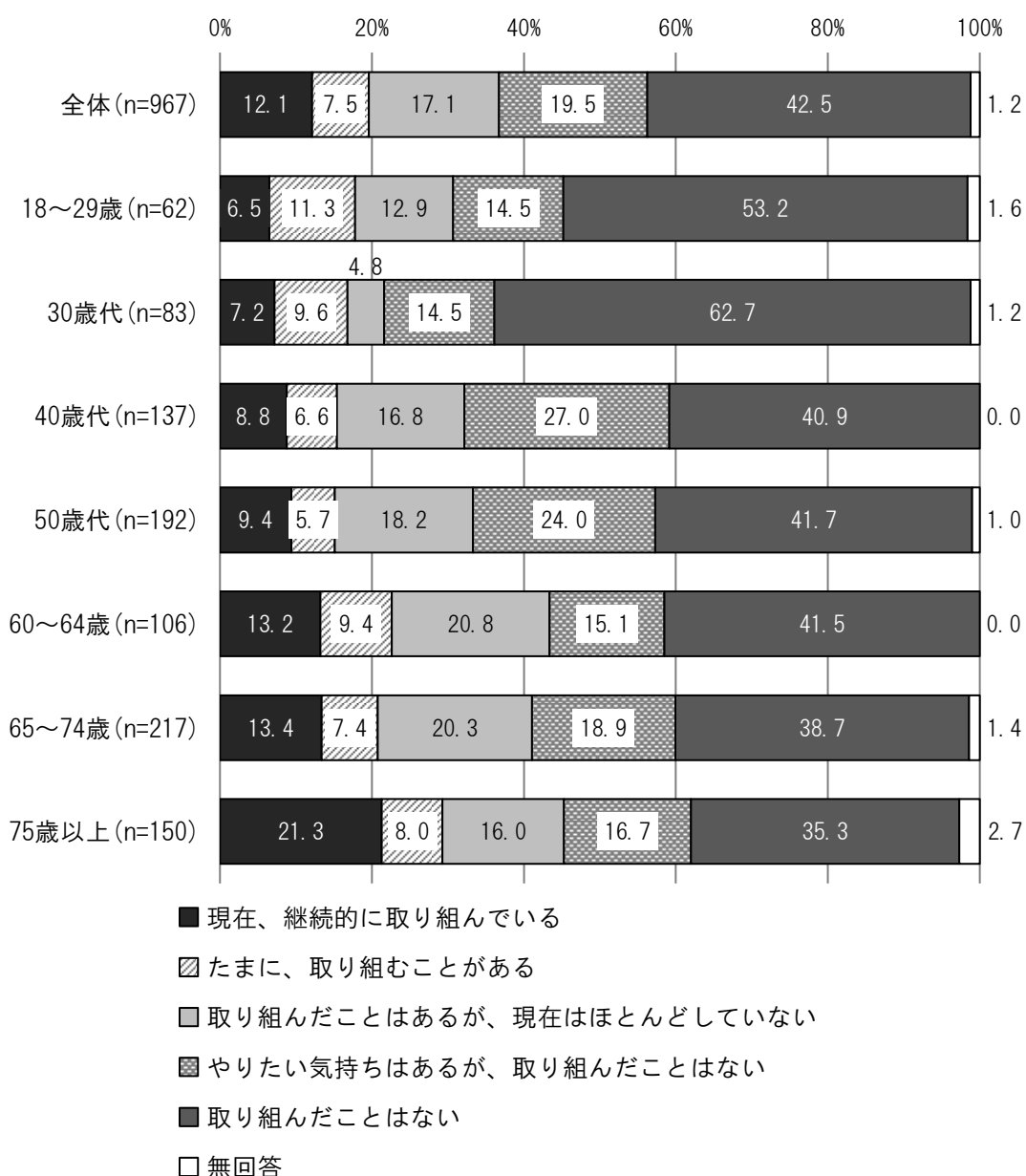


問2 あなたは、地域活動やボランティア活動に取り組んでいますか。 × 年齢（単数回答）

全体では「取り組んだことはない」が42.5%と最も多く、次いで「やりたい気持ちはあるが、取り組んだことはない」が19.5%、「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」が17.1%となっています。

年齢別にみると、いずれも「取り組んだことはない」が最も多くなっています。

また、次いで<40歳代><50歳代>では、「やりたい気持ちはあるが、取り組んだことはない」が、<60～64歳><65～74歳>では、「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」が、<75歳以上>では、「現在、継続的に取り組んでいる」が多くなっています。

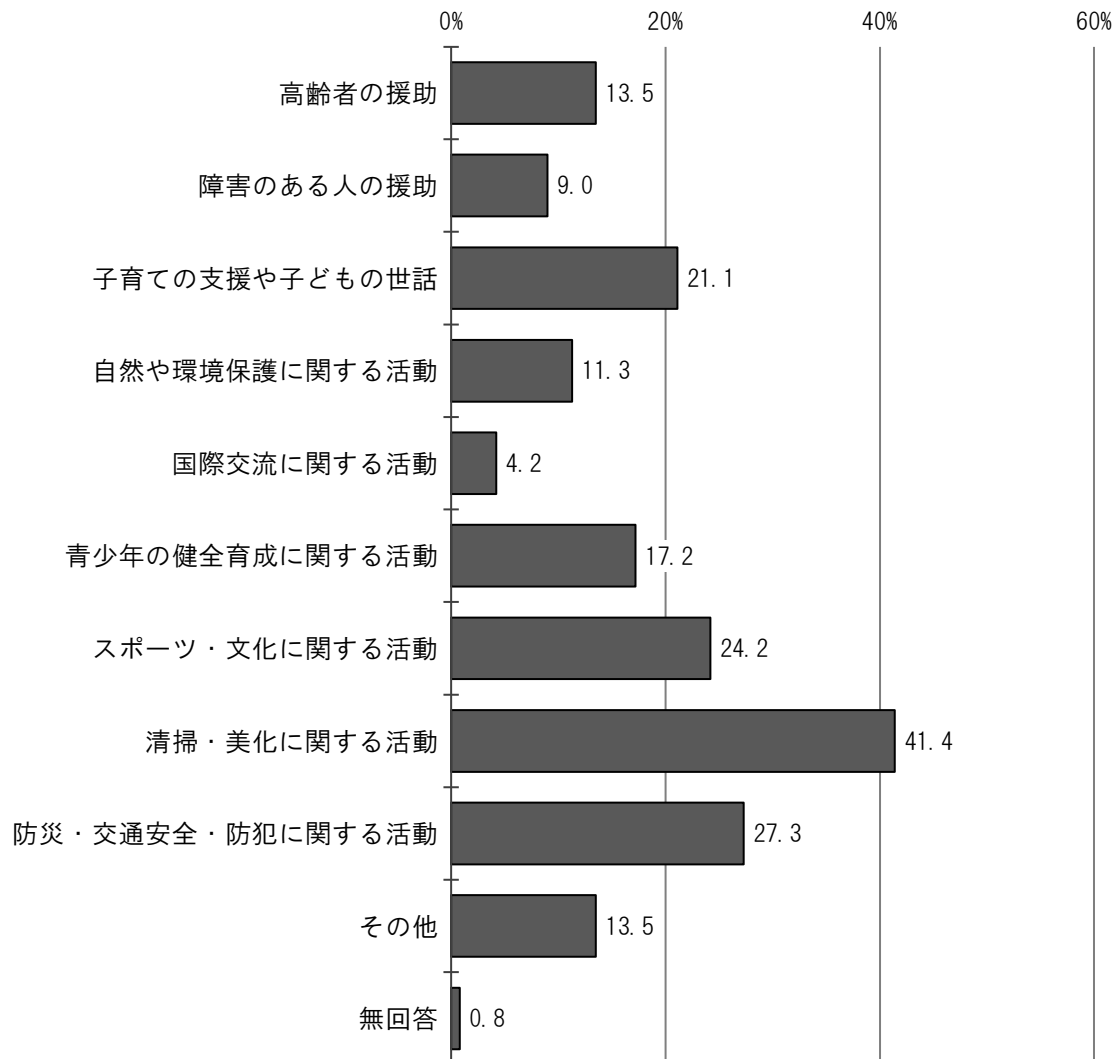


問2-1 問2で「1」「2」「3」（取り組んだことがある）を選んだ方
どのような活動をしていますか。

（複数回答）

全体では「清掃・美化に関する活動」が41.4%と最も多く、次いで「防災・交通安全・防犯に関する活動」が27.3%、「スポーツ・文化に関する活動」が24.2%となっています。

n=355



問 2-1 どのような活動をしていますか。 × 年齢

(複数回答)

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「自然や環境保護に関する活動」が 31.6%と最も多く、次いで「清掃・美化に関する活動」が 26.3%となっています。

<30 歳代>では、「清掃・美化に関する活動」が 38.9%と最も多く、次いで「子育ての支援や子どもの世話」が 33.3%となっています。

<40 歳代>では、「子育ての支援や子どもの世話」が 34.1%と最も多く、次いで「清掃・美化に関する活動」が 29.5%となっています。

<50 歳代>では、「清掃・美化に関する活動」が 43.8%と最も多く、次いで「子育ての支援や子どもの世話」が 32.8%となっています。

<60～64 歳>では、「清掃・美化に関する活動」が 63.0%と最も多く、次いで「防災・交通安全・防犯に関する活動」が 30.4%となっています。

<65～74 歳>では、「清掃・美化に関する活動」が 37.1%と最も多く、次いで「スポーツ・文化に関する活動」が 34.8%となっています。

<75 歳以上>では、「清掃・美化に関する活動」が 47.1%と最も多く、次いで「防災・交通安全・防犯に関する活動」が 33.8%となっています。

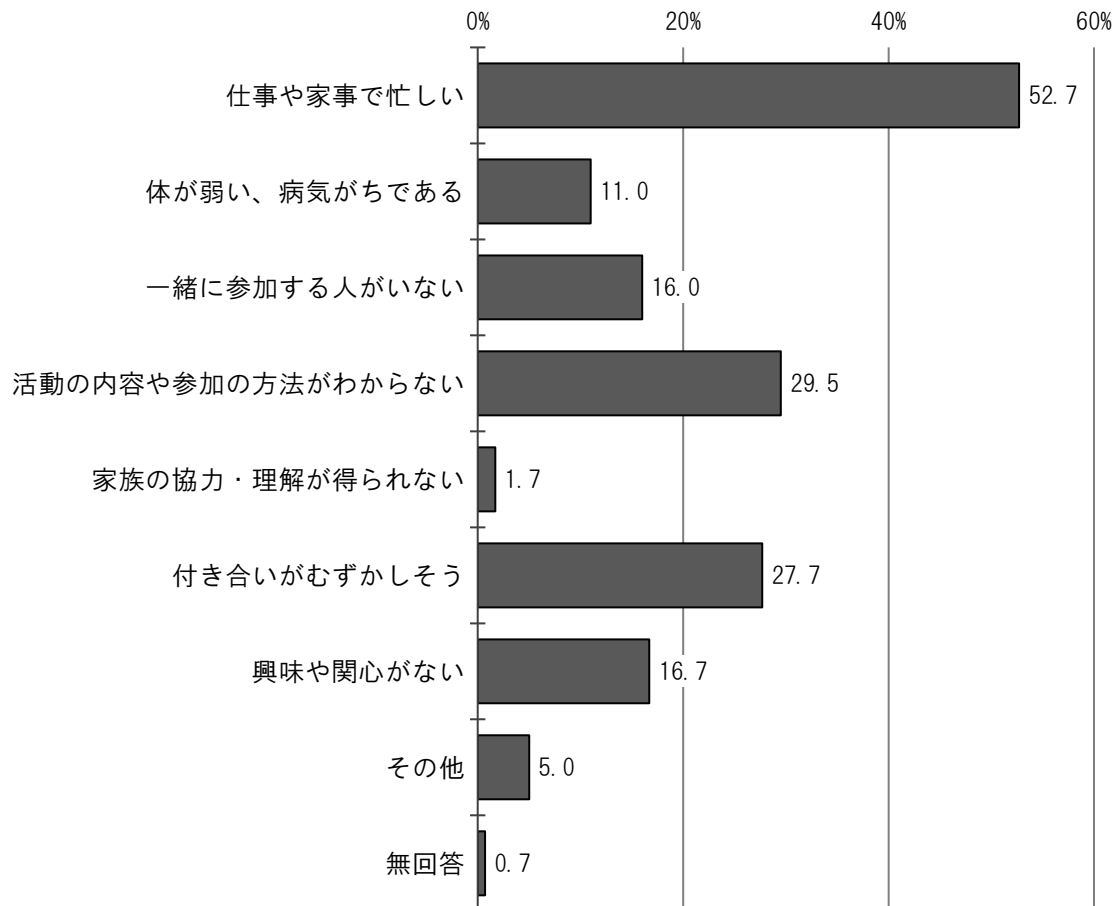
%		高齢者の援助	障害のある人の援助	子育ての支援や子どもの世話	自然や環境保護に関する活動	国際交流に関する活動	青少年の健全育成に関する活動	スポーツ・文化に関する活動
年齢	全体(n=355)	13.5	9.0	21.1	11.3	4.2	17.2	24.2
	18～29歳(n=19)	10.5	10.5	15.8	31.6	15.8	5.3	15.8
	30歳代(n=18)	11.1	5.6	33.3	5.6	5.6	11.1	22.2
	40歳代(n=44)	13.6	11.4	34.1	9.1	-	27.3	11.4
	50歳代(n=64)	4.7	1.6	32.8	10.9	9.4	17.2	21.9
	60～64歳(n=46)	15.2	4.3	8.7	13.0	-	23.9	28.3
	65～74歳(n=89)	15.7	11.2	15.7	9.0	4.5	20.2	34.8
	75歳以上(n=68)	17.6	11.8	14.7	11.8	1.5	5.9	22.1
%		清掃・美化に関する活動	防災・交通安全・防犯に関する活動	その他	無回答			
年齢	全体(n=355)	41.4	27.3	13.5	0.8			
	18～29歳(n=19)	26.3	15.8	10.5	5.3			
	30歳代(n=18)	38.9	27.8	11.1	-			
	40歳代(n=44)	29.5	15.9	15.9	-			
	50歳代(n=64)	43.8	29.7	10.9	-			
	60～64歳(n=46)	63.0	30.4	13.0	-			
	65～74歳(n=89)	37.1	27.0	11.2	1.1			
	75歳以上(n=68)	47.1	33.8	20.6	1.5			

問2-2 問2で「4」「5」（取り組んだことがない）を選んだ方
取り組んだことがない理由は何ですか。

（複数回答）

全体では「仕事や家事で忙しい」が52.7%と最も多く、次いで「活動の内容や参加の方法がわからない」が29.5%、「付き合いがむずかしそう」が27.7%となっています。

n=600



問 2-2 取り組んだことがない理由は何ですか。 × 年齢

(複数回答)

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「仕事や家事で忙しい」が 54.8%と最も多く、次いで「活動の内容や参加の方法がわからない」が 42.9%となっています。

<30 歳代>では、「仕事や家事で忙しい」が 68.8%と最も多く、次いで「活動の内容や参加の方法がわからない」が 37.5%となっています。

<40 歳代>では、「仕事や家事で忙しい」が 69.9%と最も多く、次いで「活動の内容や参加の方法がわからない」が 32.3%となっています。

<50 歳代>では、「仕事や家事で忙しい」が 69.0%と最も多く、次いで「活動の内容や参加の方法がわからない」が 24.6%となっています。

<60～64 歳>では、「仕事や家事で忙しい」が 65.0%と最も多く、次いで「活動の内容や参加の方法がわからない」が 25.0%となっています。

<65～74 歳>では、「付き合いがむずかしそう」が 32.8%と最も多く、次いで「仕事や家事で忙しい」が 32.0%となっています。

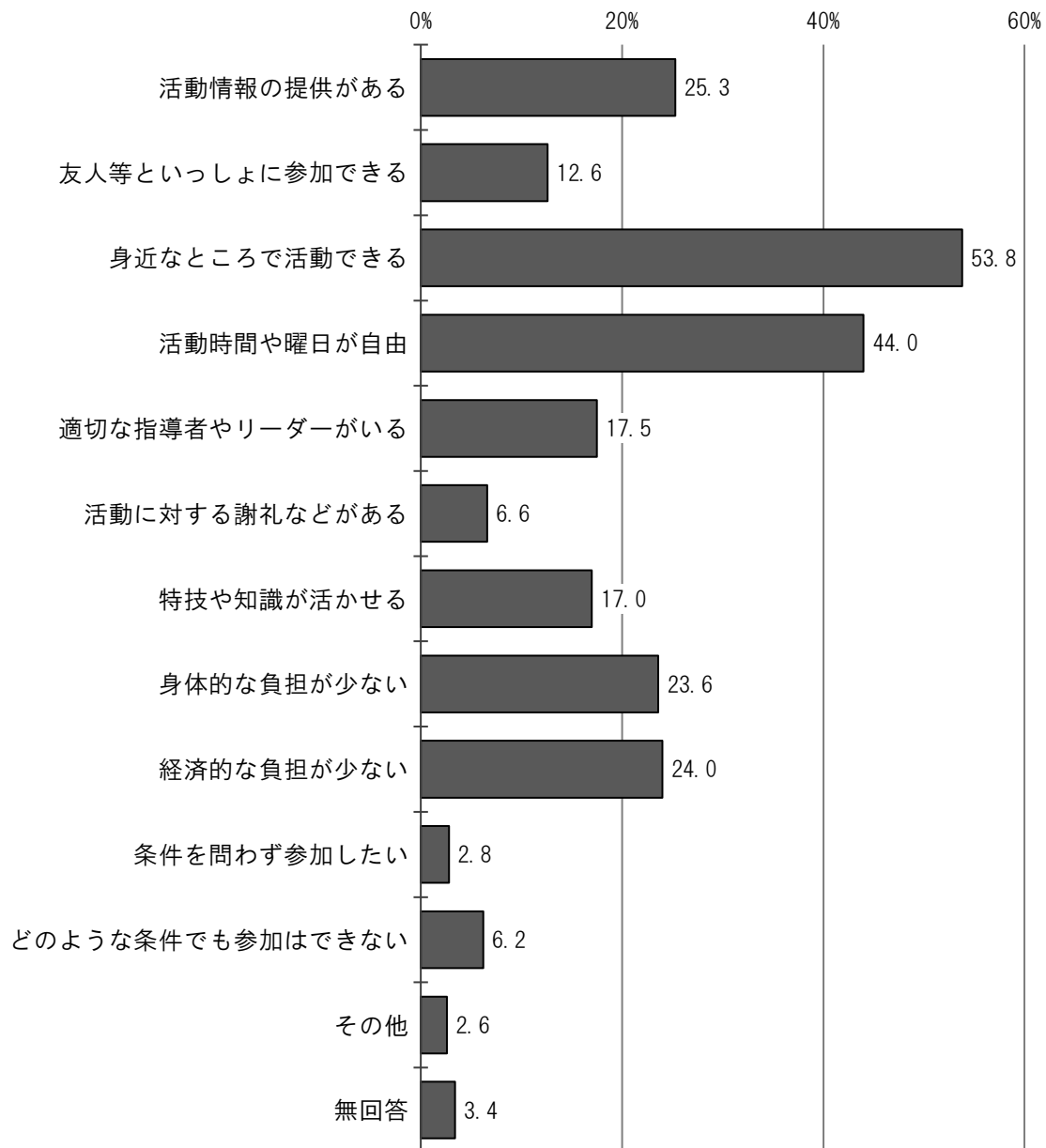
<75 歳以上>では、「付き合いがむずかしそう」が 34.6%と最も多く、次いで「活動の内容や参加の方法がわからない」が 28.2%となっています。

%		仕事や家事 で忙しい	体が弱い、 病気がちで ある	一緒に参加 する人がい ない	活動の内容 や参加の方 法がわから ない	家族の協 力・理解が 得られない	付き合いが むずかしそ う	興味や関心 がない
年齢	全体(n=600)	52.7	11.0	16.0	29.5	1.7	27.7	16.7
	18～29歳(n=42)	54.8	2.4	28.6	42.9	2.4	28.6	19.0
	30歳代(n=64)	68.8	6.3	21.9	37.5	1.6	23.4	14.1
	40歳代(n=93)	69.9	7.5	14.0	32.3	1.1	29.0	12.9
	50歳代(n=126)	69.0	7.1	10.3	24.6	2.4	23.0	20.6
	60～64歳(n=60)	65.0	11.7	16.7	25.0	1.7	15.0	13.3
	65～74歳(n=125)	32.0	17.6	16.0	28.0	0.8	32.8	18.4
	75歳以上(n=78)	14.1	19.2	12.8	28.2	2.6	34.6	14.1
%		その他	無回答					
年齢	全体(n=600)	5.0	0.7					
	18～29歳(n=42)	7.1	-					
	30歳代(n=64)	3.1	-					
	40歳代(n=93)	2.2	1.1					
	50歳代(n=126)	3.2	-					
	60～64歳(n=60)	10.0	-					
	65～74歳(n=125)	4.8	0.8					
	75歳以上(n=78)	9.0	2.6					

問 3 地域活動やボランティア活動に参加しようとする際、どのような点を重視しますか。
(複数回答)

全体では「身近なところで活動できる」が53.8%と最も多く、次いで「活動時間や曜日が自由」が44.0%、「活動情報の提供がある」が25.3%となっています。

n=967



問 3 地域活動やボランティア活動に参加しようとする際、どのような点を重視しますか。

× 年齢 (複数回答)

年齢別にみると、<30 歳代>では、「活動時間や曜日が自由」が 45.8%と最も多く、次いで「身近なところで活動できる」が 43.4%となっています。

<40 歳代>では、「身近なところで活動できる」「活動時間や曜日が自由」が 51.1%と最も多く、次いで「活動情報の提供がある」が 28.5%となっています。

<18～29 歳><50 歳代><60～64 歳><65～74 歳><75 歳以上>では、「身近なところで活動できる」が最も多く、次いで「活動時間や曜日が自由」となっています。

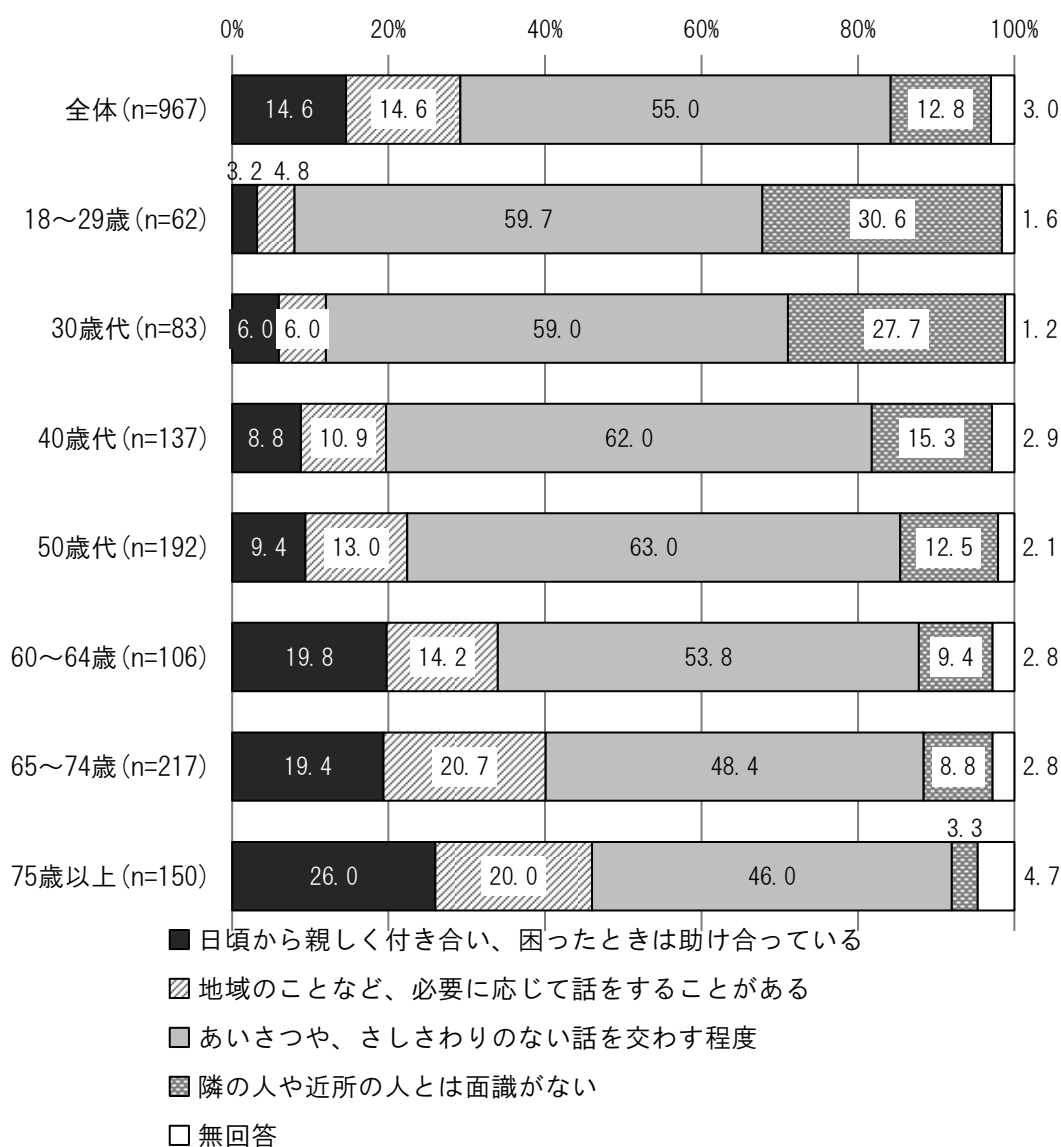
%		活動情報の 提供がある	友人等と いっしょに 参加できる	身近なところ で活動で きる	活動時間や 曜日が自由	適切な指導 者やリー ダーがいる	活動に対す る謝礼など がある	特技や知識 が活かせる
年齢	全体(n=967)	25.3	12.6	53.8	44.0	17.5	6.6	17.0
	18～29歳(n=62)	33.9	30.6	41.9	33.9	14.5	17.7	11.3
	30歳代(n=83)	30.1	12.0	43.4	45.8	14.5	9.6	15.7
	40歳代(n=137)	28.5	11.7	51.1	51.1	16.8	10.2	19.0
	50歳代(n=192)	22.9	9.9	57.3	54.7	16.1	7.8	17.2
	60～64歳(n=106)	19.8	11.3	54.7	50.9	17.0	4.7	17.9
	65～74歳(n=217)	26.7	8.3	60.4	40.1	19.8	2.8	18.0
	75歳以上(n=150)	20.7	16.7	53.3	28.7	20.0	2.7	16.0
%		身体的な負 担が少ない	経済的な負 担が少ない	条件を問わ ず参加した い	どのような 条件でも参 加はできな い	その他	無回答	
年齢	全体(n=967)	23.6	24.0	2.8	6.2	2.6	3.4	
	18～29歳(n=62)	9.7	25.8	1.6	1.6	1.6	3.2	
	30歳代(n=83)	12.0	21.7	6.0	7.2	3.6	4.8	
	40歳代(n=137)	20.4	26.3	4.4	3.6	5.8	0.7	
	50歳代(n=192)	23.4	31.8	2.1	6.3	-	1.6	
	60～64歳(n=106)	25.5	31.1	0.9	6.6	2.8	0.9	
	65～74歳(n=217)	30.9	20.3	1.4	7.4	1.8	2.3	
	75歳以上(n=150)	28.0	12.0	4.0	8.0	4.0	9.3	

(2) 地域とのつながりについて

問4 現在、どのような近所（徒歩5分程度の範囲）での付き合いをしていますか。 × 年齢
(単数回答)

全体では「あいさつや、さしさわりのない話を交わす程度」が55.0%と最も多く、次いで「日頃から親しく付き合い、困ったときは助け合っている」「地域のことなど、必要に応じて話をすることがある」が14.6%となっています。

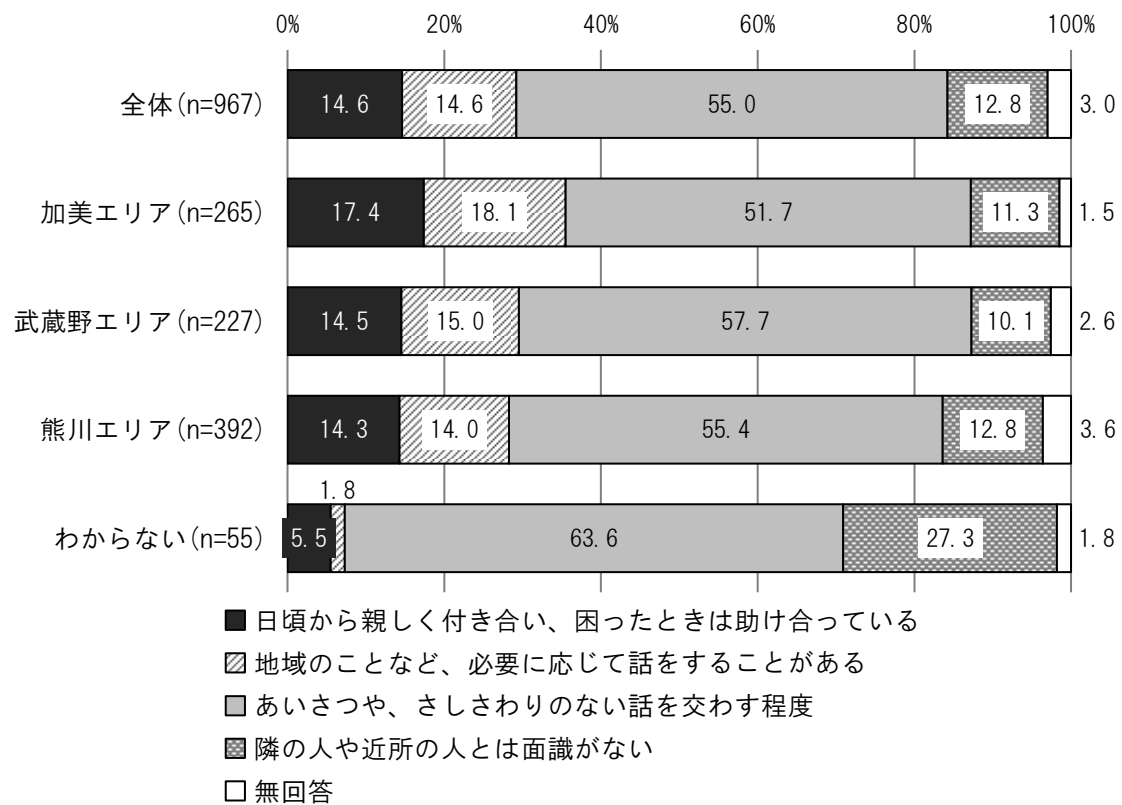
年齢別にみると、いずれも「あいさつや、さしさわりのない話を交わす程度」が最も多くなっています。また、年齢が上がるにつれて「日頃から親しく付き合い、困ったときは助け合っている」の割合が高く、「あいさつや、さしさわりのない話を交わす程度」「隣の人や近所の人とは面識がない」の割合が低くなる傾向にあります。



問4 現在、どのような近所（徒歩5分程度の範囲）での付き合いをしていますか。 ×地域
（単数回答）

地域別にみると、いずれも「あいさつや、さしさわりのない話を交わす程度」が最も多くなっています。

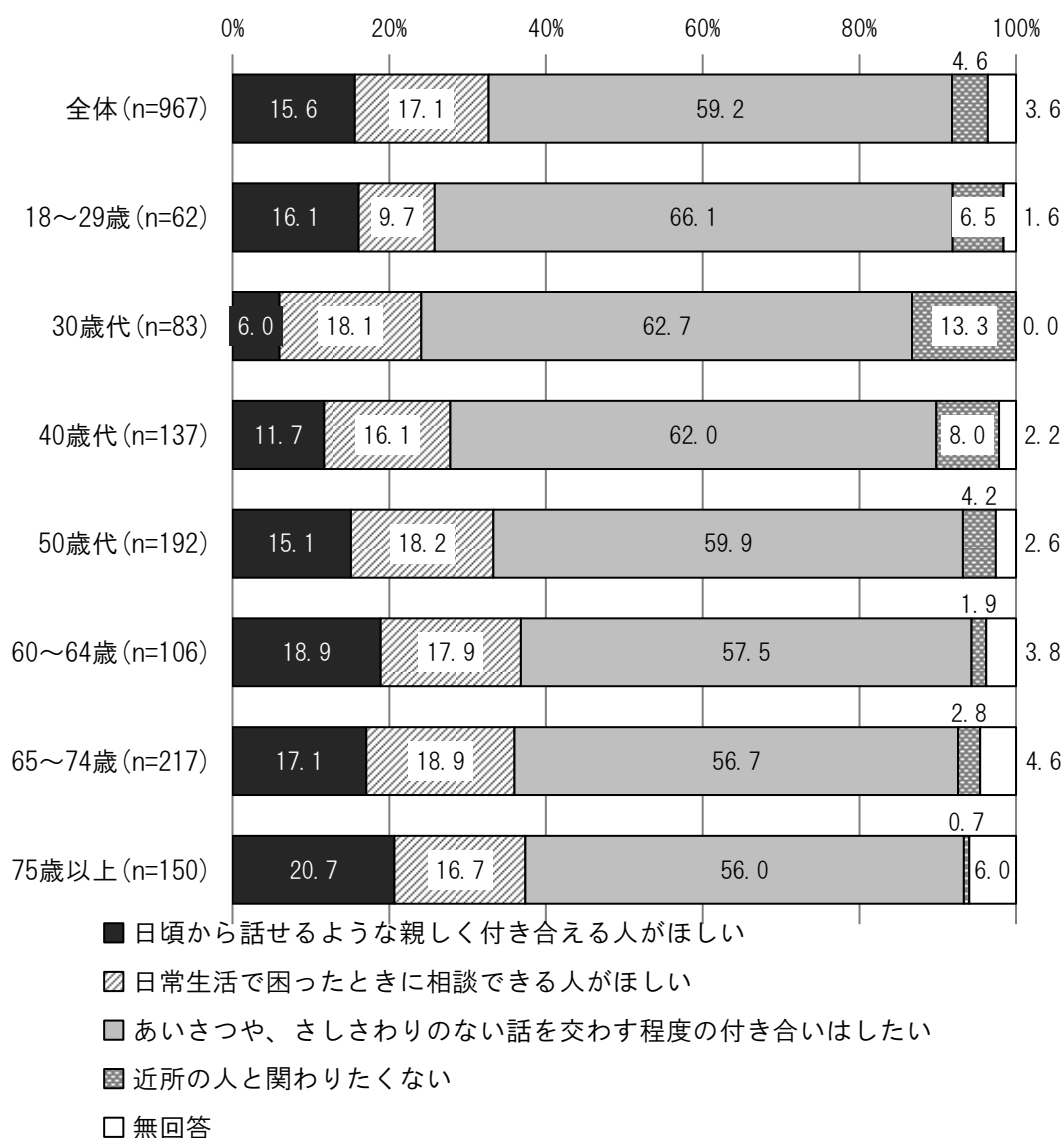
<わからない>では、次いで「隣の人や近所の人とは面識がない」が27.3%となっています。



問5 近所付き合いについて、今後どのようにしたいと思いますか。 × 年齢（単数回答）

全体では「あいさつや、さしさわりのない話を交わす程度の付き合いはしたい」が59.2%と最も多く、次いで「日常生活で困ったときに相談できる人がほしい」が17.1%、「日頃から話せるような親しく付き合える人がほしい」が15.6%となっています。

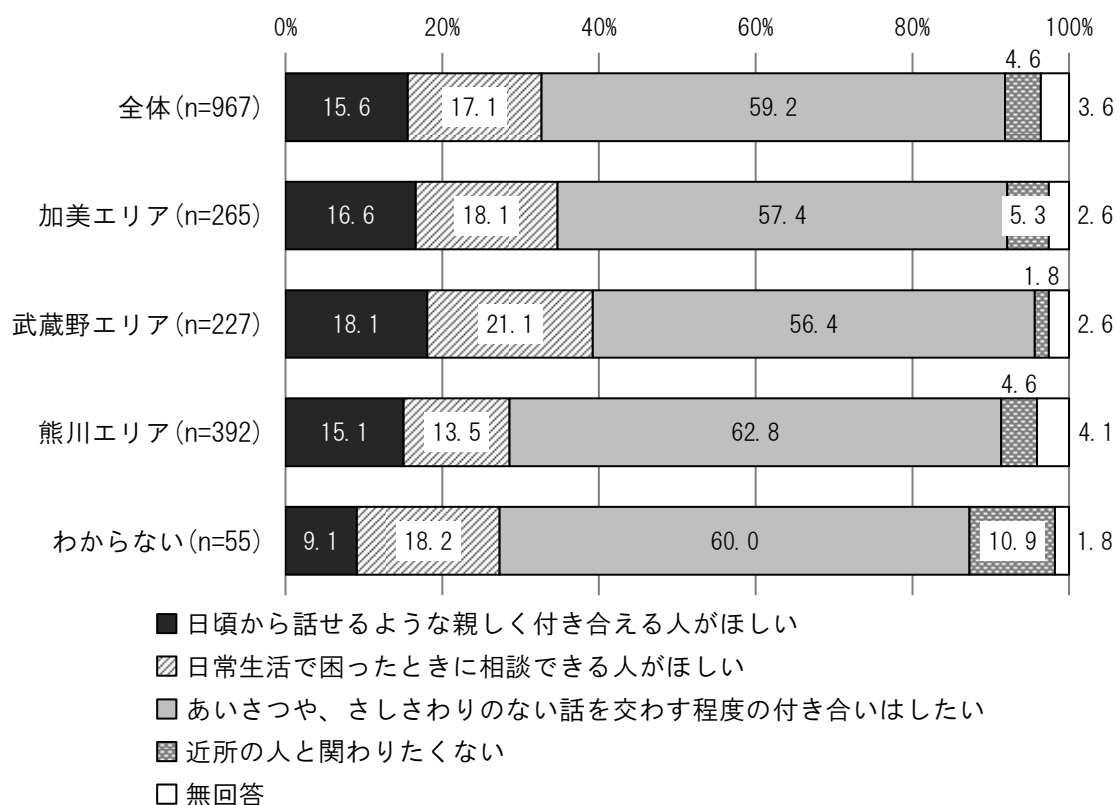
年齢別にみると、いずれも「あいさつや、さしさわりのない話を交わす程度の付き合いはしたい」が最も多くなっています。また、年齢が上がるにつれて「日頃から話せるような親しく付き合える人がほしい」の割合が高くなる傾向にあります。



問5 近所付き合いについて、今後どのようにしたいと思いますか。 × 地域（単数回答）

地域別にみると、いずれも「あいさつや、さしさわりのない話を交わす程度の付き合いはしたい」が最も多くなっています。

<熊川エリア>では、次いで「日頃から話せるような親しく付き合える人がほしい」が15.1%となっています。

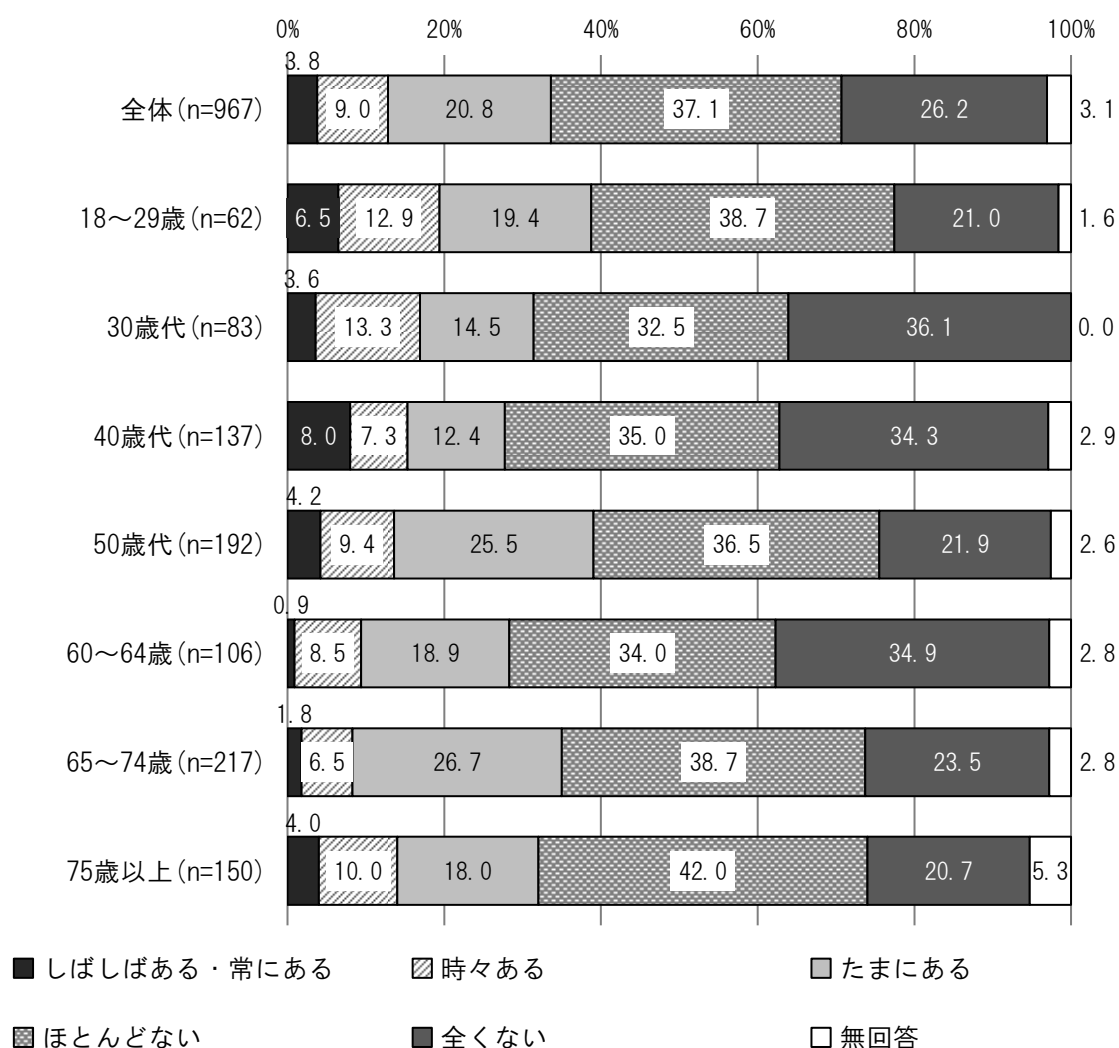


問6 あなたは、孤独であると感じることがありますか。 × 年齢

(単数回答)

全体では「ほとんどない」が37.1%と最も多く、次いで「全くない」が26.2%、「たまにある」が20.8%となっています。

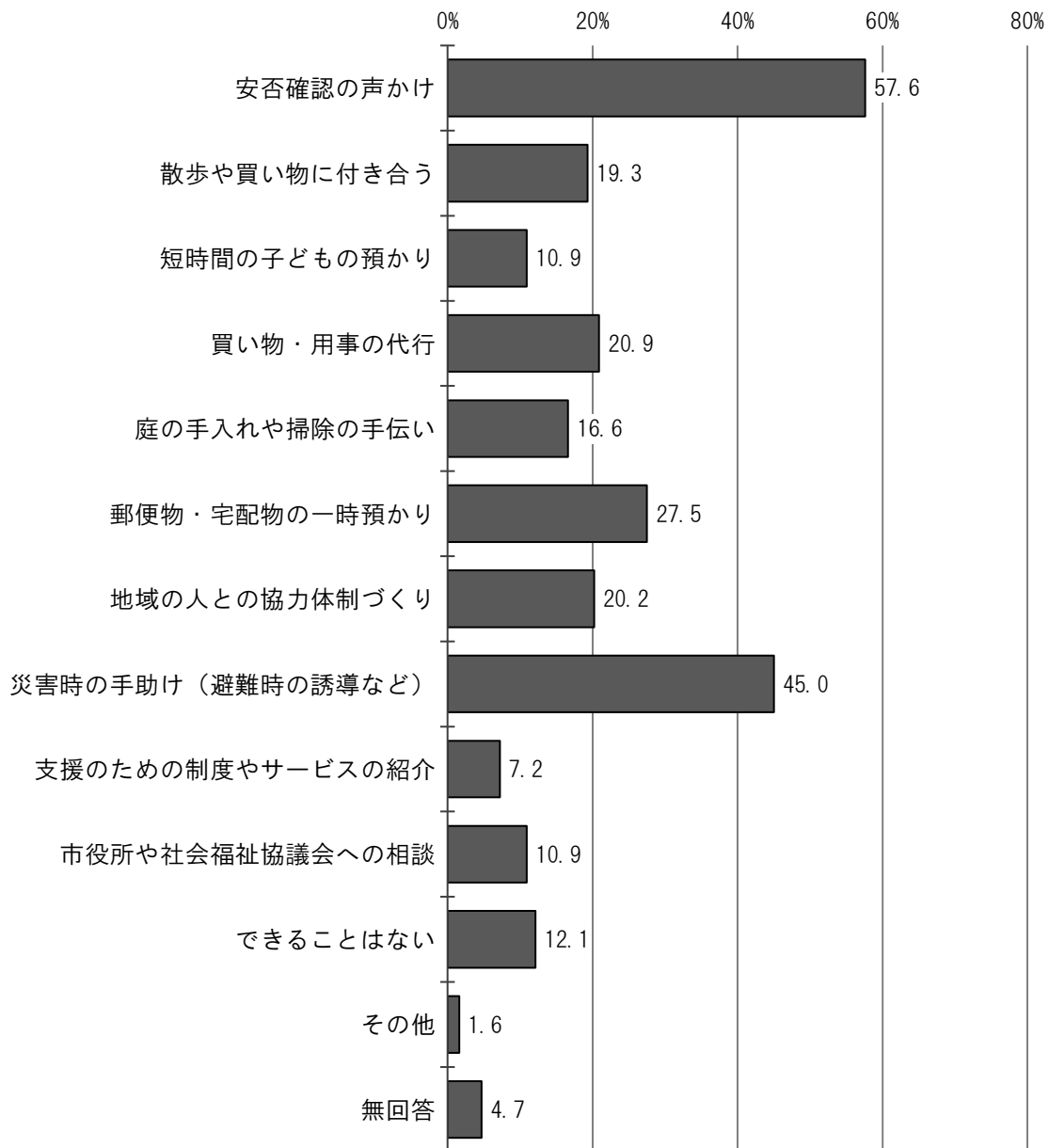
年齢別にみると、<40歳代>では、「しばしばある・常にある」が8.0%と他の年齢に比べてやや高くなっています。また、<18～29歳><50歳代>では、「しばしばある・常にある」「時々ある」「たまにある」の合計が4割弱となっています。



問7 あなたは、地域の人から頼まれた場合、自分から協力できることはありますか。（複数回答）

全体では「安否確認の声かけ」が57.6%と最も多く、次いで「災害時の手助け（避難時の誘導など）」が45.0%、「郵便物・宅配物の一時預かり」が27.5%となっています。

n=967



問7 あなたは、地域の人から頼まれた場合、自分から協力できることはありますか。 × 年齢（複数回答）

年齢別にみると、<30歳代>では、「安否確認の声かけ」「災害時の手助け（避難時の誘導など）」が49.4%と最も多く、そのほかの年齢でも「安否確認の声かけ」が最も多くなっています。

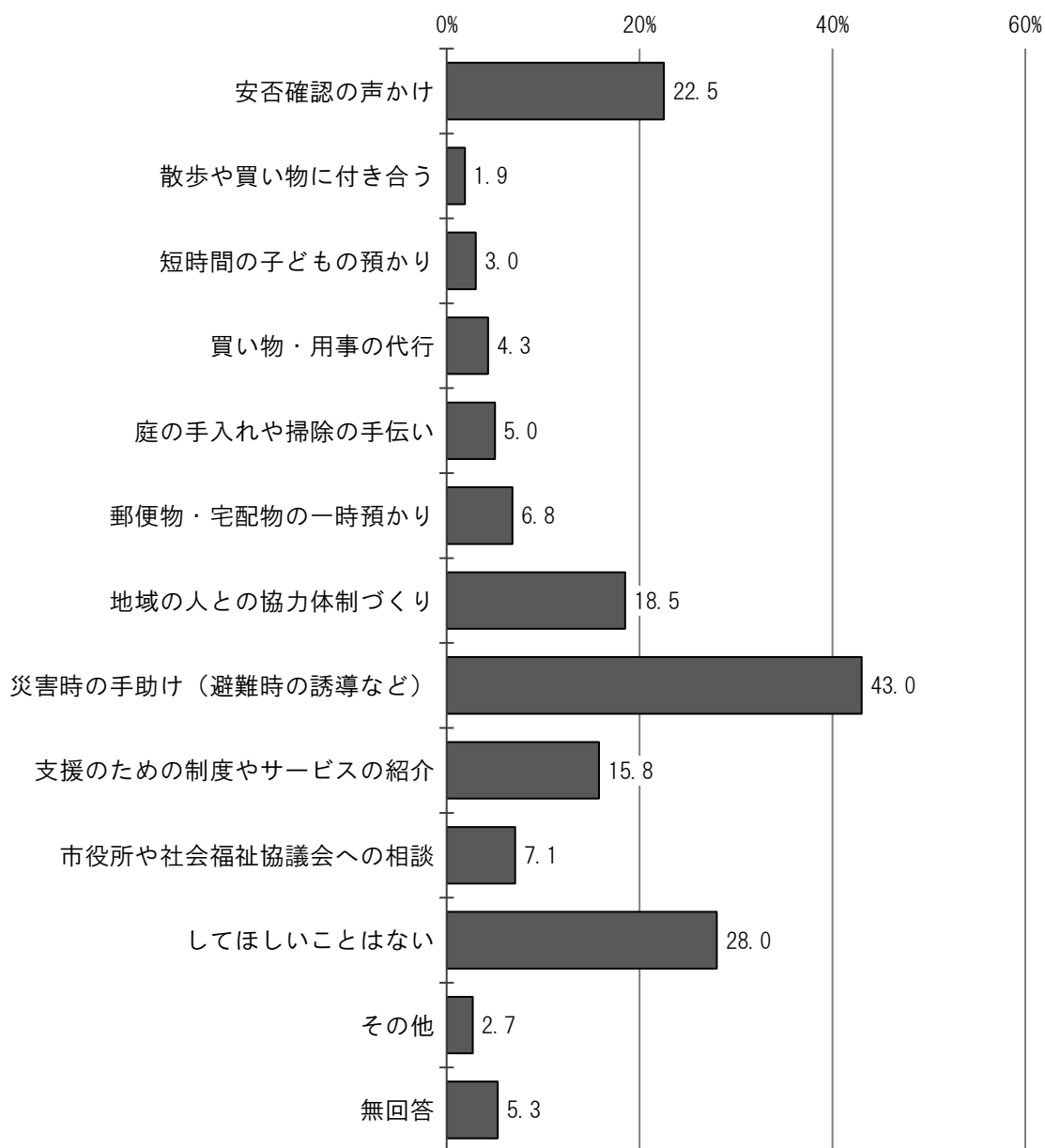
%		安否確認の 声かけ	散歩や買い 物に付き合 う	短時間の子 どもの預か り	買い物・用 事の代行	庭の手入れ や掃除の手 伝い	郵便物・宅 配物の一時 預かり	地域の人と の協力体制 づくり
年齢	全体(n=967)	57.6	19.3	10.9	20.9	16.6	27.5	20.2
	18～29歳(n=62)	53.2	16.1	16.1	21.0	14.5	25.8	16.1
	30歳代(n=83)	49.4	19.3	15.7	15.7	12.0	19.3	14.5
	40歳代(n=137)	56.9	19.7	17.5	27.0	16.8	30.7	21.9
	50歳代(n=192)	60.9	16.1	12.5	21.4	16.1	27.1	18.2
	60～64歳(n=106)	64.2	16.0	8.5	19.8	15.1	30.2	25.5
	65～74歳(n=217)	62.7	22.1	7.4	18.9	20.3	25.8	19.8
	75歳以上(n=150)	48.0	20.0	5.3	20.0	16.7	29.3	24.0
%		災害時の手 助け（避難 時の誘導な ど）	支援のため の制度や サービスの 紹介	市役所や社 会福祉協議 会への相談	できること はない	その他	無回答	
年齢	全体(n=967)	45.0	7.2	10.9	12.1	1.6	4.7	
	18～29歳(n=62)	50.0	6.5	6.5	14.5	1.6	3.2	
	30歳代(n=83)	49.4	4.8	4.8	18.1	-	-	
	40歳代(n=137)	53.3	8.0	11.7	11.7	2.2	2.2	
	50歳代(n=192)	52.1	6.8	10.9	9.4	0.5	4.2	
	60～64歳(n=106)	46.2	4.7	14.2	13.2	1.9	3.8	
	65～74歳(n=217)	39.6	5.1	7.8	10.6	0.9	5.1	
	75歳以上(n=150)	32.0	12.7	16.0	14.0	4.0	9.3	

問 8 あなたが地域の人にしてほしいと思うことはありますか。

(複数回答)

全体では「災害時の手助け（避難時の誘導など）」が43.0%と最も多く、次いで「してほしいことはない」が28.0%、「安否確認の声かけ」が22.5%となっています。

n=967



問8 あなたが地域の人にしてほしいと思うことはありますか。 × 年齢 (複数回答)

年齢別にみると、いずれも「災害時の手助け（避難時の誘導など）」が最も多くなっています。

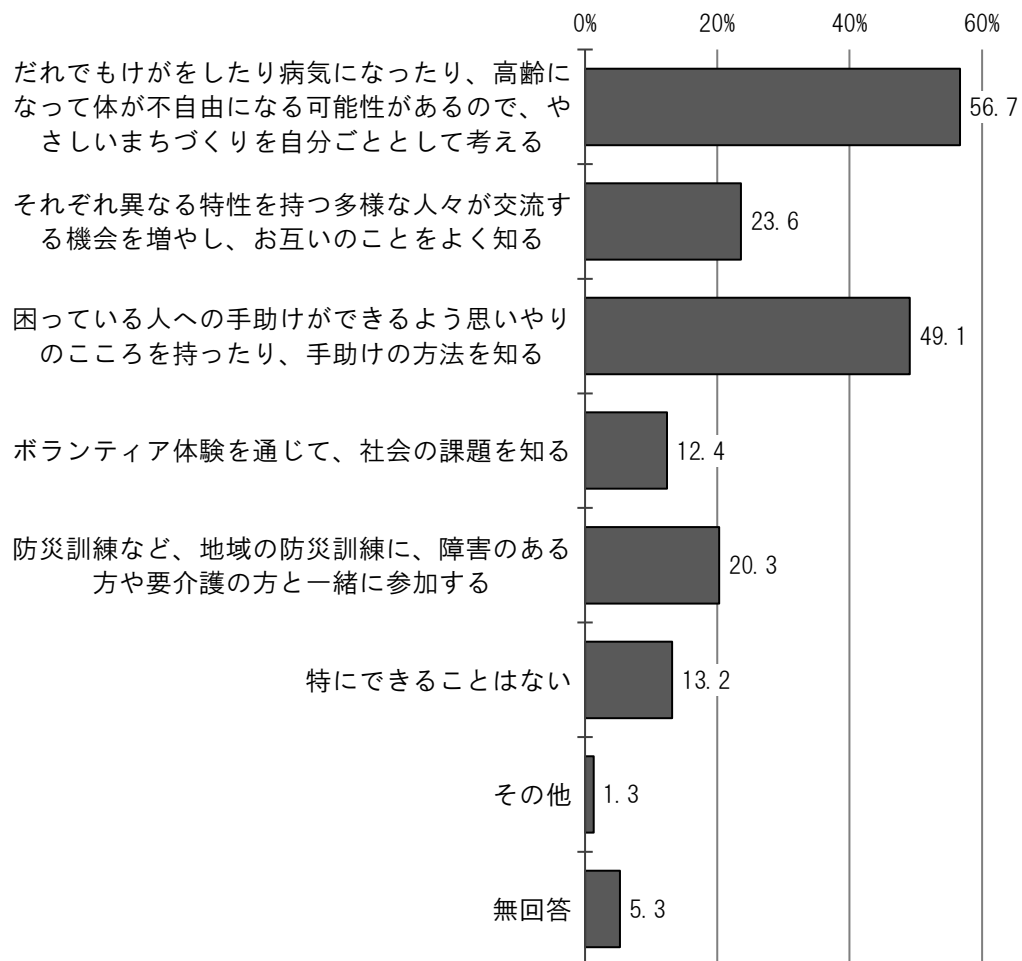
<50 歳代>では、次いで「安否確認の声かけ」が27.1%となっています。

%		安否確認の 声かけ	散歩や買い 物に付き合 う	短時間の子 どもの預か り	買い物・用 事の代行	庭の手入れ や掃除の手 伝い	郵便物・宅 配物の一時 預かり	地域の人と の協力体制 づくり
年齢	全体(n=967)	22.5	1.9	3.0	4.3	5.0	6.8	18.5
	18～29歳(n=62)	16.1	-	4.8	3.2	-	4.8	11.3
	30歳代(n=83)	19.3	1.2	10.8	3.6	6.0	7.2	9.6
	40歳代(n=137)	20.4	0.7	8.8	3.6	2.9	4.4	21.9
	50歳代(n=192)	27.1	0.5	0.5	3.1	5.7	7.8	15.6
	60～64歳(n=106)	18.9	1.9	0.9	3.8	4.7	6.6	18.9
	65～74歳(n=217)	23.0	1.8	0.5	6.5	5.5	6.9	20.7
	75歳以上(n=150)	24.7	4.0	0.7	4.7	6.7	7.3	23.3
%		災害時の手 助け（避難 時の誘導な ど）	支援のため の制度や サービスの 紹介	市役所や社 会福祉協議 会への相談	してほしい ことはない	その他	無回答	
年齢	全体(n=967)	43.0	15.8	7.1	28.0	2.7	5.3	
	18～29歳(n=62)	40.3	14.5	3.2	32.3	1.6	3.2	
	30歳代(n=83)	39.8	8.4	2.4	31.3	4.8	2.4	
	40歳代(n=137)	48.2	10.9	5.1	30.7	3.6	2.2	
	50歳代(n=192)	47.9	14.6	6.8	26.0	1.6	4.2	
	60～64歳(n=106)	45.3	15.1	5.7	26.4	4.7	4.7	
	65～74歳(n=217)	39.2	21.2	6.9	28.1	0.9	6.0	
	75歳以上(n=150)	39.3	19.3	14.0	24.7	4.0	10.0	

問 9 あなたは、福祉のまちづくりを進めるためにどのようなことができると思いますか。
(複数回答)

全体では「だれでもけがをしたり病気になったり、高齢になって体が不自由になる可能性があるので、やさしいまちづくりを自分ごととして考える」が 56.7%と最も多く、次いで「困っている人への手助けができるよう思いやりのところを持ったり、手助けの方法を知る」が 49.1%、「それぞれ異なる特性を持つ多様な人々が交流する機会を増やし、お互いのことをよく知る」が 23.6%となっています。

n=967



問 9 あなたは、福祉のまちづくりを進めるためにどのようなことができると思いますか。
× 年齢 （複数回答）

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「困っている人への手助けができるよう思いやりのこころを持ったり、手助けの方法を知る」が51.6%と最も多く、次いで「だれでもけがをしたり病気になったり、高齢になって体が不自由になる可能性があるので、やさしいまちづくりを自分ごととして考える」が41.9%となっています。

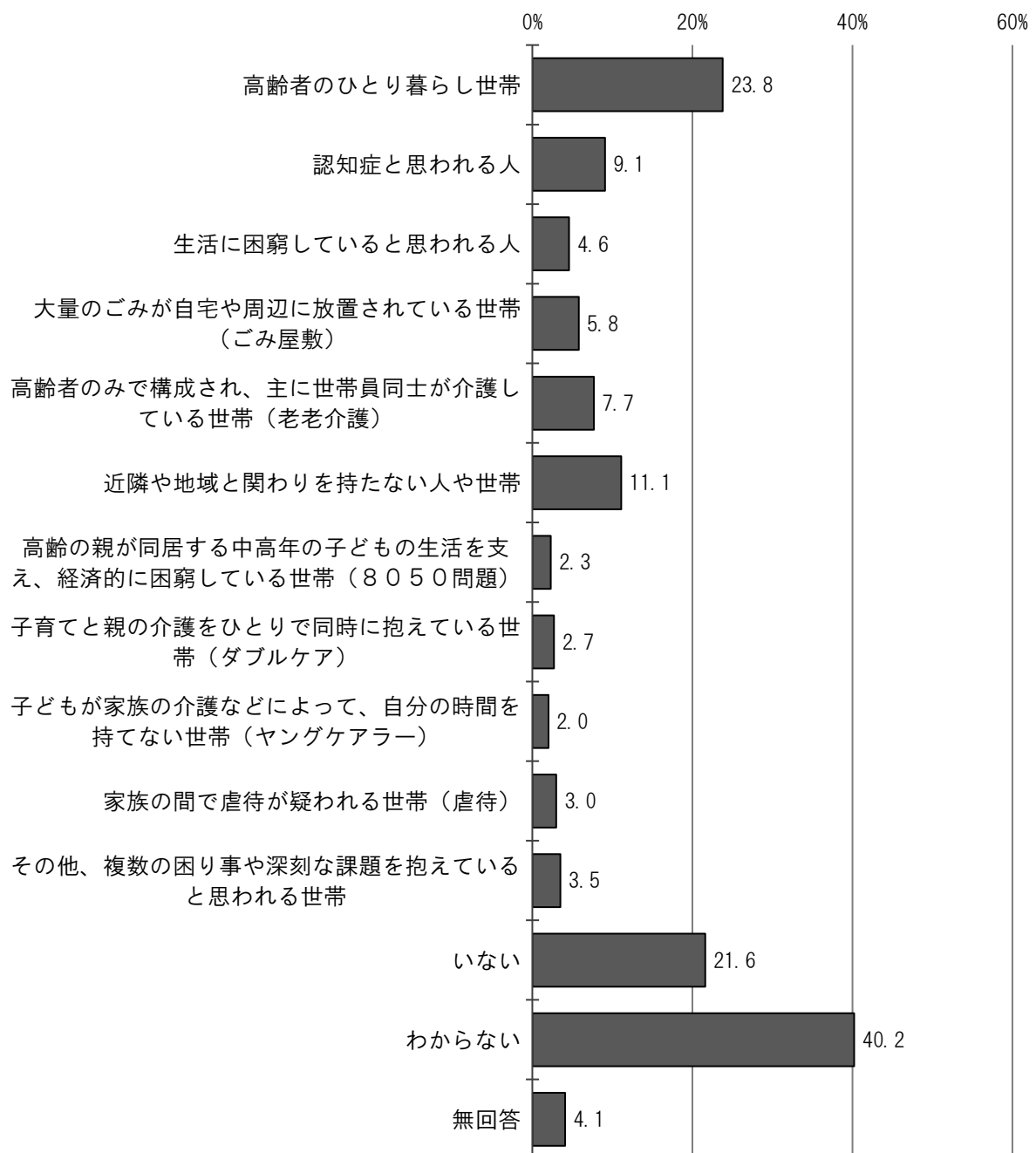
そのほかの年齢では、「だれでもけがをしたり病気になったり、高齢になって体が不自由になる可能性があるので、やさしいまちづくりを自分ごととして考える」が最も多くなっています。

%		だれでもけがをしたり病気になったり、高齢になって体が不自由になる可能性があるの で、やさしいまちづくりを自分ごととして考える	それぞれ異なる特性を持つ多様な人々が交流する機会を増やし、お互いのことをよく知る	困っている人への手助けができるよう思いやりのこころを持ったり、手助けの方法を知る	ボランティア体験を通じて、社会の課題を知る	防災訓練など、地域の防災訓練に、障害のある方や要介護の方と一緒に参加する	特にできることはない	その他
年齢	全体(n=967)	56.7	23.6	49.1	12.4	20.3	13.2	1.3
	18～29歳(n=62)	41.9	21.0	51.6	14.5	19.4	9.7	3.2
	30歳代(n=83)	47.0	28.9	41.0	9.6	20.5	14.5	1.2
	40歳代(n=137)	54.0	28.5	53.3	17.5	21.2	14.6	0.7
	50歳代(n=192)	57.3	28.1	55.7	12.5	22.4	9.9	2.1
	60～64歳(n=106)	61.3	17.0	44.3	10.4	25.5	14.2	1.9
	65～74歳(n=217)	64.1	21.2	51.6	12.4	17.5	12.4	-
	75歳以上(n=150)	57.3	19.3	41.3	10.7	18.7	18.7	2.0
%		無回答						
年齢	全体(n=967)	5.3						
	18～29歳(n=62)	3.2						
	30歳代(n=83)	1.2						
	40歳代(n=137)	2.9						
	50歳代(n=192)	3.6						
	60～64歳(n=106)	3.8						
	65～74歳(n=217)	6.0						
	75歳以上(n=150)	9.3						

問 10 ご自宅や近所に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますか。
(複数回答)

全体では「わからない」が 40.2%と最も多く、次いで「高齢者のひとり暮らし世帯」が 23.8%、「いない」が 21.6%となっています。

n=967



問 10 ご自宅や近所に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますか。 × 年齢 (複数回答)

年齢別にみると、いずれも「わからない」が最も多くなっています。

<18～29歳><30歳代><60～64歳><75歳以上>では、次いで「いない」となっています。

また、<40歳代>では「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）」が13.9%「近隣や地域と関わりを持たない人や世帯」が17.5%と他に比べて割合が高くなっています。

%		高齢者のひとり暮らし世帯	認知症と思われる人	生活に困窮していると思われる人	大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）	高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯（老老介護）	近隣や地域と関わりを持たない人や世帯	高齢の親が同居する中高年の子どもの生活を支え、経済的に困窮している世帯（8050問題）
年齢	全体(n=967)	23.8	9.1	4.6	5.8	7.7	11.1	2.3
	18～29歳(n=62)	19.4	12.9	3.2	3.2	8.1	6.5	1.6
	30歳代(n=83)	21.7	8.4	2.4	4.8	4.8	7.2	1.2
	40歳代(n=137)	23.4	5.8	8.0	13.9	7.3	17.5	4.4
	50歳代(n=192)	26.0	9.4	5.2	5.2	6.3	10.4	2.1
	60～64歳(n=106)	17.9	8.5	2.8	5.7	5.7	7.5	0.9
	65～74歳(n=217)	29.5	11.5	5.1	4.1	9.2	13.4	2.8
	75歳以上(n=150)	20.7	7.3	2.7	4.0	10.0	10.0	1.3
%		子育てと親の介護をひとりで同時に抱えている世帯（ダブルケア）	子どもが家族の介護などによって、自分の時間を持っていない世帯（ヤングケアラー）	家族の間で虐待が疑われる世帯（虐待）	その他、複数の困り事や深刻な課題を抱えていると思われる世帯	いない	わからない	無回答
年齢	全体(n=967)	2.7	2.0	3.0	3.5	21.6	40.2	4.1
	18～29歳(n=62)	4.8	3.2	8.1	-	22.6	50.0	3.2
	30歳代(n=83)	3.6	3.6	6.0	4.8	22.9	39.8	1.2
	40歳代(n=137)	6.6	3.6	5.1	6.6	15.3	38.0	2.9
	50歳代(n=192)	3.1	2.1	4.7	2.6	17.7	47.4	2.1
	60～64歳(n=106)	0.9	1.9	-	-	22.6	40.6	3.8
	65～74歳(n=217)	1.4	1.4	0.5	3.7	24.4	35.9	3.7
	75歳以上(n=150)	0.7	-	1.3	4.7	27.3	36.0	8.7

問 10 ご自宅や近所に、次のような見守りなどの支援が必要な人や世帯、何らかの深刻な問題を抱えていると思われる人や世帯はありますか。 × 地域 (複数回答)

地域別にみると、概ね全体と同様の傾向になっています。

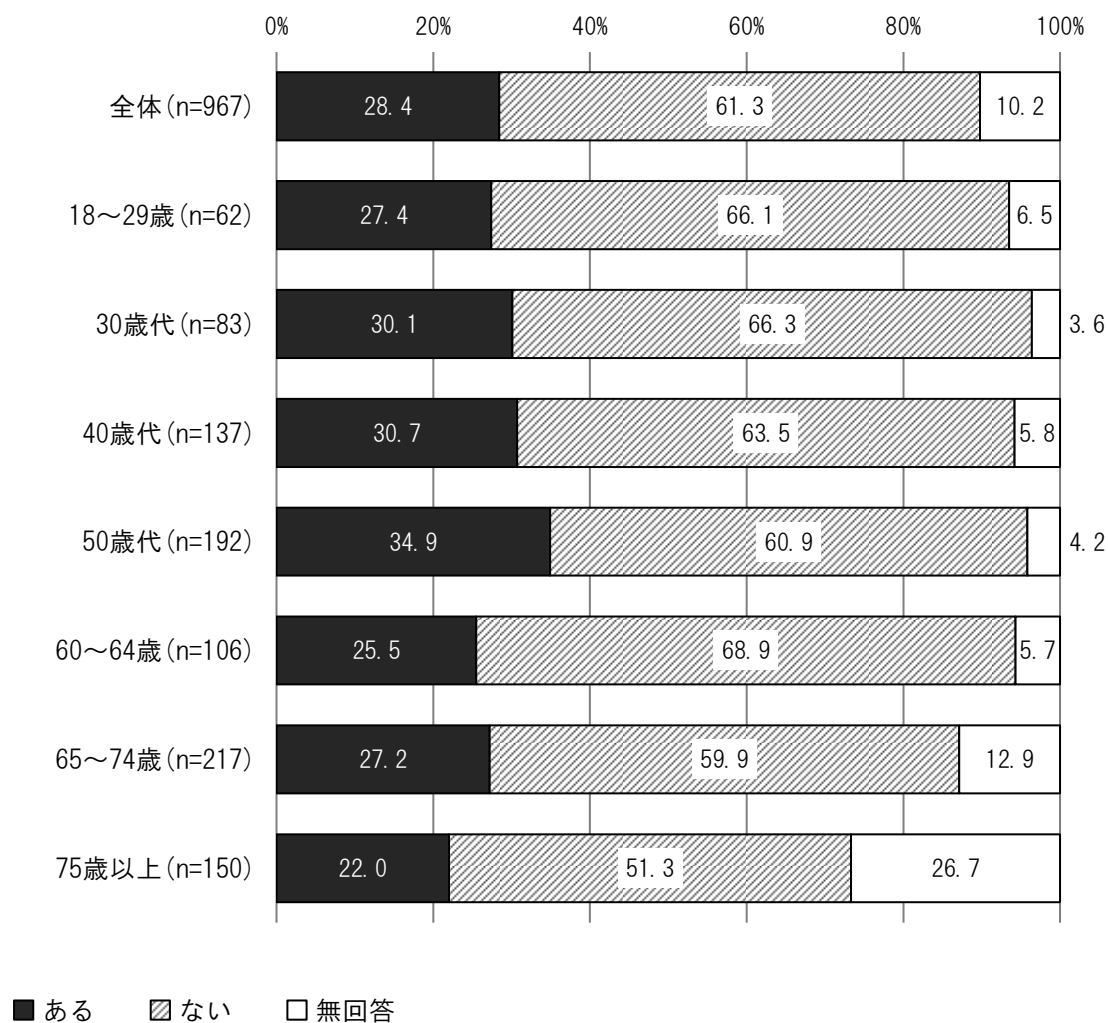
%		高齢者のひとり暮らし世帯	認知症と思われる人	生活に困窮していると思われる人	大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）	高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯（老老介護）	近隣や地域と関わりを持たない人や世帯	高齢の親が同居する中高年の子どもの生活を支え、経済的に困窮している世帯（8050問題）
地域	全体(n=967)	 23.8	 9.1	 4.6	 5.8	 7.7	 11.1	 2.3
	加美エリア(n=265)	 23.0	 8.7	 3.4	 4.9	 8.3	 10.6	 1.9
	武蔵野エリア(n=227)	 22.5	 10.1	 3.5	 5.3	 7.0	 11.9	 0.9
	熊川エリア(n=392)	 27.6	 9.4	 6.4	 7.7	 7.9	 11.7	 3.6
	わからない(n=55)	 12.7	 3.6	 1.8	 1.8	 5.5	 7.3	 -
%		子育てと親の介護をひとりで同時に抱えている世帯（ダブルケア）	子どもが家族の介護などによって、自分の時間を持っていない世帯（ヤングケアラー）	家族の間で虐待が疑われる世帯（虐待）	その他、複数の困り事や深刻な課題を抱えていると思われる世帯	いない	わからない	無回答
地域	全体(n=967)	 2.7	 2.0	 3.0	 3.5	 21.6	 40.2	 4.1
	加美エリア(n=265)	 3.0	 1.9	 3.0	 3.4	 24.2	 41.5	 2.6
	武蔵野エリア(n=227)	 1.8	 0.9	 2.2	 2.6	 24.2	 39.6	 3.1
	熊川エリア(n=392)	 3.3	 2.8	 3.6	 3.8	 19.6	 38.0	 4.3
	わからない(n=55)	 1.8	 1.8	 3.6	 3.6	 18.2	 52.7	 3.6

(3) 暮らしの困りごとについて

問 11 あなたは今の生活において困っていることはありますか。 × 年齢 (単数回答)

全体では「ない」が61.3%、「ある」が28.4%となっています。

年齢別にみると、<30 歳代><40 歳代><50 歳代>では、「ある」が3割台となっています。

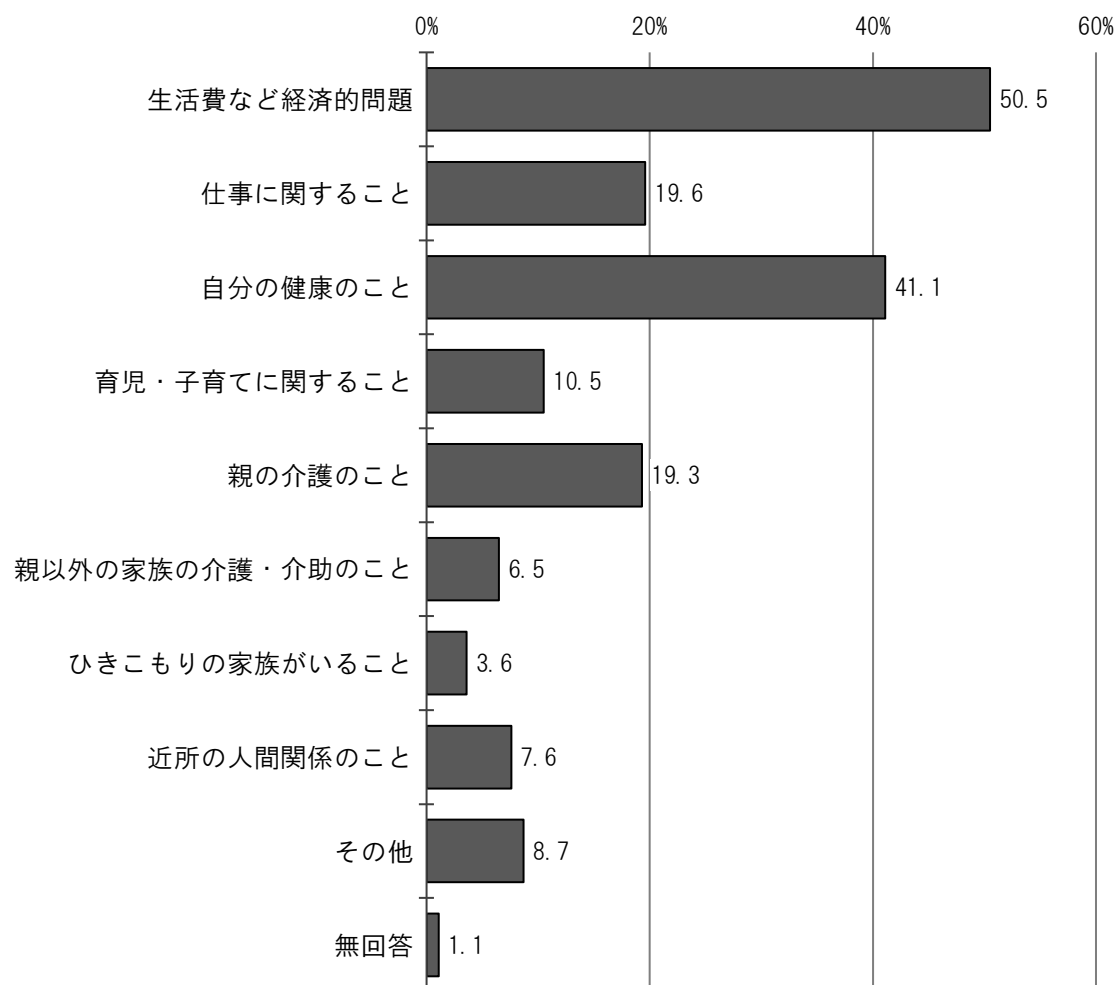


問 11-1 問 11 で「ある」を選んだ方
どんなことに困っていますか。

(複数回答)

全体では「生活費など経済的問題」が 50.5%と最も多く、次いで「自分の健康のこと」が 41.1%、「仕事に関すること」が 19.6%となっています。

n=275



問 11-1 どんなことに困っていますか。 × 年齢

(複数回答)

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「生活費など経済的問題」が 70.6%と最も多く、次いで「仕事に関すること」が 41.2%となっています。

<30 歳代>では、「生活費など経済的問題」が 56.0%と最も多く、次いで「自分の健康のこと」が 44.0%となっています。

<40 歳代>では、「生活費など経済的問題」が 69.0%と最も多く、次いで「仕事に関すること」が 28.6%となっています。

<50 歳代>では、「生活費など経済的問題」が 47.8%と最も多く、次いで「自分の健康のこと」が 38.8%となっています。

<60～64 歳>では、「生活費など経済的問題」が 37.0%と最も多く、次いで「親の介護のこと」が 33.3%となっています。

<65～74 歳>では、「自分の健康のこと」が 57.6%と最も多く、次いで「生活費など経済的問題」が 47.5%となっています。

<75 歳以上>では、「自分の健康のこと」が 57.6%と最も多く、次いで「生活費など経済的問題」が 33.3%となっています。

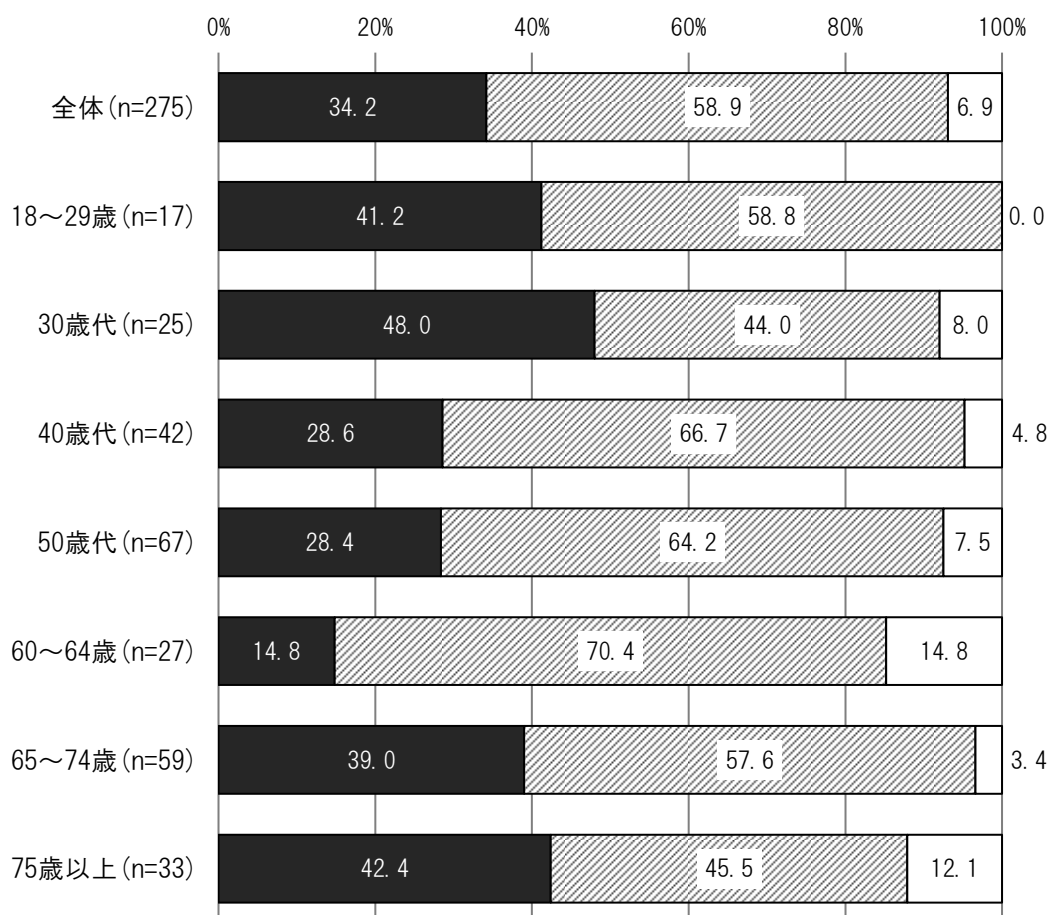
%		生活費など 経済的問題	仕事に関す ること	自分の健康 のこと	育児・子育 てに関する こと	親の介護の こと	親以外の家 族の介護・ 介助のこと	ひきこもり の家族がい ること
年齢	全体(n=275)	50.5	19.6	41.1	10.5	19.3	6.5	3.6
	18～29歳(n=17)	70.6	41.2	29.4	17.6	11.8	-	-
	30歳代(n=25)	56.0	32.0	44.0	40.0	8.0	8.0	8.0
	40歳代(n=42)	69.0	28.6	23.8	19.0	19.0	-	2.4
	50歳代(n=67)	47.8	17.9	38.8	11.9	37.3	6.0	1.5
	60～64歳(n=27)	37.0	11.1	22.2	-	33.3	11.1	3.7
	65～74歳(n=59)	47.5	11.9	57.6	-	10.2	11.9	5.1
	75歳以上(n=33)	33.3	12.1	57.6	-	-	6.1	6.1
%		近所の人間 関係のこと	その他	無回答				
年齢	全体(n=275)	7.6	8.7	1.1				
	18～29歳(n=17)	-	5.9	-				
	30歳代(n=25)	12.0	-	-				
	40歳代(n=42)	7.1	9.5	-				
	50歳代(n=67)	6.0	13.4	-				
	60～64歳(n=27)	3.7	18.5	-				
	65～74歳(n=59)	6.8	6.8	3.4				
	75歳以上(n=33)	18.2	3.0	3.0				

問 11-2 問 11 で「ある」を選んだ方

困っていることについて、現在、どこか（誰か）に相談をしていますか。 × 年齢
(単数回答)

全体では「していない」が 58.9%、「している」が 34.2%となっています。

年齢別にみると、<30 歳代>では、「している」が「していない」を上回っています。また、<60～64 歳>では、「している」が 14.8%となっています。



■ している ▨ していない □ 無回答

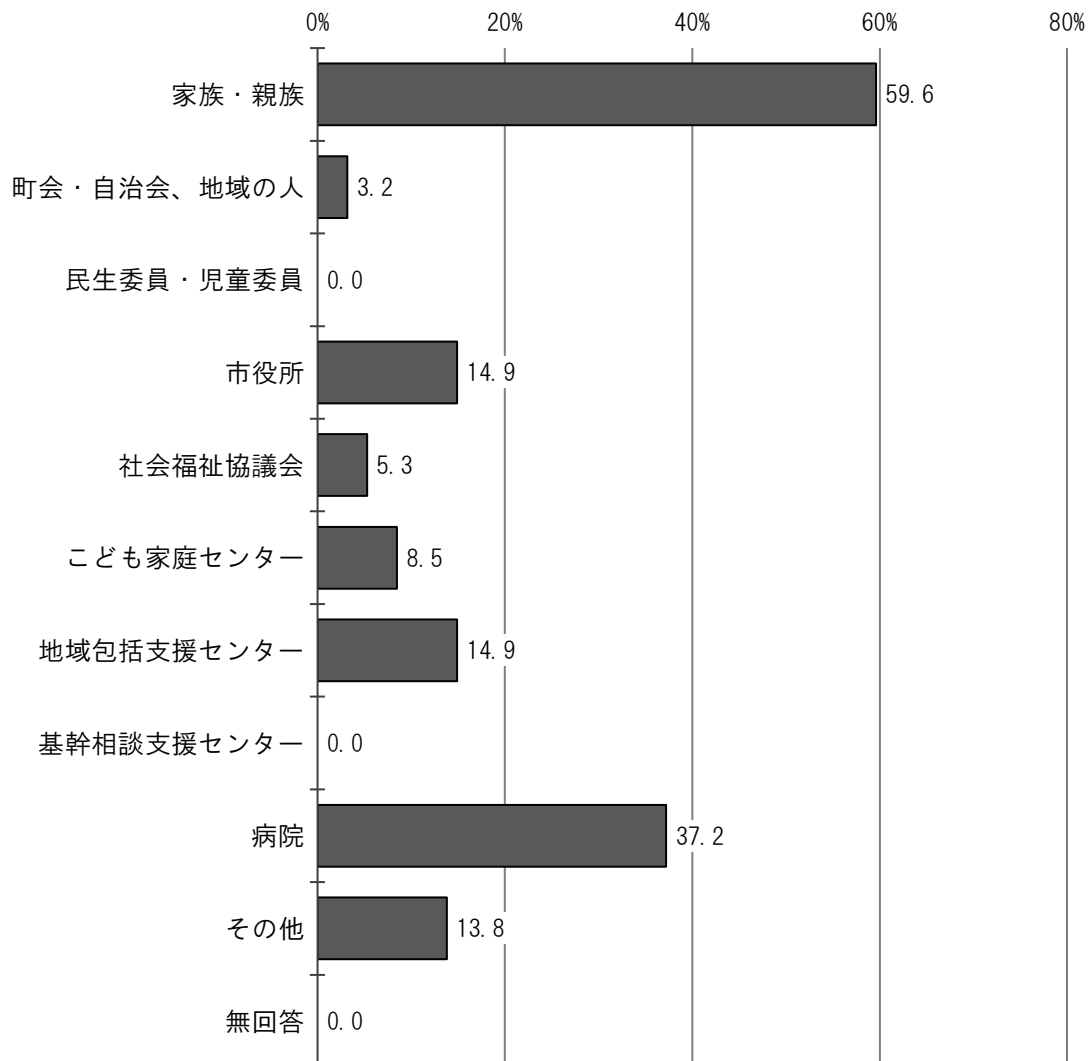
問 11-3 問 11-2 で「している」を選んだ方

現在、どこに（誰に）相談をしていますか。

（複数回答）

全体では「家族・親族」が 59.6%と最も多く、次いで「病院」が 37.2%、「市役所」「地域包括支援センター」が 14.9%となっています。

n=94



問 11-3 現在、どこに（誰に）相談をしていますか。 × 年齢

（複数回答）

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「家族・親族」が 71.4%と最も多く、次いで「社会福祉協議会」「こども家庭センター」「病院」が 14.3%となっています。

<30 歳代>では、「家族・親族」が 66.7%と最も多く、次いで「こども家庭センター」が 33.3%となっています。

<40 歳代>では、「家族・親族」が 91.7%と最も多く、次いで「病院」が 41.7%となっています。

<50 歳代>では、「家族・親族」が 68.4%と最も多く、次いで「地域包括支援センター」「病院」が 31.6%となっています。

<60～64 歳>では、「家族・親族」が 50.0%と最も多く、次いで「病院」「その他」が 25.0%となっています。

<65～74 歳>では、「家族・親族」が 52.2%と最も多く、次いで「病院」が 39.1%となっています。

<75 歳以上>では、「病院」が 64.3%と最も多く、次いで「家族・親族」「地域包括支援センター」が 28.6%となっています。

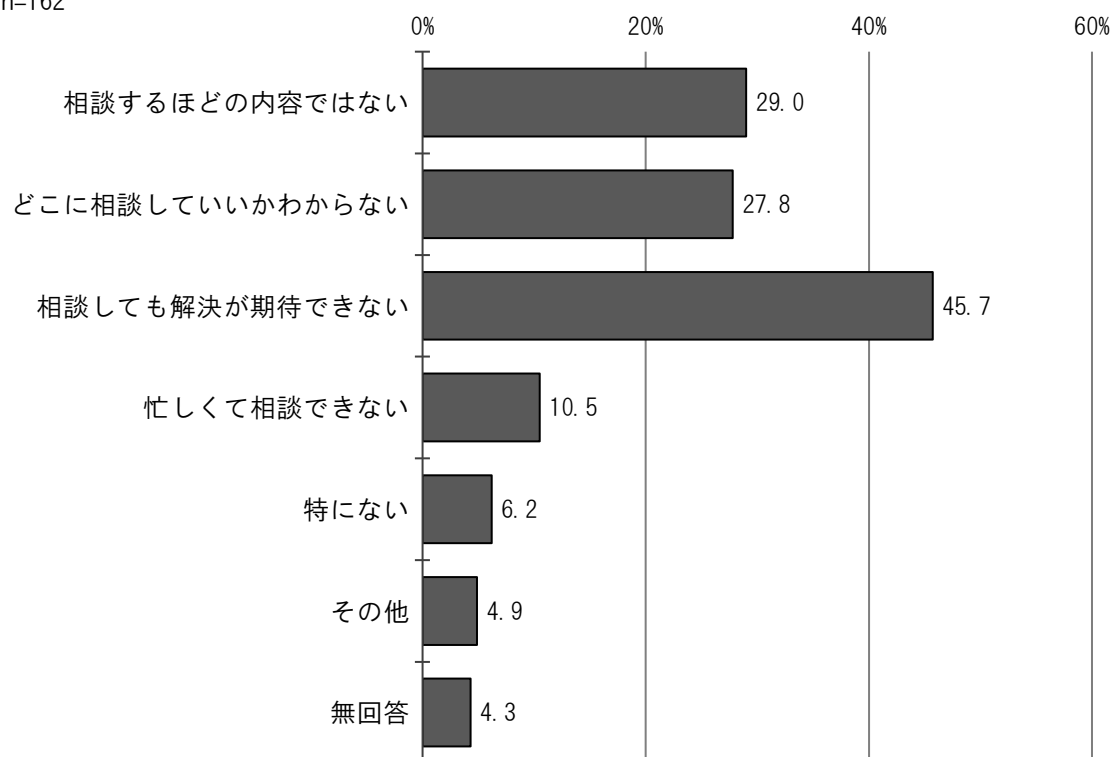
%		家族・親族	町会・自治会、地域の 人	民生委員・ 児童委員	市役所	社会福祉協 議会	こども家庭 センター	地域包括支 援センター
年齢	全体(n=94)	59.6	3.2	-	14.9	5.3	8.5	14.9
	18～29歳(n=7)	71.4	-	-	-	14.3	14.3	-
	30歳代(n=12)	66.7	8.3	-	16.7	8.3	33.3	8.3
	40歳代(n=12)	91.7	16.7	-	25.0	8.3	16.7	-
	50歳代(n=19)	68.4	-	-	10.5	-	5.3	31.6
	60～64歳(n=4)	50.0	-	-	-	-	-	-
	65～74歳(n=23)	52.2	-	-	26.1	-	-	13.0
	75歳以上(n=14)	28.6	-	-	7.1	14.3	-	28.6
%		基幹相談支 援センター	病院	その他	無回答			
年齢	全体(n=94)	-	37.2	13.8	-			
	18～29歳(n=7)	-	14.3	-	-			
	30歳代(n=12)	-	8.3	8.3	-			
	40歳代(n=12)	-	41.7	25.0	-			
	50歳代(n=19)	-	31.6	10.5	-			
	60～64歳(n=4)	-	25.0	25.0	-			
	65～74歳(n=23)	-	39.1	21.7	-			
	75歳以上(n=14)	-	64.3	7.1	-			

問 11-4 問 11-2 で「していない」を選んだ方
相談をしていない理由を教えてください。

(複数回答)

全体では「相談しても解決が期待できない」が 45.7%と最も多く、次いで「相談するほどの内容ではない」が 29.0%、「どこに相談していいかわからない」が 27.8%となっています。

n=162



問 11-4 相談をしていない理由を教えてください。 × 年齢

(複数回答)

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「相談しても解決が期待できない」が 50.0%と最も多く、次いで「相談するほどの内容ではない」「どこに相談していいかわからない」が 40.0%となっています。

<30 歳代>では、「どこに相談していいかわからない」「相談しても解決が期待できない」が 45.5%と最も多く、次いで「相談するほどの内容ではない」が 27.3%となっています。

<40 歳代>では、「相談しても解決が期待できない」が 39.3%と最も多く、次いで「相談するほどの内容ではない」が 35.7%となっています。

<50 歳代>では、「相談しても解決が期待できない」が 55.8%と最も多く、次いで「どこに相談していいかわからない」が 32.6%となっています。

<60～64 歳>では、「相談するほどの内容ではない」が 26.3%と最も多く、次いで「相談しても解決が期待できない」「忙しくて相談できない」が 21.1%となっています。

<65～74 歳>では、「相談しても解決が期待できない」が 55.9%と最も多く、次いで「相談するほどの内容ではない」が 23.5%となっています。

<75 歳以上>では、「相談するほどの内容ではない」が 40.0%と最も多く、次いで「どこに相談していいかわからない」「相談しても解決が期待できない」が 33.3%となっています。

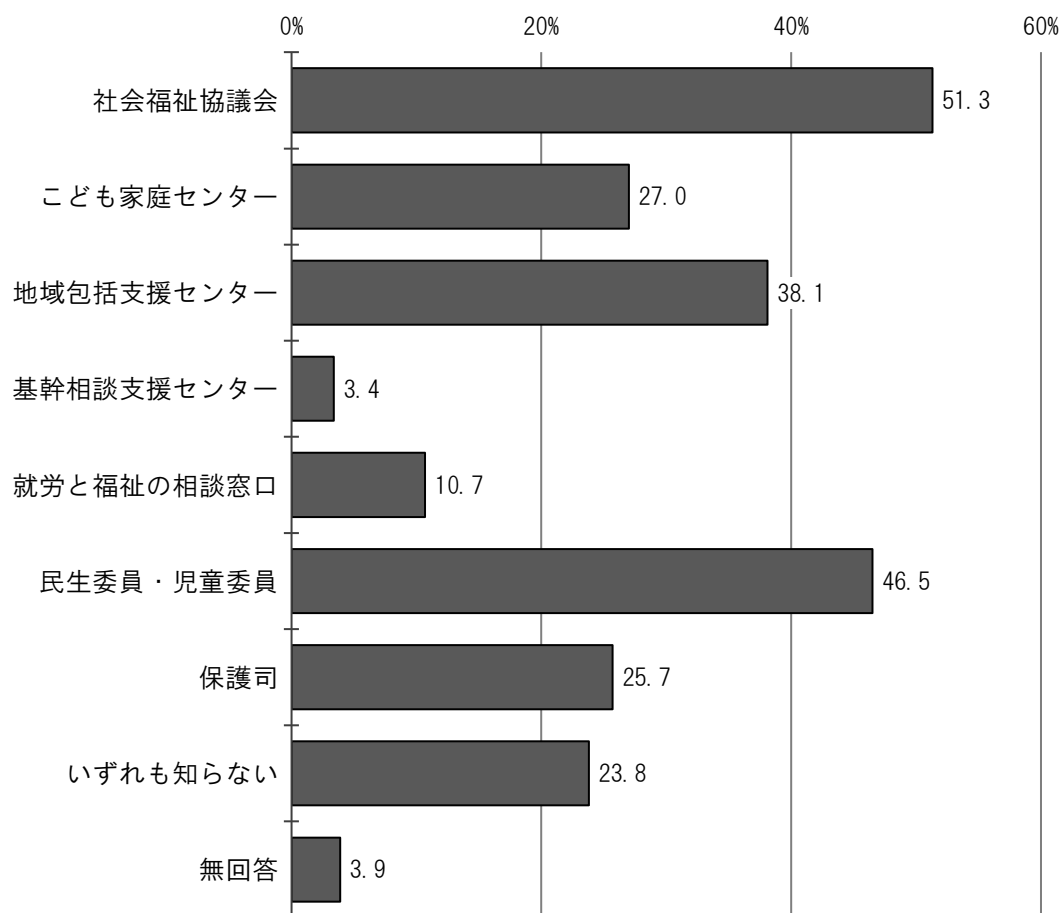
%		相談するほどの内容ではない	どこに相談していいかわからない	相談しても解決が期待できない	忙しくて相談できない	特にない	その他	無回答
年齢	全体(n=162)	29.0	27.8	45.7	10.5	6.2	4.9	4.3
	18～29歳(n=10)	40.0	40.0	50.0	10.0	-	10.0	-
	30歳代(n=11)	27.3	45.5	45.5	9.1	-	9.1	-
	40歳代(n=28)	35.7	32.1	39.3	7.1	14.3	3.6	-
	50歳代(n=43)	23.3	32.6	55.8	16.3	2.3	7.0	2.3
	60～64歳(n=19)	26.3	10.5	21.1	21.1	15.8	-	15.8
	65～74歳(n=34)	23.5	17.6	55.9	5.9	2.9	5.9	5.9
	75歳以上(n=15)	40.0	33.3	33.3	-	6.7	-	6.7

問 12 次の地域福祉に関する活動や組織について知っていますか。

(複数回答)

全体では「社会福祉協議会」が 51.3%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員」が 46.5%、「地域包括支援センター」が 38.1%となっています。

n=967



問 12 次の地域福祉に関する活動や組織について知っていますか。 × 年齢 （複数回答）

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「いずれも知らない」が41.9%と最も多く、次いで「こども家庭センター」が37.1%となっています。

<30 歳代>では、「こども家庭センター」が47.0%と最も多く、次いで「社会福祉協議会」が34.9%となっています。

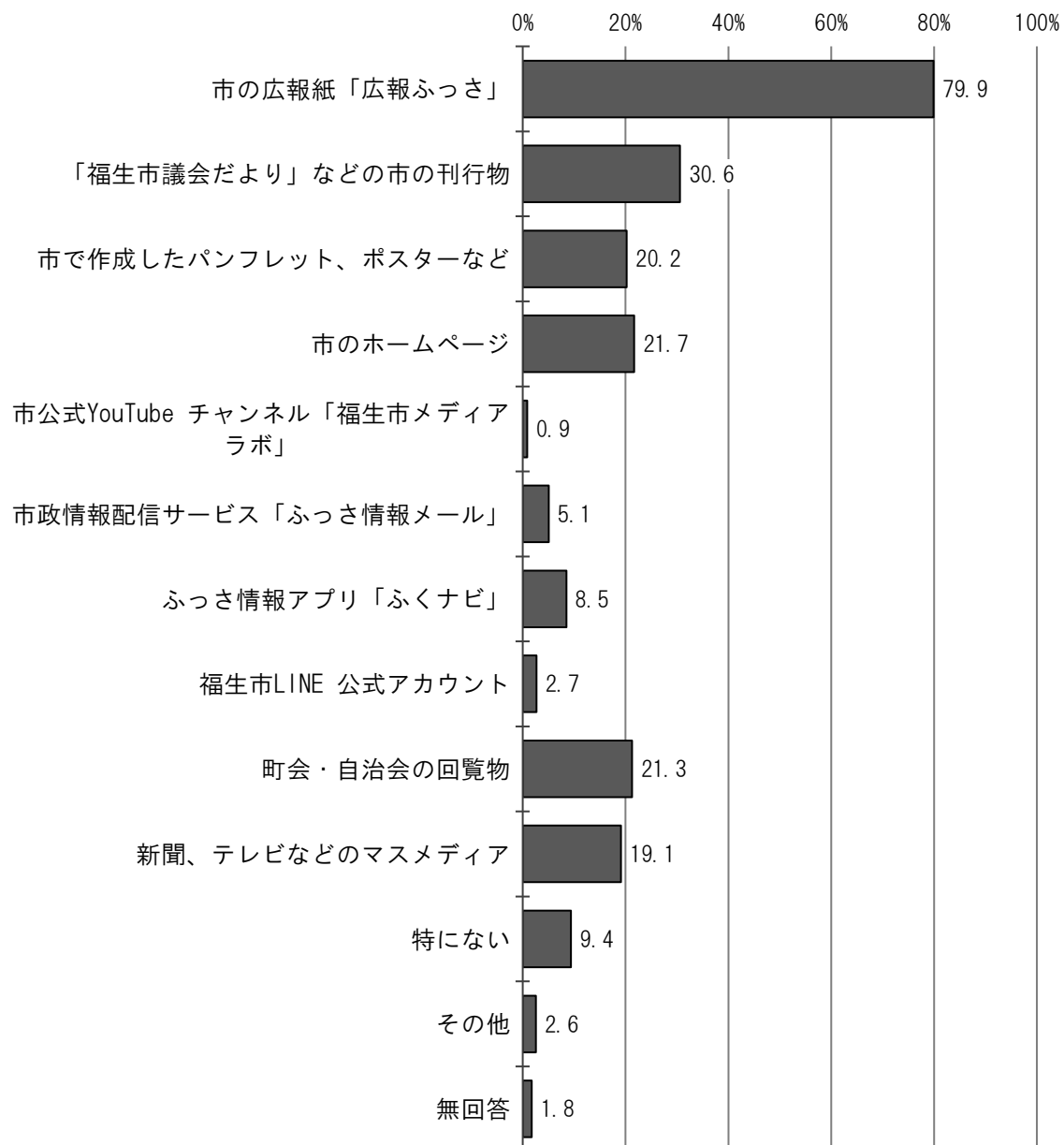
%		社会福祉協議会	こども家庭センター	地域包括支援センター	基幹相談支援センター	就労と福祉の相談窓口	民生委員・児童委員	保護司
年齢	全体(n=967)	 51.3	 27.0	 38.1	 3.4	 10.7	 46.5	 25.7
	18～29歳(n=62)	 29.0	 37.1	 25.8	 1.6	 14.5	 22.6	 12.9
	30歳代(n=83)	 34.9	 47.0	 25.3	 2.4	 13.3	 25.3	 18.1
	40歳代(n=137)	 43.1	 39.4	 27.7	 2.2	 11.7	 41.6	 17.5
	50歳代(n=192)	 48.4	 30.7	 41.1	 4.7	 9.9	 46.4	 25.5
	60～64歳(n=106)	 62.3	 20.8	 45.3	 4.7	 9.4	 61.3	 32.1
	65～74歳(n=217)	 59.4	 16.6	 43.3	 4.1	 12.0	 51.2	 31.3
	75歳以上(n=150)	 61.3	 15.3	 42.0	 2.7	 7.3	 55.3	 29.3
%		いずれも知らない	無回答					
年齢	全体(n=967)	 23.8	3.9					
	18～29歳(n=62)	 41.9	3.2					
	30歳代(n=83)	 32.5	-					
	40歳代(n=137)	 28.5	1.5					
	50歳代(n=192)	 26.6	1.6					
	60～64歳(n=106)	 17.9	1.9					
	65～74歳(n=217)	 22.6	4.6					
	75歳以上(n=150)	 10.0	12.0					

（４）福祉情報について

問 13 福祉に関する情報はどこから得ていますか（得ようと思いますか）。 （複数回答）

全体では「市の広報紙「広報ふっさ」」が 79.9%と最も多く、次いで「「福生市議会だより」などの市の刊行物」が 30.6%、「市のホームページ」が 21.7%となっています。

n=967



問 13 福祉に関する情報はどこから得ていますか（得ようと思いますか）。 × 年齢（複数回答）

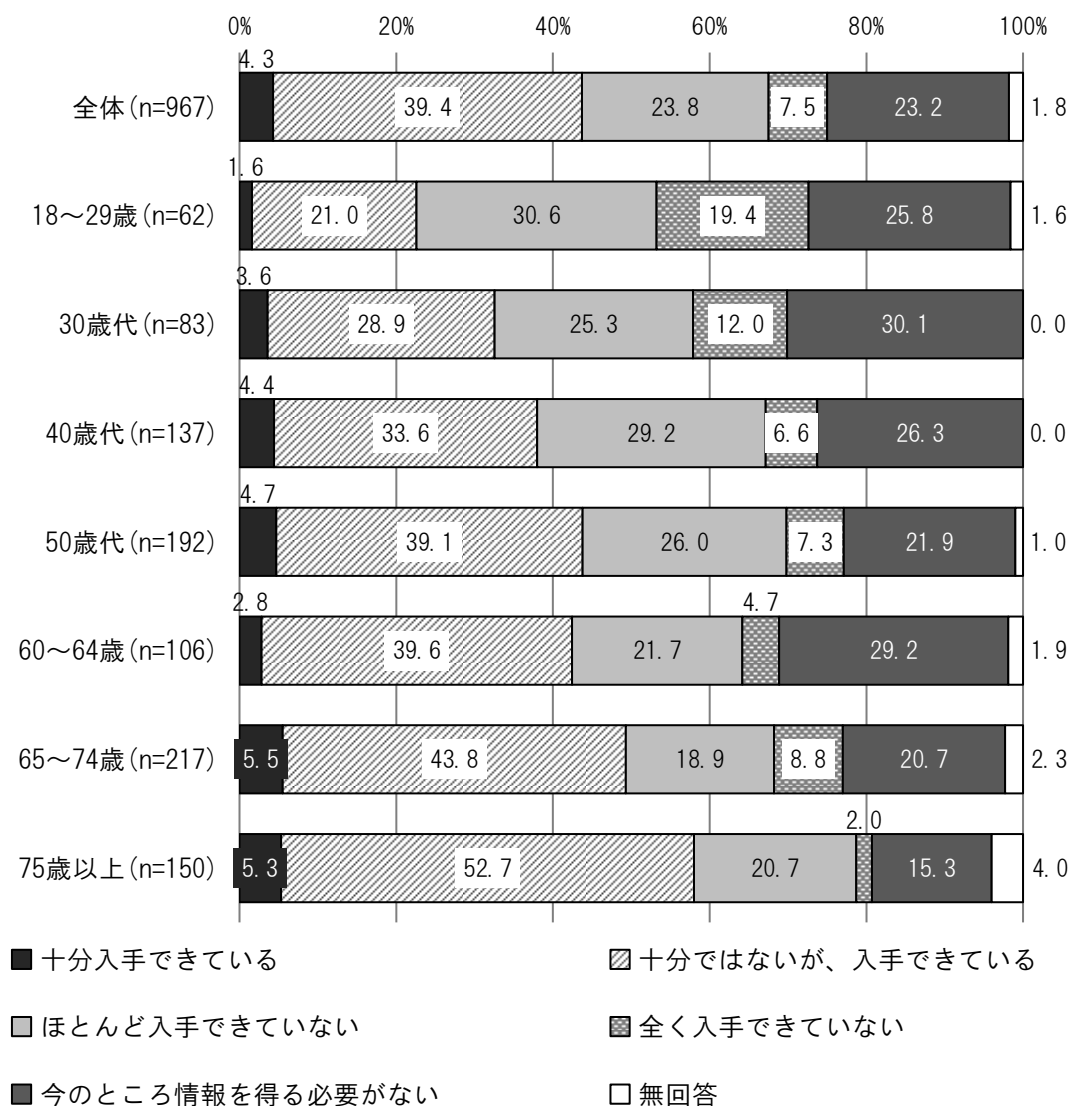
年齢別にみると、いずれも「市の広報紙「広報ふっさ」」が最も多くなっています。

%		市の広報紙 「広報ふっ さ」	「福生市議 会だより」 などの市の 刊行物	市で作成し たパンフ レット、ポ スターなど	市のホーム ページ	市公式 YouTube チャンネル 「福生市メ ディアラ ボ」	市政情報配 信サービス 「ふっさ情 報メール」	ふっさ情報 アプリ「ふ くナビ」
年齢	全体(n=967)	79.9	30.6	20.2	21.7	0.9	5.1	8.5
	18～29歳(n=62)	50.0	8.1	17.7	29.0	1.6	1.6	3.2
	30歳代(n=83)	71.1	25.3	9.6	26.5	1.2	4.8	8.4
	40歳代(n=137)	74.5	28.5	13.1	30.7	-	5.1	12.4
	50歳代(n=192)	79.2	30.2	20.3	24.0	1.0	6.8	8.3
	60～64歳(n=106)	84.9	29.2	22.6	22.6	0.9	4.7	5.7
	65～74歳(n=217)	88.0	35.9	20.7	17.1	0.5	4.6	12.0
	75歳以上(n=150)	87.3	36.0	31.3	12.7	2.0	4.7	2.7
%		福生市LINE 公式アカウ ント	町会・自治 会の回覧物	新聞、テレ ビなどのマ スメディア	特にない	その他	無回答	
年齢	全体(n=967)	2.7	21.3	19.1	9.4	2.6	1.8	
	18～29歳(n=62)	4.8	6.5	8.1	25.8	4.8	1.6	
	30歳代(n=83)	2.4	3.6	6.0	16.9	2.4	-	
	40歳代(n=137)	6.6	11.7	8.0	13.9	3.6	-	
	50歳代(n=192)	2.6	12.5	16.1	7.8	3.6	1.0	
	60～64歳(n=106)	0.9	29.2	20.8	8.5	0.9	0.9	
	65～74歳(n=217)	1.8	30.4	25.8	6.9	2.3	1.8	
	75歳以上(n=150)	1.3	38.0	34.0	2.0	0.7	5.3	

問 14 あなたは、自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できていると思いますか。 × 年齢 (単数回答)

全体では「十分ではないが、入手できている」が39.4%と最も多く、次いで「ほとんど入手できていない」が23.8%、「今のところ情報を得る必要がない」が23.2%となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「十分入手できている」「十分ではないが、入手できている」の合計が高く、「ほとんど入手できていない」「全く入手できていない」の合計が低くなる傾向にあります。



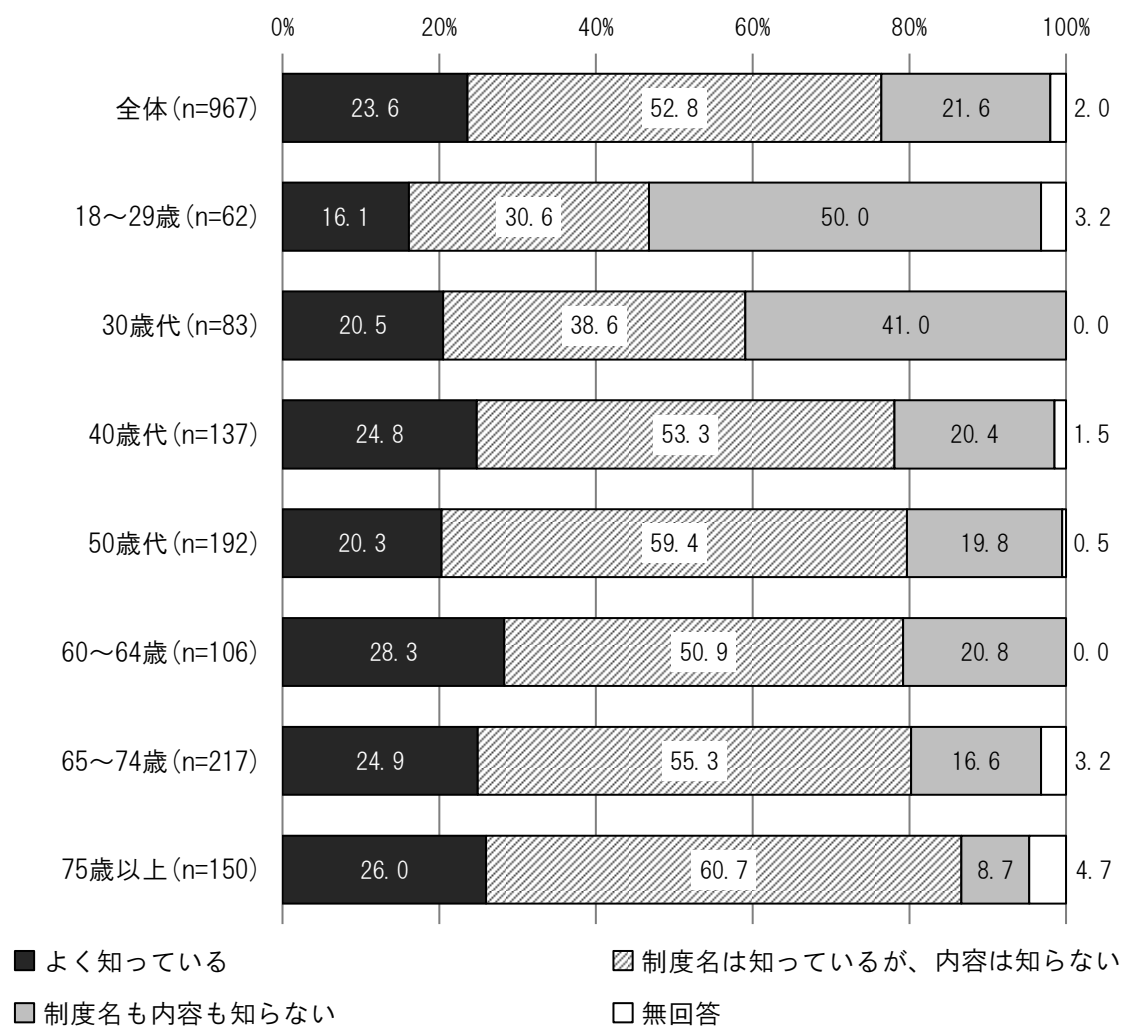
(5) 権利擁護について

問 15 あなたは、成年後見制度について知っていますか。 × 年齢

(単数回答)

全体では「制度名は知っているが、内容は知らない」が52.8%と最も多く、次いで「よく知っている」が23.6%、「制度名も内容も知らない」が21.6%となっています。

年齢別にみると、<18～29 歳><30 歳代>では、「制度名も内容も知らない」が最も多く、次いで「制度名は知っているが、内容は知らない」となっています。

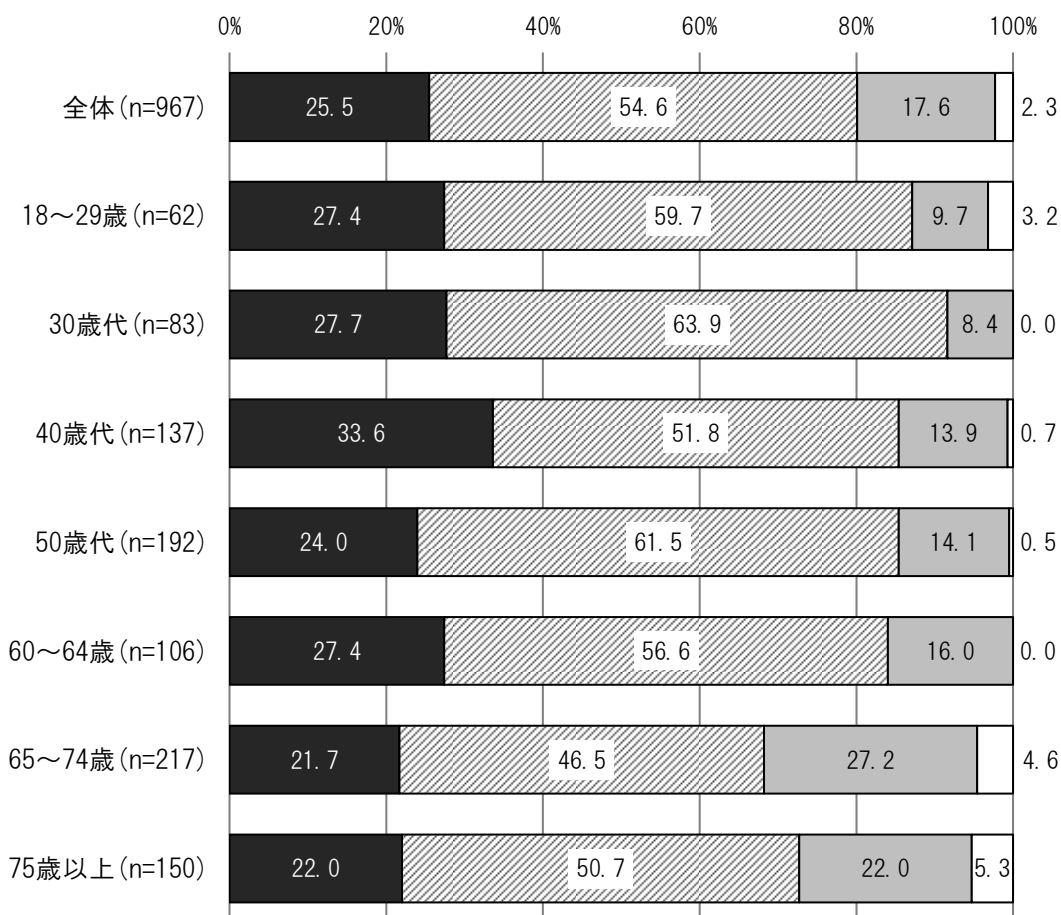


問 16 将来的にあなた自身の判断能力が不十分になった場合、成年後見制度を利用したいと
 思いますか。 × 年齢 (単数回答)

全体では「わからない」が54.6%と最も多く、次いで「利用したい」が25.5%、「利用したくない」が17.6%となっています。

年齢別にみると、いずれも「わからない」が最も多くなっています。

また、<40 歳代>では「利用したい」が33.6%、<65～74 歳>では「利用したくない」が27.2%と他に比べて割合が高くなっています。



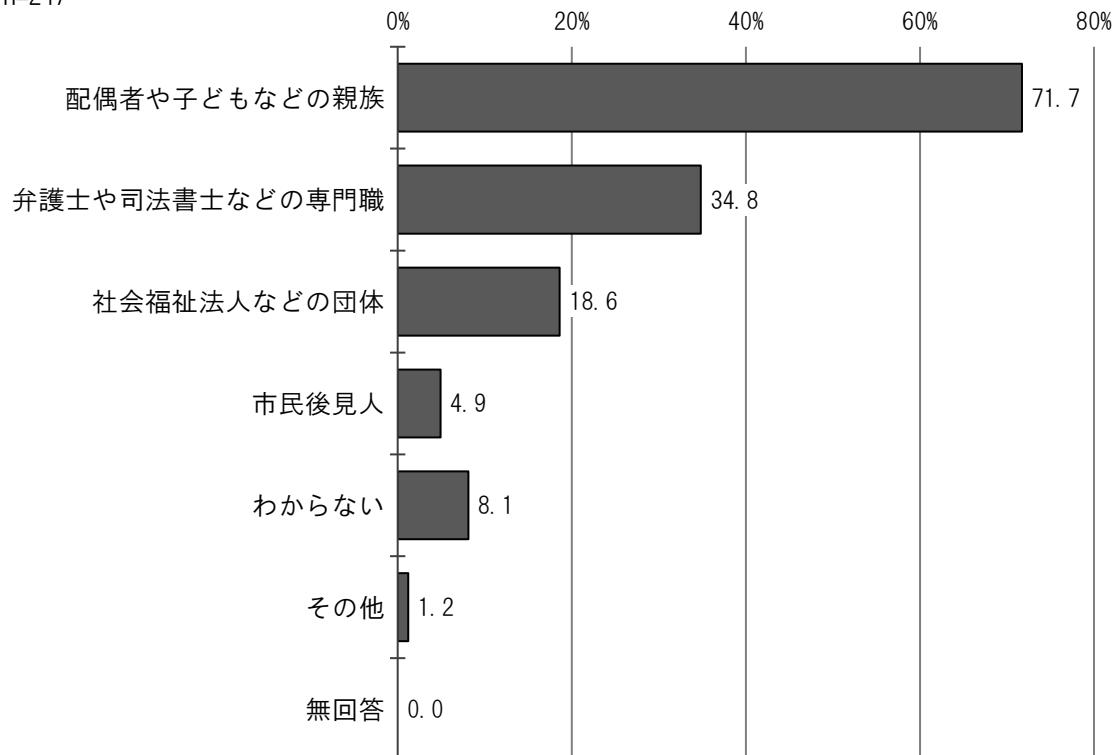
■ 利用したい ▨ わからない ■ 利用したくない □ 無回答

問 16-1 問 16 で「利用したい」を選んだ方

成年後見制度を利用することになった場合、誰に後見人になって支援してほしいですか。
(複数回答)

全体では「配偶者や子どもなどの親族」が71.7%と最も多く、次いで「弁護士や司法書士などの専門職」が34.8%、「社会福祉法人などの団体」が18.6%となっています。

n=247



問 16-1 成年後見制度を利用することになった場合、誰に後見人になって支援してほしいですか。 × 年齢 (複数回答)

年齢別にみると、いずれも「配偶者や子どもなどの親族」が最も多く、次いで「弁護士や司法書士などの専門職」となっています。

<40 歳代>では、「社会福祉法人などの団体」が 37.0%と他に比べて割合が高くなっています。

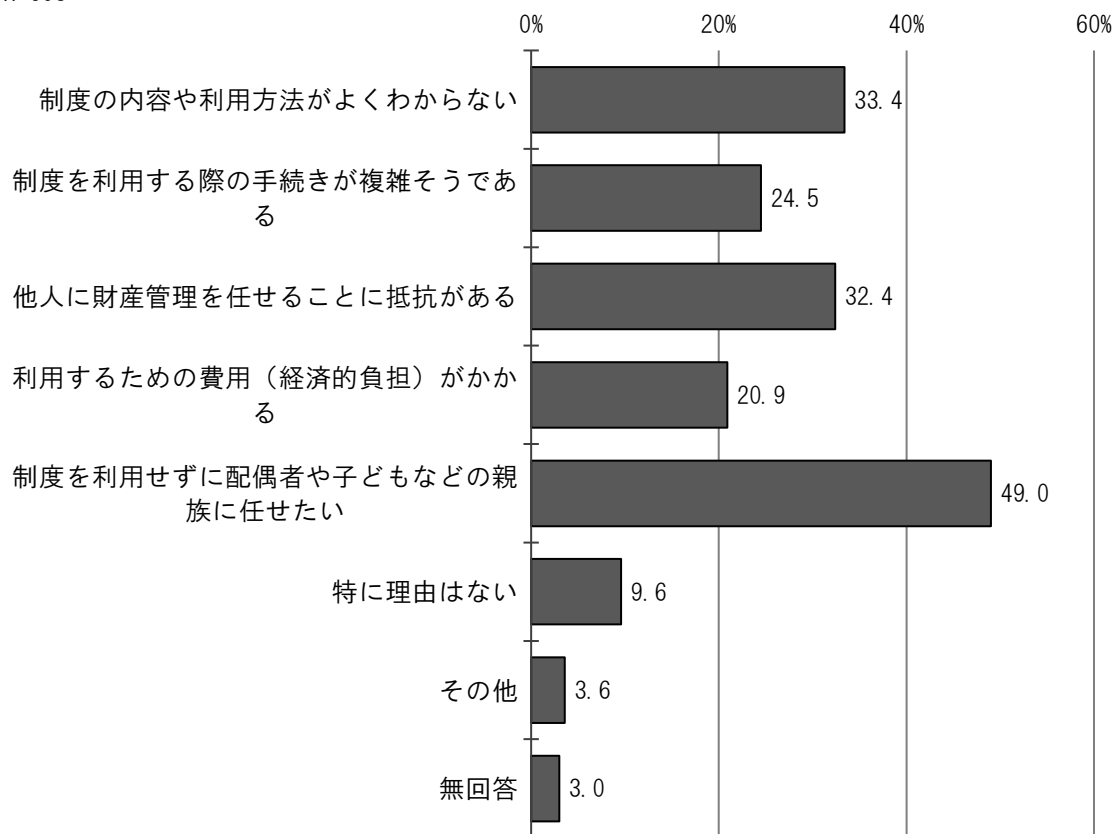
%		配偶者や子どもなどの親族	弁護士や司法書士などの専門職	社会福祉法人などの団体	市民後見人	わからない	その他	無回答
年齢	全体(n=247)	71.7	34.8	18.6	4.9	8.1	1.2	-
	18～29歳(n=17)	76.5	29.4	23.5	11.8	11.8	-	-
	30歳代(n=23)	65.2	26.1	17.4	-	17.4	-	-
	40歳代(n=46)	60.9	45.7	37.0	2.2	6.5	2.2	-
	50歳代(n=46)	71.7	45.7	19.6	-	2.2	2.2	-
	60～64歳(n=29)	72.4	20.7	3.4	6.9	13.8	3.4	-
	65～74歳(n=47)	72.3	31.9	12.8	6.4	8.5	-	-
	75歳以上(n=33)	84.8	36.4	15.2	9.1	6.1	-	-

問 16-2 問 16 で「わからない」「利用したくない」を選んだ方

「わからない」あるいは「利用したくない」と答えた理由は何ですか。（複数回答）

全体では「制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい」が 49.0%と最も多く、次いで「制度の内容や利用方法がよくわからない」が 33.4%、「他人に財産管理を任せることに抵抗がある」が 32.4%となっています。

n=698



問 16-2 「わからない」あるいは「利用したくない」と答えた理由は何ですか。 × 年齢
(複数回答)

年齢別にみると、<18～29 歳><30 歳代><40 歳代>では、「制度の内容や利用方法がよくわからない」が最も多くなっています。

また、年齢が上がるにつれて「制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい」の割合が高くなる傾向にあります。

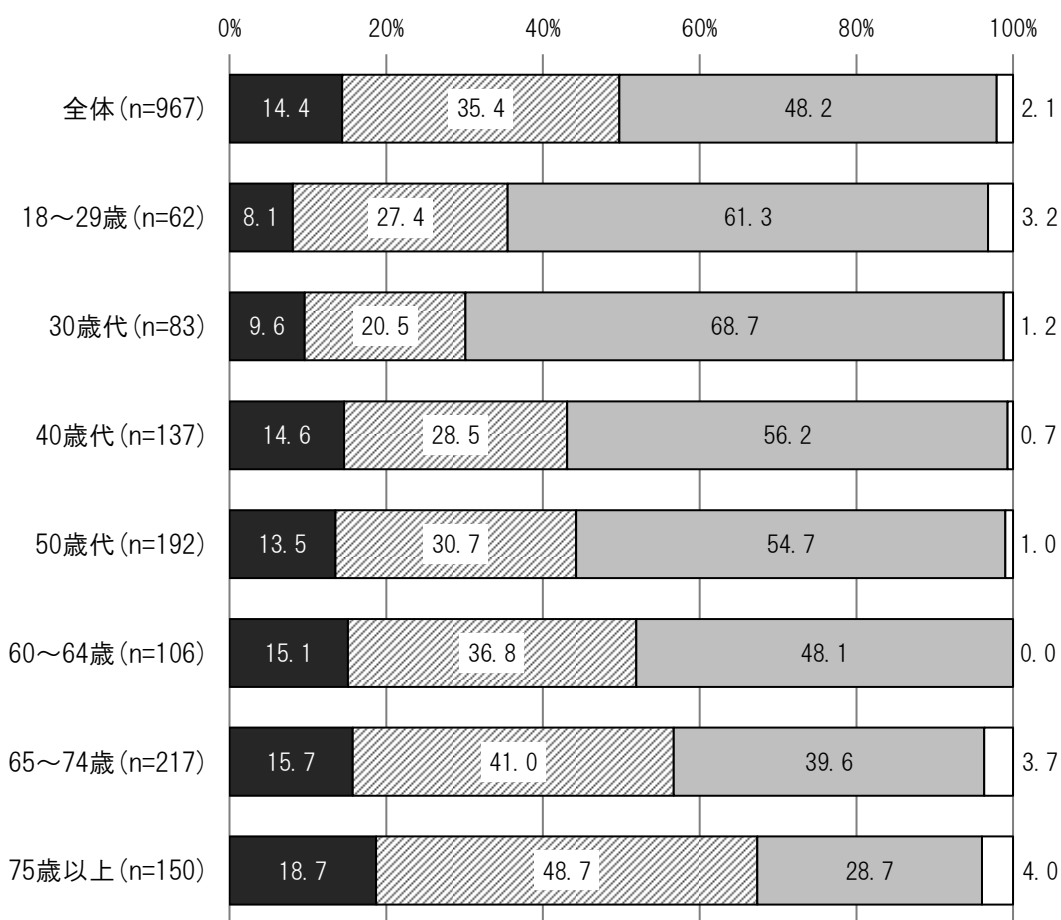
%		制度の内容 や利用方法 がよくわか らない	制度を利用 する際の手 続きが複雑 そうである	他人に財産 管理を任せ ることに抵 抗がある	利用するた めの費用 (経済的負 担)がかか る	制度を利用 せずに配偶 者や子ども などの親族 に任せたい	特に理由は ない	その他
年齢	全体(n=698)	33.4	24.5	32.4	20.9	49.0	9.6	3.6
	18～29歳(n=43)	41.9	37.2	39.5	16.3	25.6	16.3	7.0
	30歳代(n=60)	50.0	23.3	36.7	21.7	40.0	6.7	1.7
	40歳代(n=90)	42.2	27.8	38.9	24.4	33.3	11.1	2.2
	50歳代(n=145)	35.9	27.6	34.5	22.8	43.4	6.2	6.9
	60～64歳(n=77)	28.6	23.4	37.7	20.8	51.9	11.7	2.6
	65～74歳(n=160)	28.1	21.3	28.7	25.0	60.6	8.1	1.9
	75歳以上(n=109)	21.1	20.2	22.0	11.9	63.3	12.8	3.7
%		無回答						
年齢	全体(n=698)	3.0						
	18～29歳(n=43)	-						
	30歳代(n=60)	3.3						
	40歳代(n=90)	2.2						
	50歳代(n=145)	0.7						
	60～64歳(n=77)	1.3						
	65～74歳(n=160)	3.1						
	75歳以上(n=109)	8.3						

(6) 再犯防止について

問 17 約 20 年の間、全国の犯罪の件数（刑法犯検挙者数）は減少している一方で、検挙者に占める再犯者（再び検挙された人）の割合が 50% 弱で高いまま推移しています。あなたは、このことを知っていましたか。 × 年齢 （単数回答）

全体では「知らない」が 48.2% と最も多く、次いで「なんとなく知っている」が 35.4%、「知っている」が 14.4% となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「知っている」「なんとなく知っている」の割合が高くなる傾向にあります。

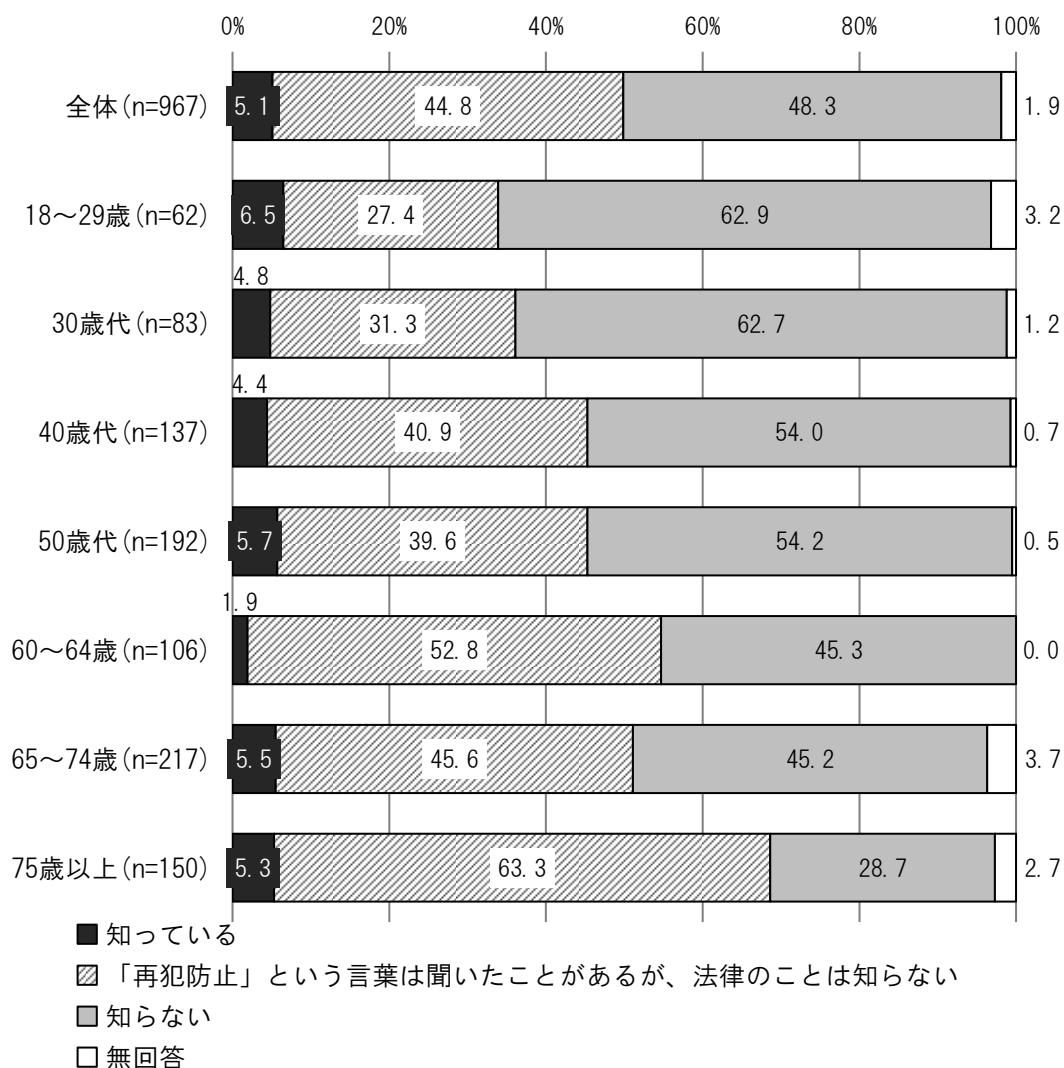


■ 知っている ▨ なんとなく知っている ■ 知らない □ 無回答

問 18 犯罪をした人が円滑に社会に復帰でき、犯罪や非行の繰り返しを防ぐ、「再犯防止」に取り組むため、平成 28 年に「再犯の防止等の推進に関する法律」が成立したことを知っていますか。 × 年齢 (単数回答)

全体では「知らない」が 48.3%と最も多く、次いで「再犯防止」という言葉は聞いたことがあるが、法律のことは知らない」が 44.8%、「知っている」が 5.1%となっています。

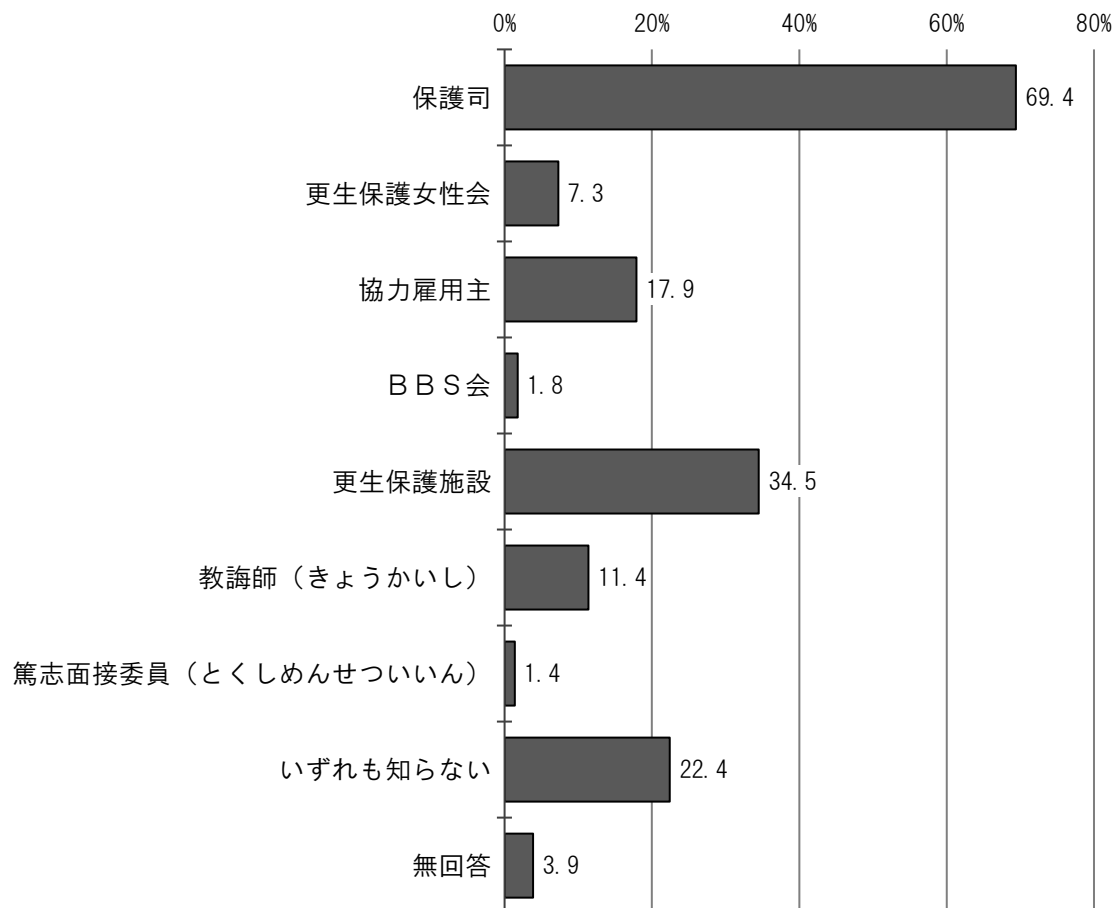
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「再犯防止」という言葉は聞いたことがあるが、法律のことは知らない」の割合が高くなる傾向にあります。



問 19 あなたは、再犯防止に協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。（複数回答）

全体では「保護司」が69.4%と最も多く、次いで「更生保護施設」が34.5%、「いずれも知らない」が22.4%となっています。

n=967



問 19 あなたは、再犯防止に協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。 × 年齢 (複数回答)

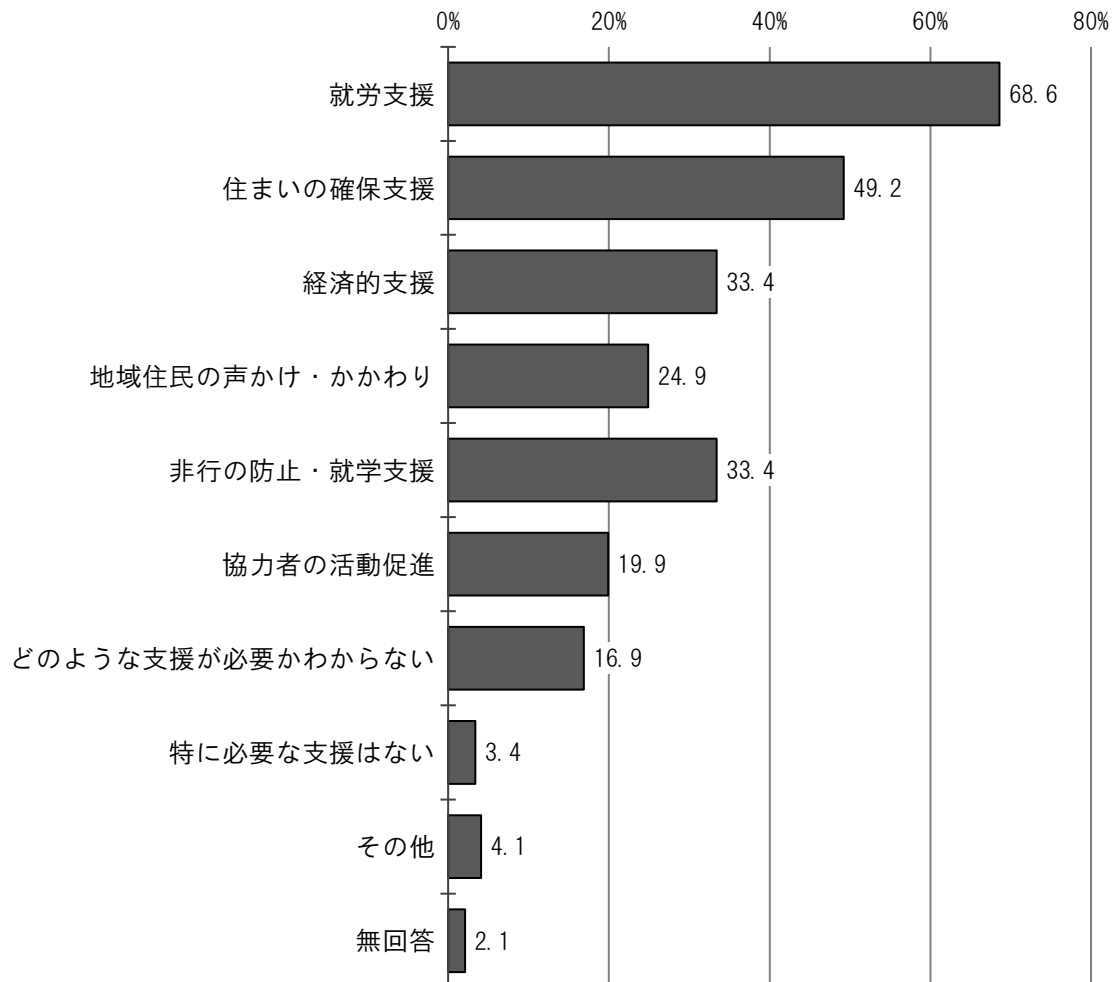
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「いずれも知らない」の割合が低くなる傾向にあります。

%		保護司	更生保護女性会	協力雇用主	B B S 会	更生保護施設	教誨師 (きょうかいし)	篤志面接委員 (とくしめんせついいん)
年齢	全体(n=967)	69.4	7.3	17.9	1.8	34.5	11.4	1.4
	18～29歳(n=62)	30.6	6.5	8.1	3.2	17.7	16.1	-
	30歳代(n=83)	47.0	7.2	13.3	1.2	31.3	13.3	1.2
	40歳代(n=137)	54.0	4.4	15.3	1.5	28.5	10.2	1.5
	50歳代(n=192)	76.0	6.3	20.3	2.6	42.2	12.0	0.5
	60～64歳(n=106)	79.2	4.7	17.0	2.8	36.8	14.2	0.9
	65～74歳(n=217)	79.3	8.8	18.4	1.4	35.0	8.3	1.8
	75歳以上(n=150)	78.7	11.3	22.7	0.7	35.3	11.3	3.3
%		いずれも知らない	無回答					
年齢	全体(n=967)	22.4	3.9					
	18～29歳(n=62)	53.2	4.8					
	30歳代(n=83)	39.8	3.6					
	40歳代(n=137)	36.5	2.2					
	50歳代(n=192)	16.7	2.6					
	60～64歳(n=106)	17.0	2.8					
	65～74歳(n=217)	14.3	4.6					
	75歳以上(n=150)	12.7	7.3					

問 20 あなたは、罪を犯した人が更生して地域で生活する場合に必要な支援は何だと思えますか。（複数回答）

全体では「就労支援」が68.6%と最も多く、次いで「住まいの確保支援」が49.2%、「経済的支援」「非行の防止・就学支援」が33.4%となっています。

n=967



問 20 あなたは、罪を犯した人が更生して地域で生活する場合に必要な支援は何だと思いま
すか。 × 年齢 (複数回答)

年齢別にみると、いずれも「就労支援」が最も多くなっています。

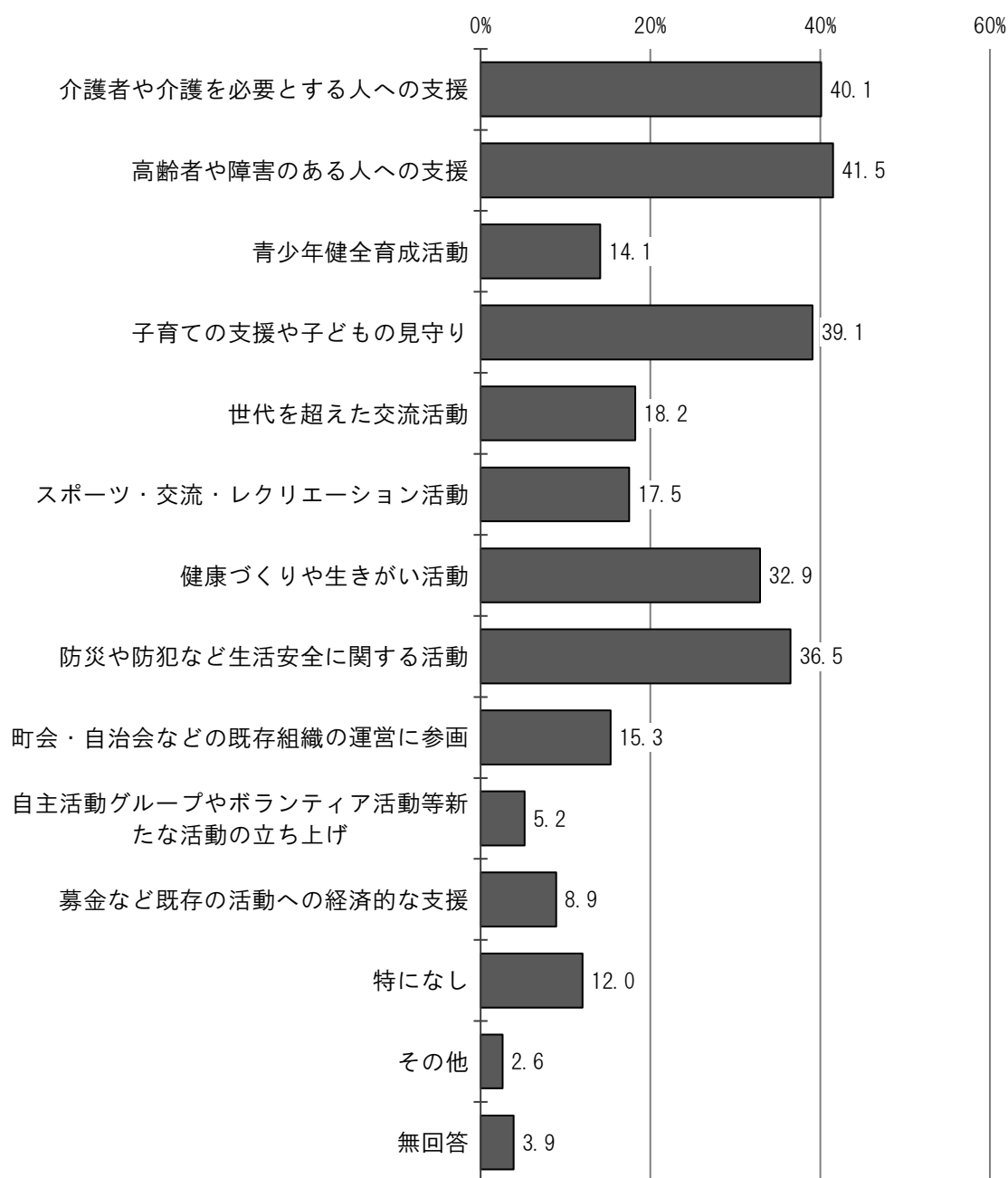
%		就労支援	住まいの確 保支援	経済的支援	地域住民の 声かけ・か かわり	非行の防 止・就学支 援	協力者の活 動促進	どのような 支援が必要 かわからな い
年齢	全体(n=967)	68.6	49.2	33.4	24.9	33.4	19.9	16.9
	18～29歳(n=62)	64.5	40.3	37.1	11.3	30.6	19.4	11.3
	30歳代(n=83)	54.2	27.7	18.1	21.7	36.1	13.3	20.5
	40歳代(n=137)	66.4	46.0	29.2	18.2	38.7	16.1	21.2
	50歳代(n=192)	72.4	53.1	31.8	26.6	34.4	21.4	16.7
	60～64歳(n=106)	68.9	46.2	29.2	30.2	32.1	22.6	15.1
	65～74歳(n=217)	71.9	58.1	35.5	27.2	34.6	19.8	16.1
	75歳以上(n=150)	70.0	52.0	46.0	26.0	24.0	23.3	16.0
%		特に必要な 支援はない	その他	無回答				
年齢	全体(n=967)	3.4	4.1	2.1				
	18～29歳(n=62)	4.8	4.8	4.8				
	30歳代(n=83)	6.0	6.0	-				
	40歳代(n=137)	4.4	6.6	0.7				
	50歳代(n=192)	2.1	3.1	0.5				
	60～64歳(n=106)	4.7	7.5	-				
	65～74歳(n=217)	2.3	1.8	3.7				
	75歳以上(n=150)	2.7	2.7	4.0				

(7) これからの地域福祉について

問 21 今後、住みよいまちづくりを進めるうえで、地域住民としてどのようなことに取り組んでいきたいとお考えですか。(複数回答)

全体では「高齢者や障害のある人への支援」が41.5%と最も多く、次いで「介護者や介護を必要とする人への支援」が40.1%、「子育ての支援や子どもの見守り」が39.1%となっています。

n=967



問 21 今後、住みよいまちづくりを進めるうえで、地域住民としてどのようなことに取り組んでいきたいとお考えですか。 × 年齢 (複数回答)

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「子育ての支援や子どもの見守り」が 48.4%と最も多く、次いで「健康づくりや生きがい活動」が 29.0%となっています。

<30 歳代>では、「子育ての支援や子どもの見守り」が 59.0%と最も多く、次いで「防災や防犯など生活安全に関する活動」が 37.3%となっています。

<40 歳代>では、「子育ての支援や子どもの見守り」が 46.0%と最も多く、次いで「防災や防犯など生活安全に関する活動」が 39.4%となっています。

<50 歳代>では、「高齢者や障害のある人への支援」が 49.5%と最も多く、次いで「介護者や介護を必要とする人への支援」が 48.4%となっています。

<60～64 歳>では、「防災や防犯など生活安全に関する活動」が 50.0%と最も多く、次いで「高齢者や障害のある人への支援」が 45.3%となっています。

<65～74 歳>では、「高齢者や障害のある人への支援」が 42.4%と最も多く、次いで「介護者や介護を必要とする人への支援」が 41.0%となっています。

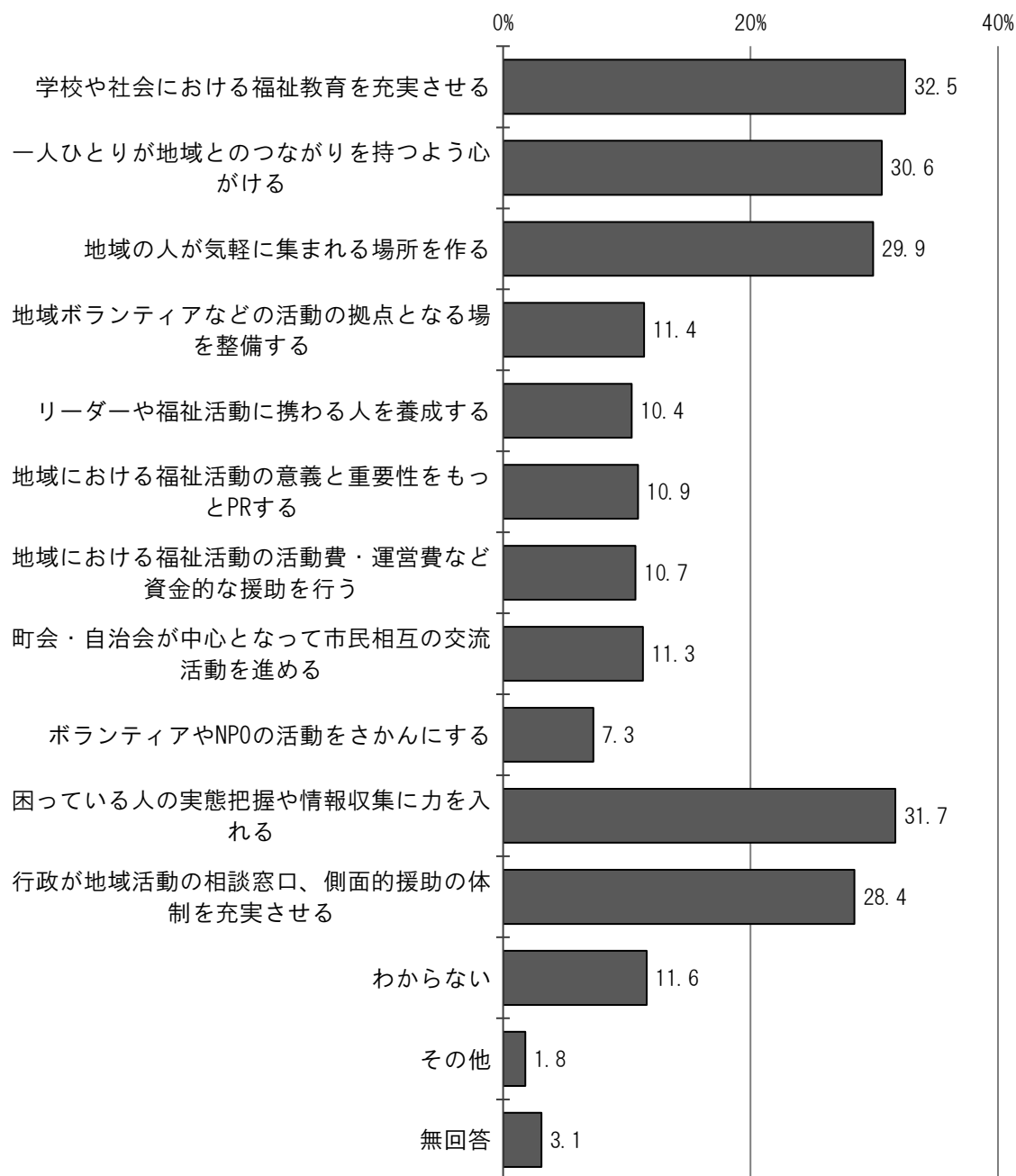
<75 歳以上>では、「高齢者や障害のある人への支援」が 48.7%と最も多く、次いで「介護者や介護を必要とする人への支援」が 46.0%となっています。

%		介護者や介護を必要とする人への支援	高齢者や障害のある人への支援	青少年健全育成活動	子育ての支援や子どもの見守り	世代を超えた交流活動	スポーツ・交流・レクリエーション活動	健康づくりや生きがい活動
年齢	全体(n=967)	40.1	41.5	14.1	39.1	18.2	17.5	32.9
	18～29歳(n=62)	24.2	19.4	12.9	48.4	16.1	16.1	29.0
	30歳代(n=83)	34.9	34.9	9.6	59.0	12.0	14.5	21.7
	40歳代(n=137)	35.0	38.0	16.1	46.0	16.1	19.0	27.7
	50歳代(n=192)	48.4	49.5	13.5	38.0	25.0	15.6	35.9
	60～64歳(n=106)	41.5	45.3	13.2	33.0	15.1	15.1	31.1
	65～74歳(n=217)	41.0	42.4	15.2	33.2	19.8	16.1	37.3
	75歳以上(n=150)	46.0	48.7	16.7	36.7	17.3	25.3	39.3
%		防災や防犯など生活安全に関する活動	町会・自治会などの既存組織の運営に参画	自主活動グループやボランティア活動等新たな活動の立ち上げ	募金など既存の活動への経済的な支援	特になし	その他	無回答
年齢	全体(n=967)	36.5	15.3	5.2	8.9	12.0	2.6	3.9
	18～29歳(n=62)	25.8	3.2	4.8	4.8	16.1	4.8	3.2
	30歳代(n=83)	37.3	6.0	3.6	4.8	13.3	1.2	-
	40歳代(n=137)	39.4	15.3	10.9	10.2	18.2	2.2	-
	50歳代(n=192)	34.4	12.5	5.7	13.5	11.5	3.6	1.0
	60～64歳(n=106)	50.0	20.8	3.8	7.5	9.4	1.9	1.9
	65～74歳(n=217)	35.5	18.0	3.2	7.8	11.5	2.3	4.6
	75歳以上(n=150)	34.0	23.3	4.7	9.3	8.7	2.7	5.3

問 22 誰もが地域の中に居場所があり、権利と尊厳が守られ、孤立することなく、自分らしく安心して暮らすことができる「地域共生社会」を実現するためには、これからどのような取組が必要だと考えますか。 (複数回答)

全体では「学校や社会における福祉教育を充実させる」が32.5%と最も多く、次いで「困っている人の実態把握や情報収集に力を入れる」が31.7%、「一人ひとりが地域とのつながりを持つよう心がける」が30.6%となっています。

n=967



問 22 誰もが地域の中に居場所があり、権利と尊厳が守られ、孤立することなく、自分らしく安心して暮らすことができる「地域共生社会」を実現するためには、これからどのような取組が必要だと考えますか。 × 年齢 (複数回答)

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「学校や社会における福祉教育を充実させる」が 41.9%と最も多く、次いで「一人ひとりが地域とのつながりを持つよう心がける」が 33.9%となっています。

<30 歳代>では、「学校や社会における福祉教育を充実させる」が 36.1%と最も多く、次いで「困っている人の実態把握や情報収集に力を入れる」が 32.5%となっています。

<40 歳代>では、「学校や社会における福祉教育を充実させる」が 42.3%と最も多く、次いで「困っている人の実態把握や情報収集に力を入れる」が 34.3%となっています。

<50 歳代>では、「困っている人の実態把握や情報収集に力を入れる」が 37.5%と最も多く、次いで「学校や社会における福祉教育を充実させる」が 36.5%となっています。

<60～64 歳>では、「地域の人が気軽に集まれる場所を作る」が 35.8%と最も多く、次いで「困っている人の実態把握や情報収集に力を入れる」が 34.9%となっています。

<65～74 歳>では、「一人ひとりが地域とのつながりを持つよう心がける」が 34.6%と最も多く、次いで「地域の人が気軽に集まれる場所を作る」が 33.2%となっています。

<75 歳以上>では、「行政が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させる」が 35.3%と最も多く、次いで「地域の人が気軽に集まれる場所を作る」が 34.7%となっています。

%		学校や社会 における福 祉教育を充 実させる	一人ひとり が地域との つながりを 持つよう心 がける	地域の人 が気軽に集 まれる場所 を作る	地域ボラン ティアなど の活動の拠 点となる場 を整備する	リーダーや 福祉活動に 携わる人を 養成する	地域におけ る福祉活動 の意義と重 要性をもっ とPRする	地域におけ る福祉活動 の活動費・ 運営費など 資金的な援 助を行う
年齢	全体(n=967)	32.5	30.6	29.9	11.4	10.4	10.9	10.7
	18～29歳(n=62)	41.9	33.9	22.6	8.1	4.8	8.1	14.5
	30歳代(n=83)	36.1	28.9	24.1	9.6	6.0	7.2	10.8
	40歳代(n=137)	42.3	32.8	29.9	13.1	12.4	10.2	10.2
	50歳代(n=192)	36.5	27.6	26.6	16.1	12.0	10.4	8.3
	60～64歳(n=106)	24.5	29.2	35.8	9.4	14.2	7.5	13.2
	65～74歳(n=217)	28.1	34.6	33.2	12.0	6.5	12.9	11.1
	75歳以上(n=150)	28.0	28.7	34.7	8.0	15.3	16.0	11.3
%		町会・自治 会が中心と なって市民 相互の交流 活動を進め る	ボランティ アやNPOの 活動をさか んにする	困っている 人の実態把 握や情報収 集に力を入 れる	行政が地域 活動の相談 窓口、側面 的援助の体 制を充実さ せる	わからない	その他	無回答
年齢	全体(n=967)	11.3	7.3	31.7	28.4	11.6	1.8	3.1
	18～29歳(n=62)	1.6	6.5	21.0	19.4	16.1	3.2	3.2
	30歳代(n=83)	8.4	6.0	32.5	15.7	19.3	-	-
	40歳代(n=137)	7.3	8.0	34.3	24.8	12.4	1.5	-
	50歳代(n=192)	7.3	7.3	37.5	33.3	9.9	2.6	-
	60～64歳(n=106)	12.3	5.7	34.9	27.4	16.0	0.9	0.9
	65～74歳(n=217)	14.7	11.1	30.9	31.3	8.3	1.8	3.2
	75歳以上(n=150)	20.7	4.7	29.3	35.3	9.3	1.3	4.0

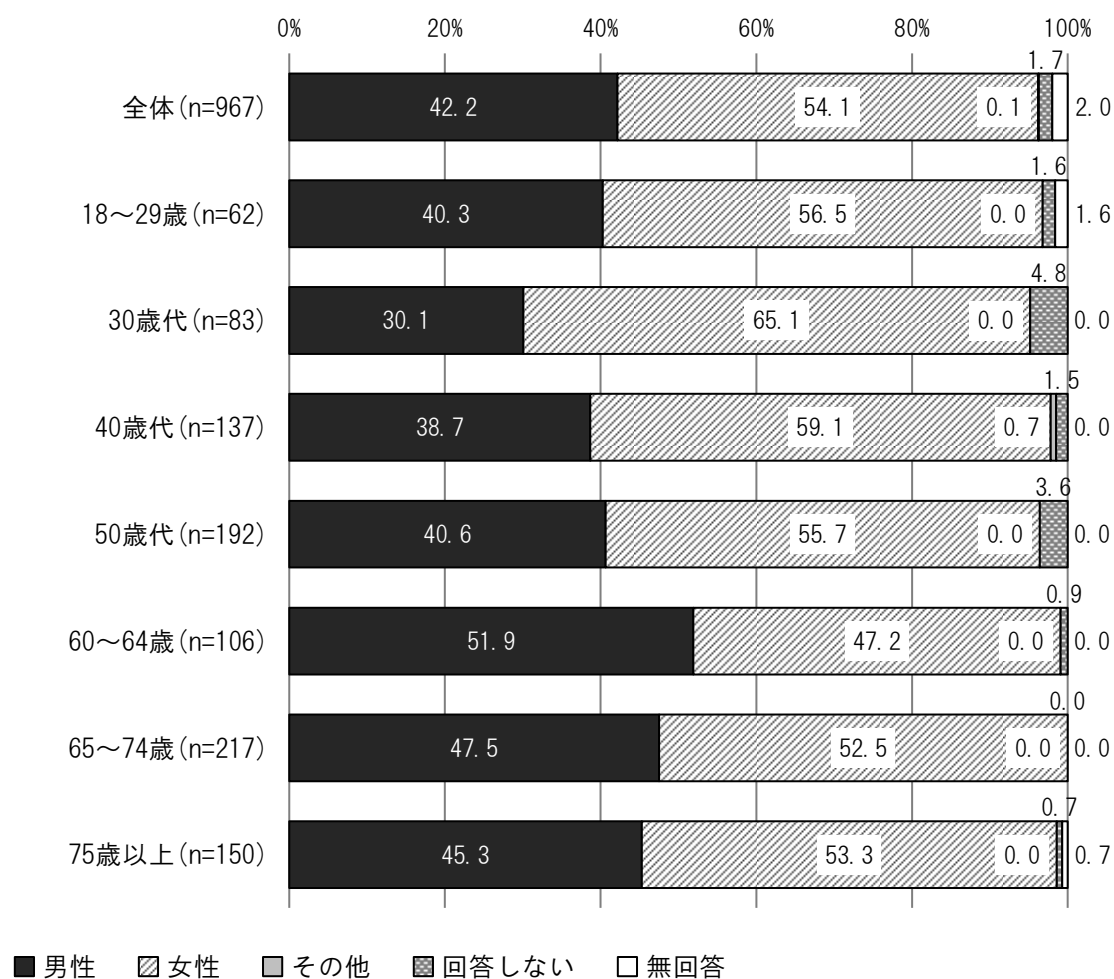
(8) あなたご自身について

問 23 あなたの性別は。 × 年齢

(単数回答)

全体では「女性」が54.1%と最も多く、次いで「男性」が42.2%、「回答しない」が1.7%となっています。

年齢別にみると、<60～64 歳>では、「男性」が51.9%と最も多くなっています。

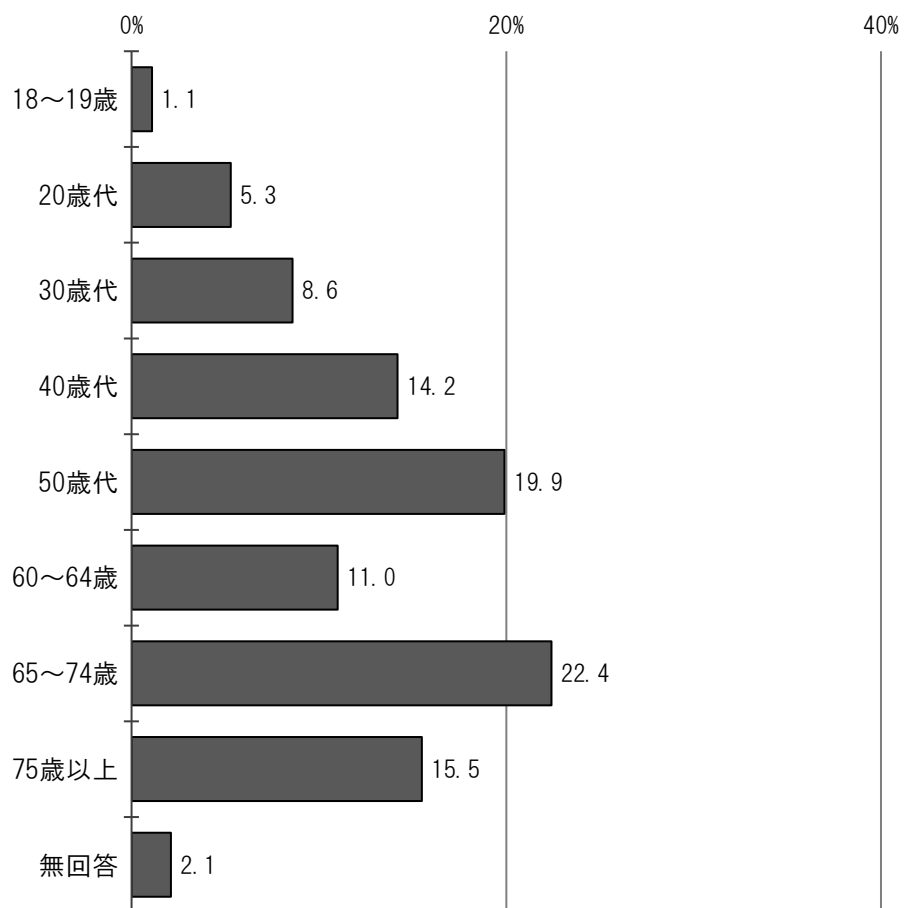


問 24 あなたの年齢は。

(単数回答)

全体では「65～74 歳」が 22.4%と最も多く、次いで「50 歳代」が 19.9%、「75 歳以上」が 15.5%となっています。

n=967



問 24 あなたの年齢は。 × 地域

(単数回答)

地域別にみると、<加美エリア>では、「65～74 歳」が 22.6%と最も多く、次いで「50 歳代」が 21.1%となっています。

<武蔵野エリア>では、「65～74 歳」が 26.9%と最も多く、次いで「50 歳代」が 22.0%となっています。

<熊川エリア>では、「65～74 歳」が 22.7%と最も多く、次いで「40 歳代」が 18.4%となっています。

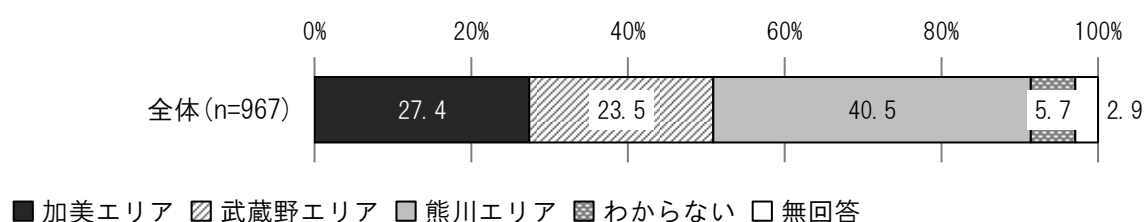
<わからない>では、「50 歳代」が 27.3%と最も多く、次いで「30 歳代」が 20.0%となっています。

%		18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～74歳
地域	全体(n=967)	1.1	5.3	8.6	14.2	19.9	11.0	22.4
	加美エリア(n=265)	1.9	7.2	7.9	10.6	21.1	13.2	22.6
	武蔵野エリア(n=227)	0.9	4.4	5.7	11.5	22.0	10.6	26.9
	熊川エリア(n=392)	0.8	3.3	9.2	18.4	17.9	10.5	22.7
	わからない(n=55)	1.8	12.7	20.0	18.2	27.3	7.3	9.1
%		75歳以上	無回答					
地域	全体(n=967)	15.5	2.1					
	加美エリア(n=265)	14.7	0.8					
	武蔵野エリア(n=227)	17.6	0.4					
	熊川エリア(n=392)	16.8	0.5					
	わからない(n=55)	3.6	-					

問 25 あなたのお住まいの地域は。

(単数回答)

全体では「熊川エリア」が 40.5%と最も多く、次いで「加美エリア」が 27.4%、「武蔵野エリア」が 23.5%となっています。

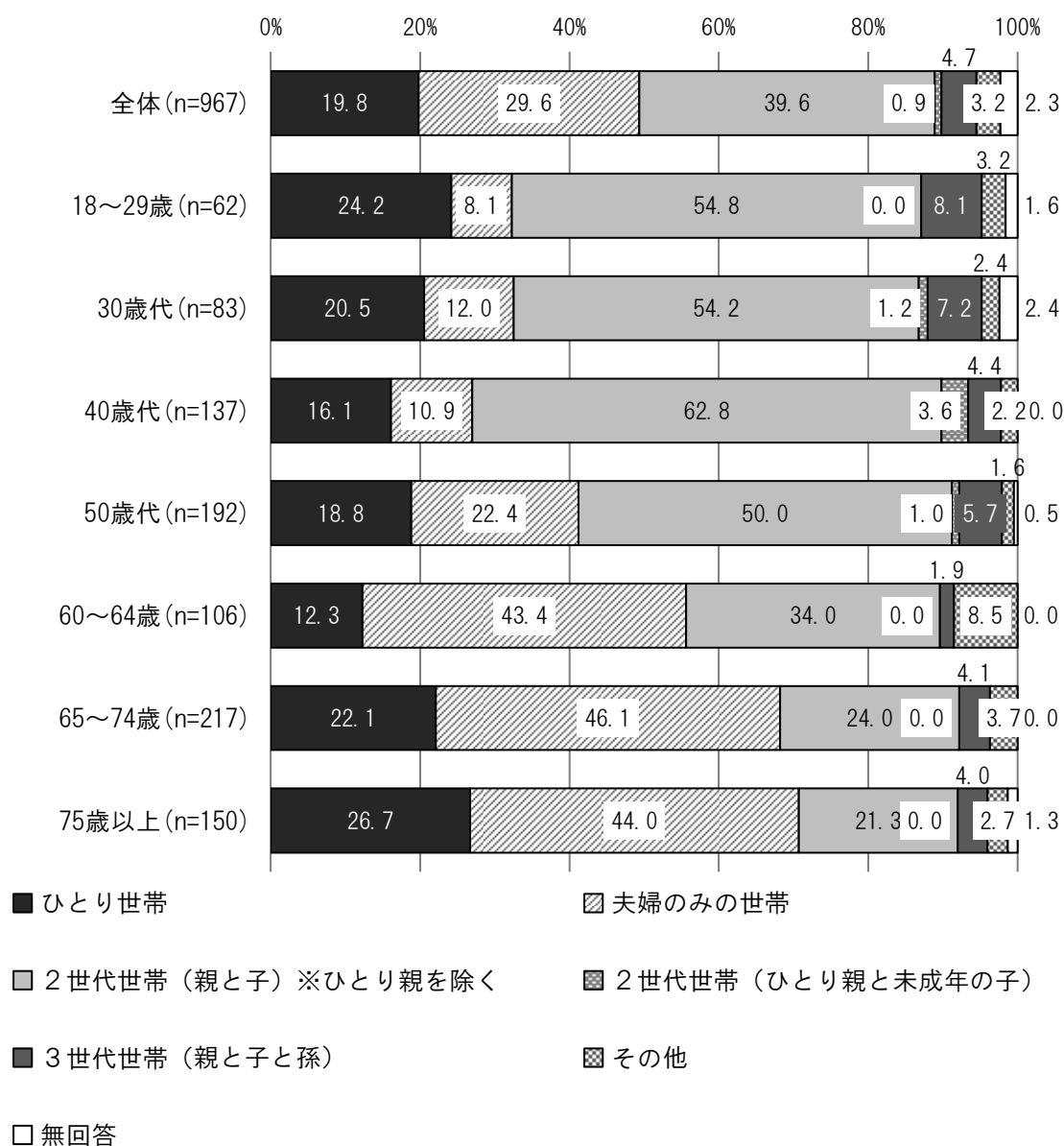


問 26 あなたの世帯構成は。 × 年齢

(単数回答)

全体では「2世代世帯（親と子）※ひとり親を除く」が39.6%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が29.6%、「ひとり世帯」が19.8%となっています。

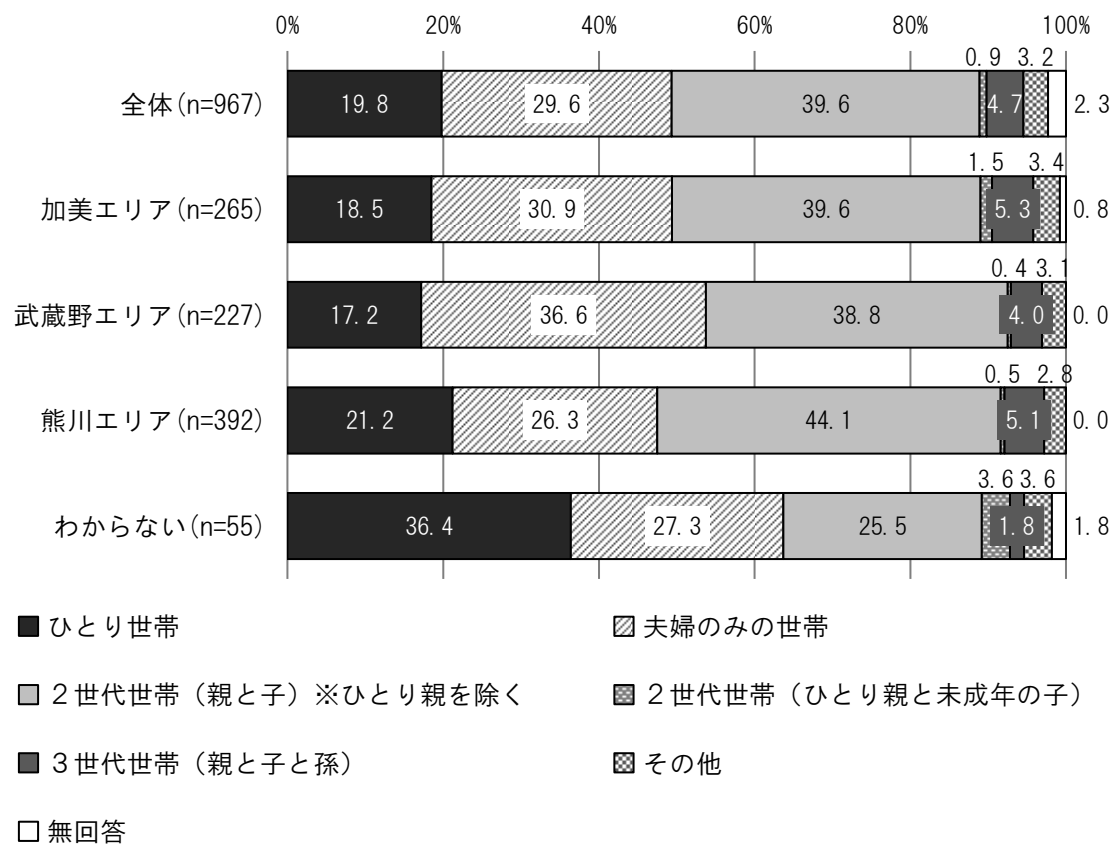
年齢別にみると、<18～29歳><30歳代><40歳代><50歳代>では、「2世代世帯（親と子）※ひとり親を除く」が最も多く、<60～64歳><65～74歳><75歳以上>では、「夫婦のみの世帯」が最も多くなっています。



問 26 あなたの世帯構成は。 × 地域

(単数回答)

地域別にみると、<わからない>では、「ひとり世帯」が36.4%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が27.3%となっています。

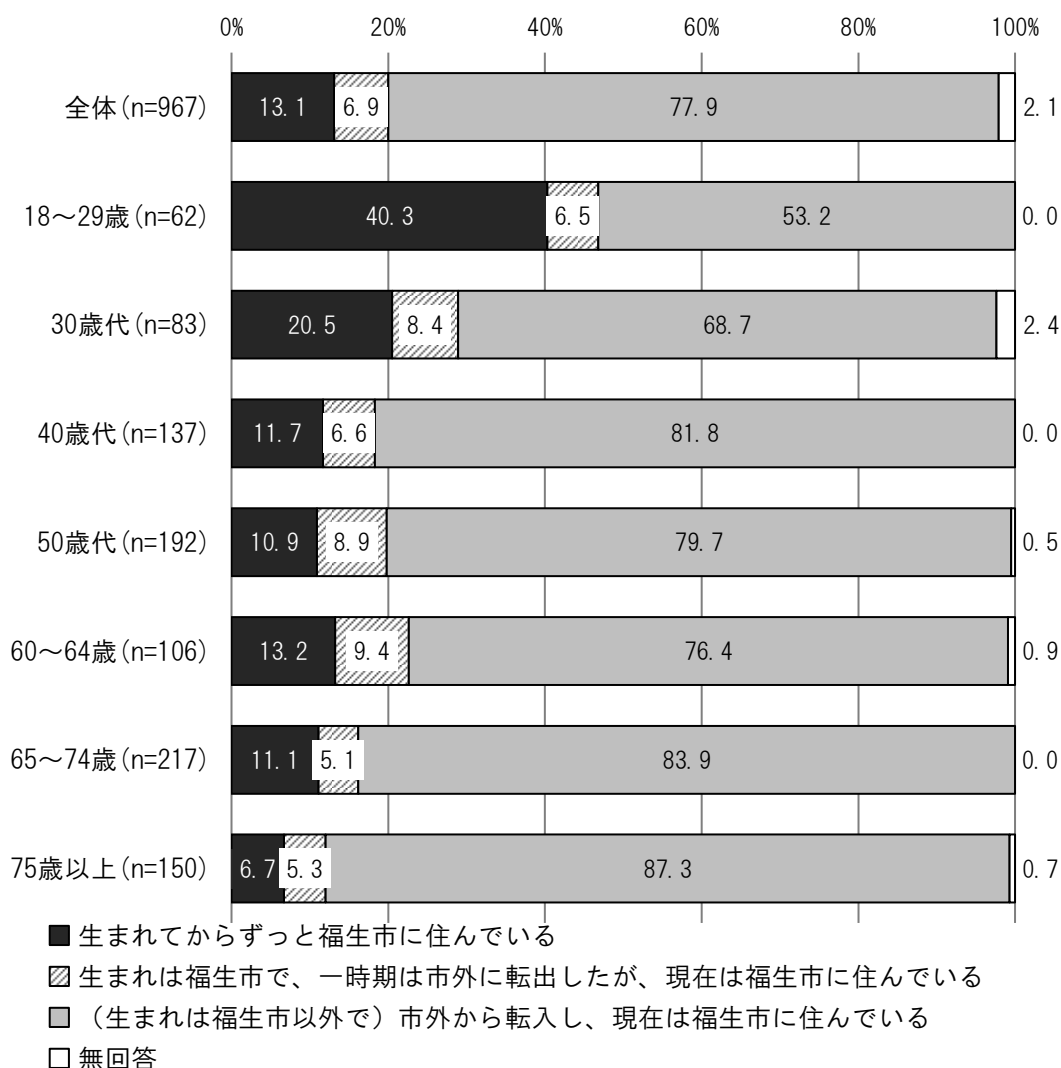


問 27 あなたの福生市での居住歴は。 × 年齢

(単数回答)

全体では「(生まれは福生市以外で)市外から転入し、現在は福生市に住んでいる」が77.9%と最も多く、次いで「生まれてからずっと福生市に住んでいる」が13.1%、「生まれは福生市で、一時期は市外に転出したが、現在は福生市に住んでいる」が6.9%となっています。

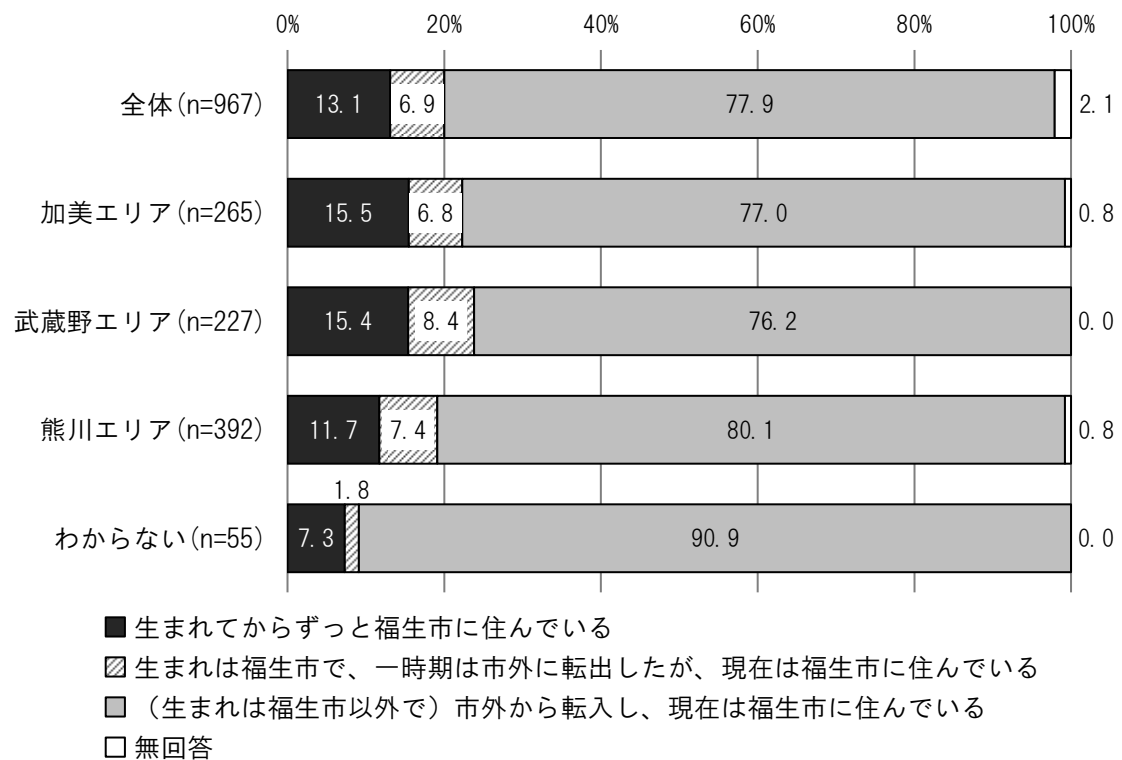
年齢別にみると、いずれも「(生まれは福生市以外で)市外から転入し、現在は福生市に住んでいる」が最も多くなっています。<18～29歳>では、「生まれてからずっと福生市に住んでいる」が40.3%となっています。



問 27 あなたの福生市での居住歴は。 × 地域

(単数回答)

地域別にみると、概ね全体と同様の傾向になっています。

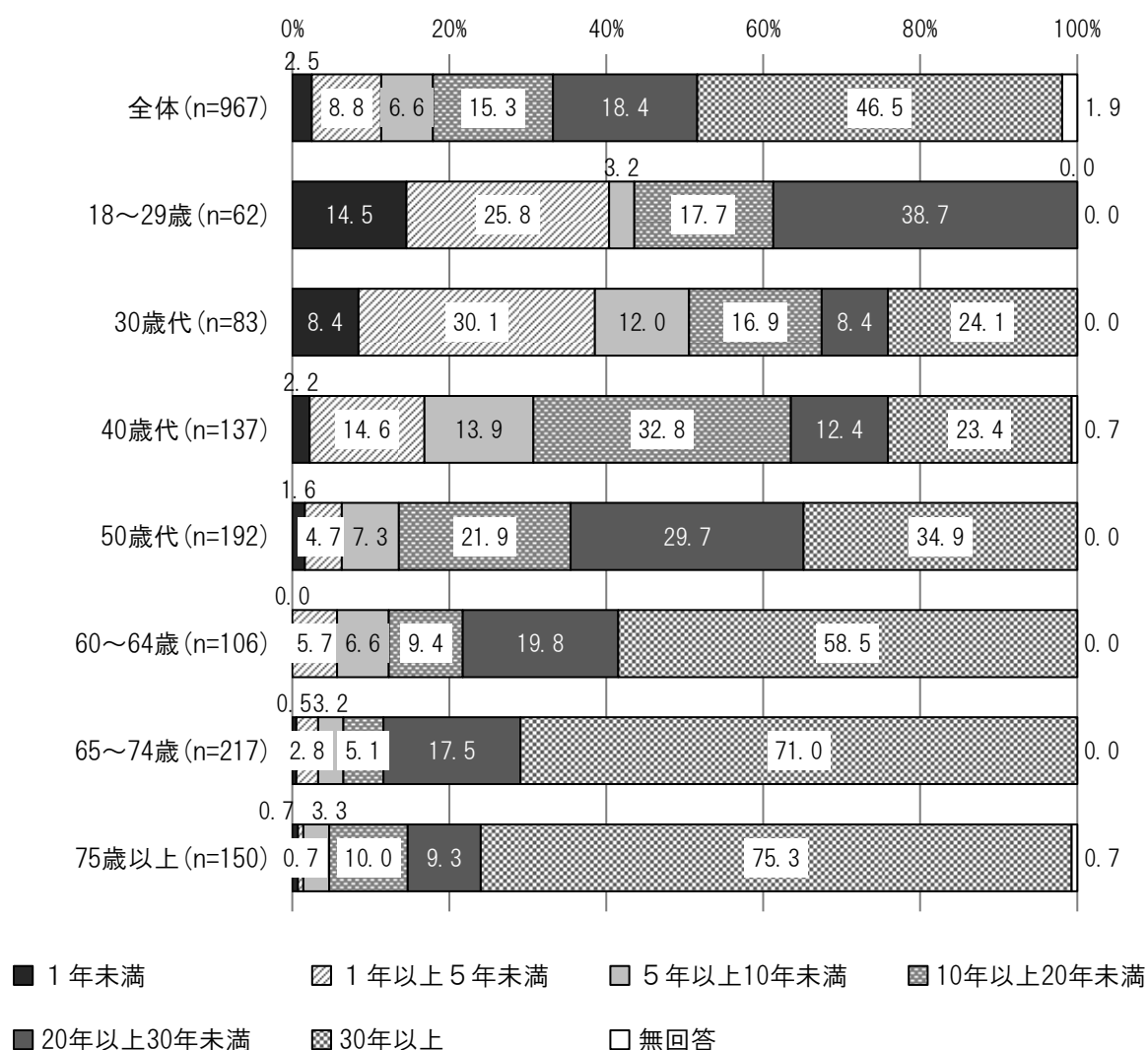


問 28 あなたは、福生市に合計で何年住んでいますか。 × 年齢

(単数回答)

全体では「30 年以上」が 46.5%と最も多く、次いで「20 年以上 30 年未満」が 18.4%、「10 年以上 20 年未満」が 15.3%となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて居住年数が高くなる傾向にあります。一方で<18～29 歳>では、「20 年以上 30 年未満」が 38.7%と最も多く、<30 歳代><40 歳代>と比べ 20 年以上の割合が高くなっています。



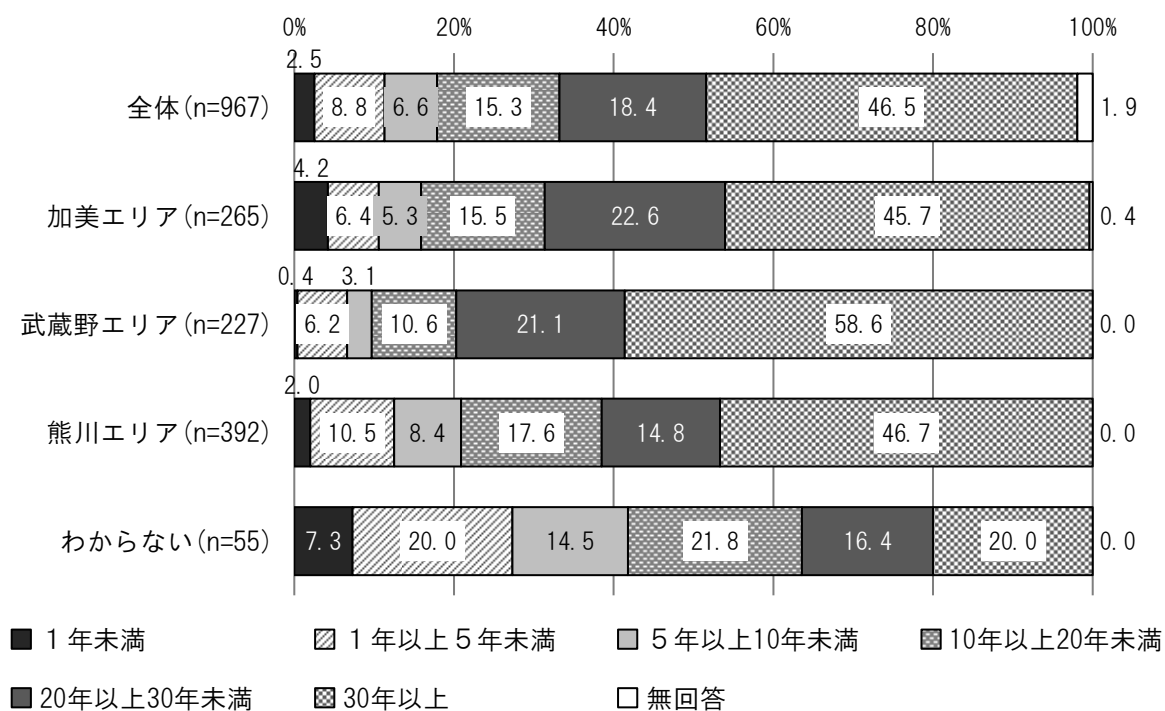
問 28 あなたは、福生市に合計で何年住んでいますか。 ×地域

(単数回答)

地域別にみると、<わからない>では、「10 年以上 20 年未満」が 21.8%と最も多く、各回答にばらつきが見られます。

<加美エリア><武蔵野エリア><熊川エリア>では、「30 年以上」が最も多くなっています。

<武蔵野エリア>では、「20 年以上 30 年未満」「30 年以上」の合計が 8 割弱と他に比べて割合が高くなっています。

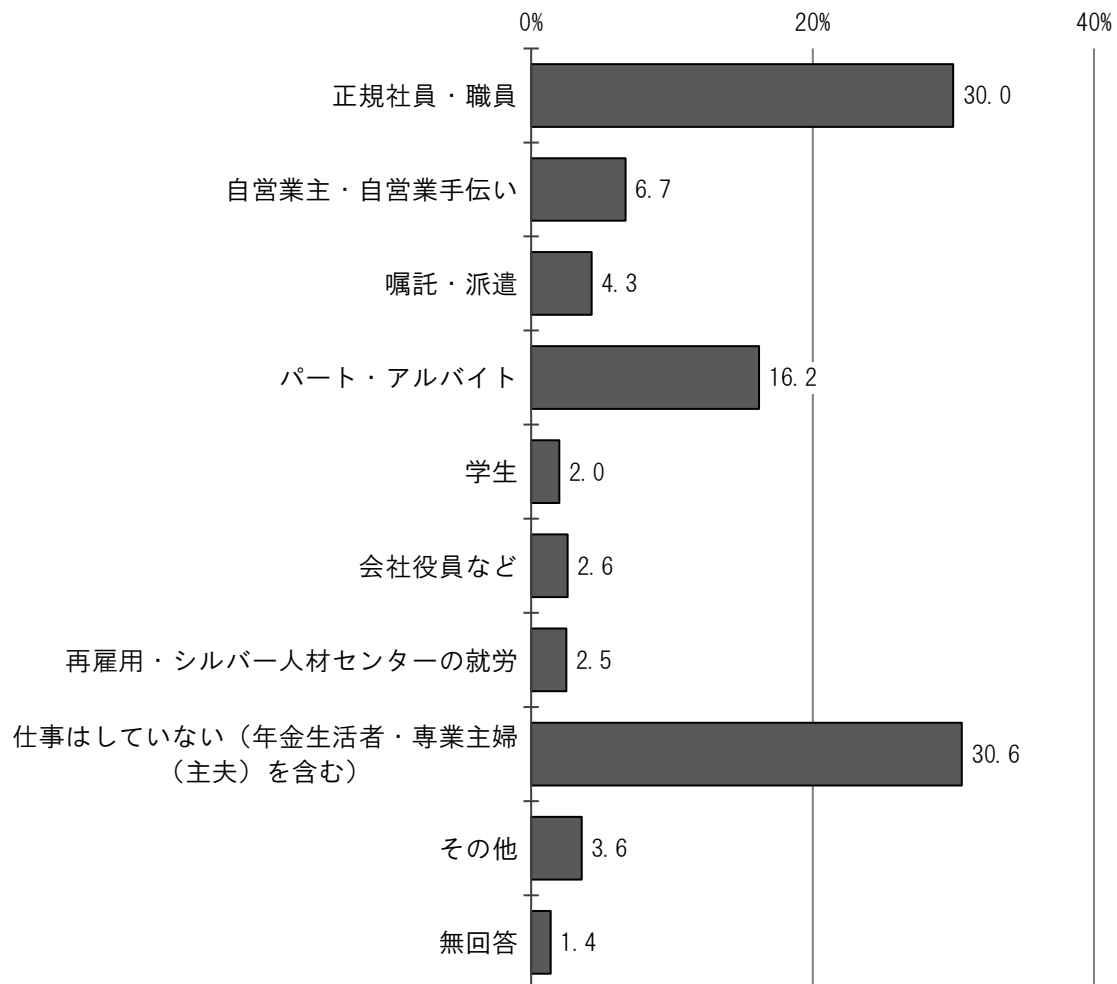


問 29 あなたの職業は。

(単数回答)

全体では「仕事はしていない（年金生活者・専業主婦（主夫）を含む）」が30.6%と最も多く、次いで「正規社員・職員」が30.0%、「パート・アルバイト」が16.2%となっています。

n=967



問 29 あなたの職業は。 × 年齢

(単数回答)

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「正規社員・職員」が 54.8%と最も多く、次いで「学生」が 27.4%となっています。

<30 歳代><40 歳代><50 歳代><60～64 歳>では、「正規社員・職員」が最も多く、次いで「パート・アルバイト」となっています。

<65～74 歳><75 歳以上>では、「仕事はしていない(年金生活者・専業主婦(主夫)を含む)」が最も多く、次いで「パート・アルバイト」となっています。

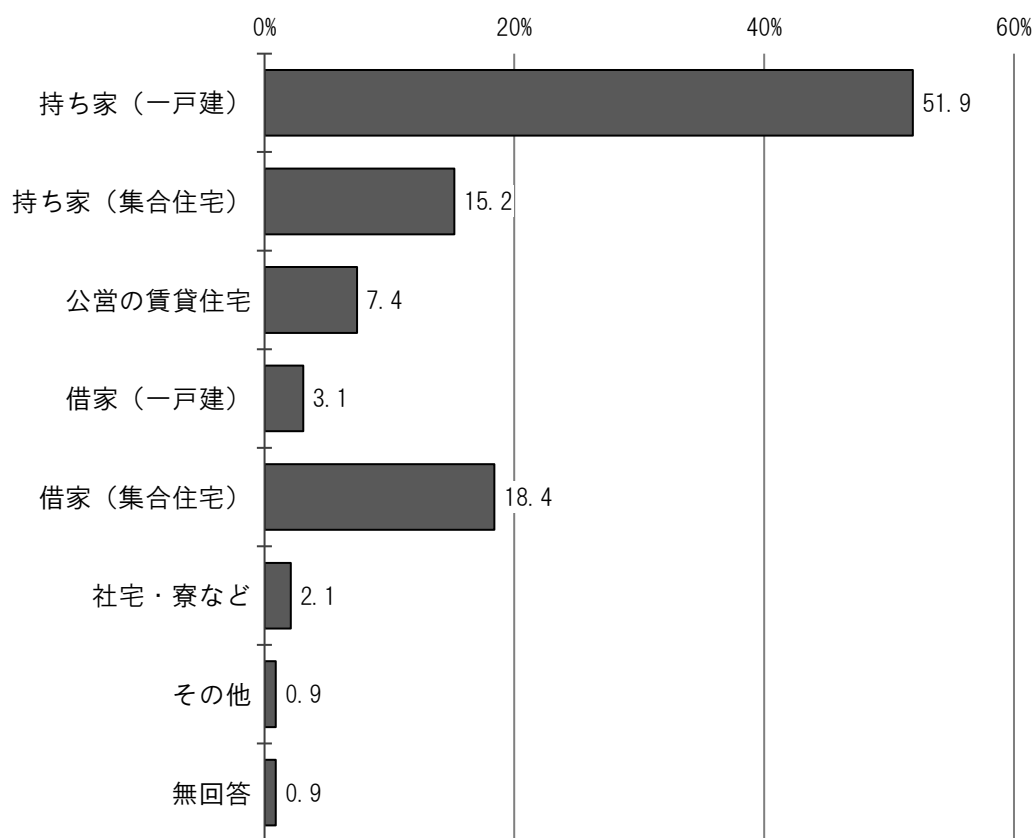
%		正規社員・職員	自営業主・自営業手伝い	嘱託・派遣	パート・アルバイト	学生	会社役員など	再雇用・シルバー人材センターの就労
年齢	全体(n=967)	30.0	6.7	4.3	16.2	2.0	2.6	2.5
	18～29歳(n=62)	54.8	1.6	1.6	6.5	27.4	-	-
	30歳代(n=83)	55.4	1.2	4.8	16.9	1.2	1.2	-
	40歳代(n=137)	55.5	6.6	2.9	19.7	-	3.6	-
	50歳代(n=192)	46.9	10.9	6.3	17.7	-	1.6	0.5
	60～64歳(n=106)	28.3	7.5	6.6	22.6	-	6.6	2.8
	65～74歳(n=217)	4.6	5.5	5.5	19.4	0.5	2.8	5.1
	75歳以上(n=150)	-	6.7	0.7	7.3	-	2.0	4.7
%		仕事はしていない(年金生活者・専業主婦(主夫)を含む)	その他	無回答				
年齢	全体(n=967)	30.6	3.6	1.4				
	18～29歳(n=62)	4.8	3.2	-				
	30歳代(n=83)	10.8	4.8	3.6				
	40歳代(n=137)	5.1	5.8	0.7				
	50歳代(n=192)	12.0	3.1	1.0				
	60～64歳(n=106)	21.7	2.8	0.9				
	65～74歳(n=217)	54.4	1.8	0.5				
	75歳以上(n=150)	71.3	5.3	2.0				

問 30 あなたの住居形態は。

(単数回答)

全体では「持ち家（一戸建）」が51.9%と最も多く、次いで「借家（集合住宅）」が18.4%、「持ち家（集合住宅）」が15.2%となっています。

n=967



問 30 あなたの住居形態は。 × 年齢

(単数回答)

年齢別にみると、<30 歳代>では、「借家（集合住宅）」が 43.4%と最も多くなっています。

%		持ち家（一戸建）	持ち家（集合住宅）	公営の賃貸住宅	借家（一戸建）	借家（集合住宅）	社宅・寮など	その他
年齢	全体(n=967)	 51.9	 15.2	 7.4	3.1	 18.4	2.1	0.9
	18～29歳(n=62)	 41.9	 11.3	 8.1	-	 19.4	 16.1	3.2
	30歳代(n=83)	 36.1	 6.0	3.6	3.6	 43.4	3.6	-
	40歳代(n=137)	 50.4	 9.5	3.6	5.1	 26.3	3.6	0.7
	50歳代(n=192)	 47.4	 15.1	7.3	4.2	 24.5	0.5	0.5
	60～64歳(n=106)	 58.5	 19.8	6.6	1.9	 11.3	-	1.9
	65～74歳(n=217)	 58.1	 20.3	8.8	2.8	 9.2	-	0.5
	75歳以上(n=150)	 56.7	 16.0	12.7	2.0	 10.0	0.7	1.3
%		無回答						
年齢	全体(n=967)	0.9						
	18～29歳(n=62)	-						
	30歳代(n=83)	3.6						
	40歳代(n=137)	0.7						
	50歳代(n=192)	0.5						
	60～64歳(n=106)	-						
	65～74歳(n=217)	0.5						
	75歳以上(n=150)	0.7						

問 30 あなたの住居形態は。 × 地域

(単数回答)

地域別にみると、<加美エリア>では、「持ち家（一戸建）」が 55.1%と最も多く、次いで「持ち家（集合住宅）」「借家（集合住宅）」が 16.2%となっています。

<武蔵野エリア>では、「持ち家（一戸建）」が 52.9%と最も多く、次いで「持ち家（集合住宅）」が 24.7%となっています。

<熊川エリア>では、「持ち家（一戸建）」が 52.6%と最も多く、次いで「借家（集合住宅）」が 20.4%となっています。

<わからない>では、「借家（集合住宅）」が 40.0%と最も多く、次いで「持ち家（一戸建）」が 32.7%となっています。

%		持ち家（一戸建）	持ち家（集合住宅）	公営の賃貸住宅	借家（一戸建）	借家（集合住宅）	社宅・寮など	その他
地域	全体(n=967)	51.9	15.2	7.4	3.1	18.4	2.1	0.9
	加美エリア(n=265)	55.1	16.2	4.9	2.6	16.2	3.0	1.1
	武蔵野エリア(n=227)	52.9	24.7	4.4	3.1	13.2	1.8	-
	熊川エリア(n=392)	52.6	8.4	12.5	2.8	20.4	1.3	1.3
	わからない(n=55)	32.7	14.5	-	5.5	40.0	5.5	-
%		無回答						
地域	全体(n=967)	0.9						
	加美エリア(n=265)	0.8						
	武蔵野エリア(n=227)	-						
	熊川エリア(n=392)	0.8						
	わからない(n=55)	1.8						

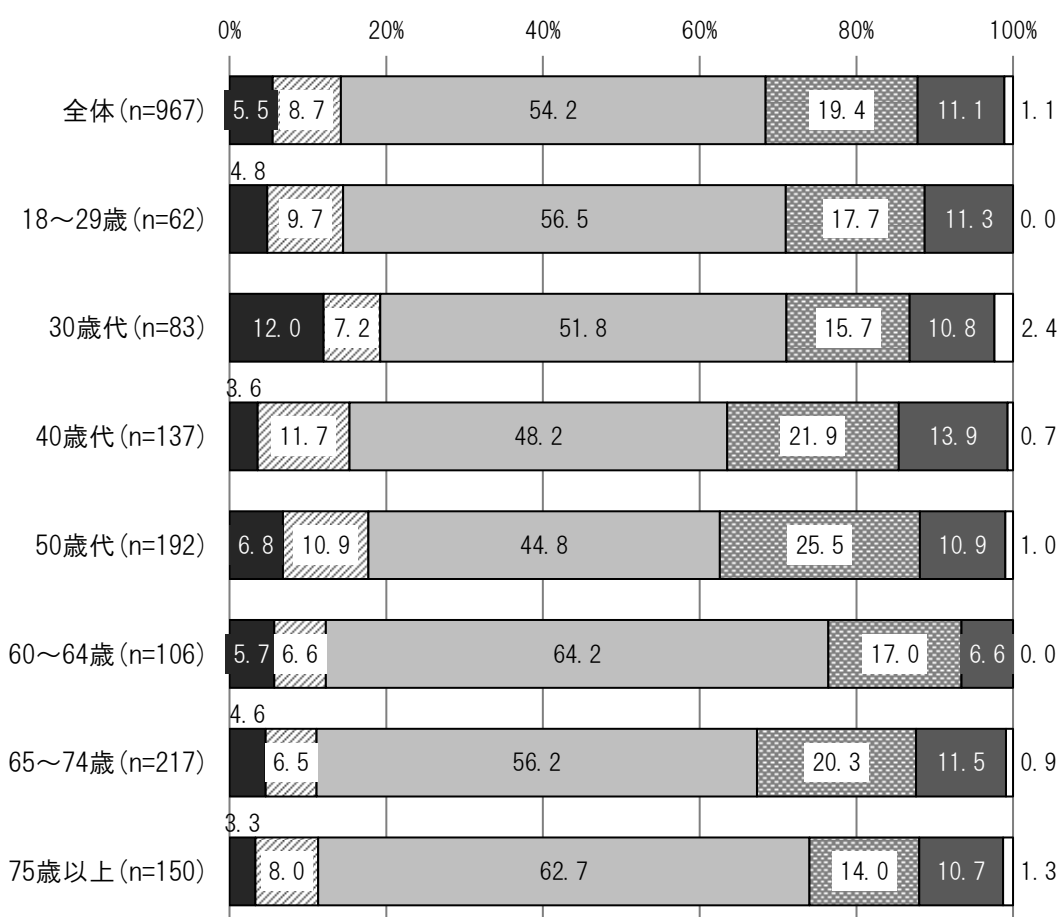
問 31 あなたの経済的な暮らし向きは、いかがですか。 × 年齢

(単数回答)

全体では「普通」が 54.2%と最も多く、次いで「やや苦しい」が 19.4%、「苦しい」が 11.1%となっています。

年齢別にみると、いずれも「普通」が最も多くなっています。

<40 歳代><50 歳代><65～74 歳>では、「やや苦しい」「苦しい」の合計が3割を超えています。

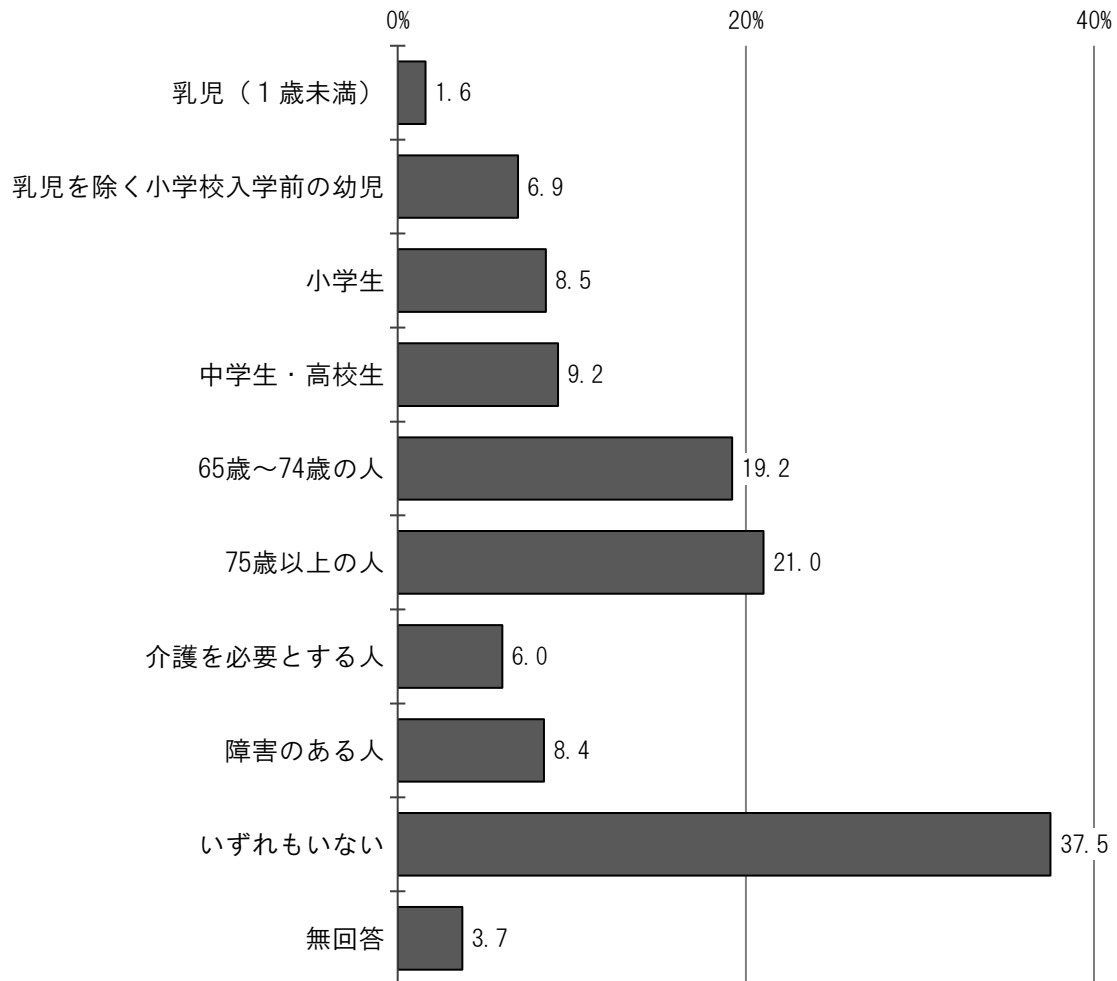


■ ゆとりがある ▨ ややゆとりがある □ 普通 ▩ やや苦しい ■ 苦しい □ 無回答

問 32 あなた自身や同居している家族の中に、次のような人はいますか。 （複数回答）

全体では「いずれもない」が 37.5%と最も多く、次いで「75 歳以上の人」が 21.0%、「65 歳～74 歳の人」が 19.2%となっています。

n=967



問 32 あなた自身や同居している家族の中に、次のような人はいますか。 × 年齢（複数回答）

年齢別にみると、<18～29 歳>では、「いずれもない」が 64.5%と最も多く、次いで「中学生・高校生」「75 歳以上の人」が 11.3%となっています。

<30 歳代>では、「いずれもない」が 34.9%と最も多く、次いで「乳児を除く小学校入学前の幼児」が 30.1%となっています。

<40 歳代>では、「小学生」が 36.5%と最も多く、次いで「中学生・高校生」が 30.7%となっています。

<50 歳代>では、「いずれもない」が 54.7%と最も多く、次いで「中学生・高校生」が 16.7%となっています。

<60～64 歳>では、「いずれもない」が 51.9%と最も多く、次いで「65 歳～74 歳の人」が 19.8%となっています。

<65～74 歳>では、「65 歳～74 歳の人」が 51.2%と最も多く、次いで「いずれもない」が 25.3%となっています。

<75 歳以上>では、「75 歳以上の人」が 58.0%と最も多く、次いで「いずれもない」が 26.0%となっています。

%		乳児（1 歳未満）	乳児を除く小学校入学前の幼児	小学生	中学生・高校生	65歳～74歳の人	75歳以上の人	介護を必要とする人
年齢	全体(n=967)	1.6	6.9	8.5	9.2	19.2	21.0	6.0
	18～29歳(n=62)	8.1	8.1	1.6	11.3	3.2	11.3	3.2
	30歳代(n=83)	8.4	30.1	14.5	4.8	13.3	7.2	1.2
	40歳代(n=137)	1.5	19.0	36.5	30.7	10.9	10.2	3.6
	50歳代(n=192)	-	1.6	6.8	16.7	2.6	14.6	5.7
	60～64歳(n=106)	-	0.9	0.9	-	19.8	13.2	10.4
	65～74歳(n=217)	-	2.3	1.8	0.5	51.2	18.4	8.8
	75歳以上(n=150)	0.7	0.7	-	2.0	10.7	58.0	5.3
%		障害のある人	いずれもない	無回答				
年齢	全体(n=967)	8.4	37.5	3.7				
	18～29歳(n=62)	6.5	64.5	-				
	30歳代(n=83)	8.4	34.9	6.0				
	40歳代(n=137)	4.4	27.0	1.5				
	50歳代(n=192)	8.9	54.7	3.6				
	60～64歳(n=106)	10.4	51.9	4.7				
	65～74歳(n=217)	11.5	25.3	3.2				
	75歳以上(n=150)	6.7	26.0	4.7				

(9) 自由意見

最後に、助け合い・支え合える地域をつくるためのアイデアや、福祉に関する事など、ご意見があればご自由にご記入ください。(自由記述)

自由意見には、210 件の記述がありました。項目別にまとめると以下の通りになります。各項目の主なご意見を抜粋して掲載しています。

項目	件数
助け合い・支える地域づくり（地域共生）に関する意見	77 件
福祉に関する意見	96 件
その他	37 件
合計	210 件

【助け合い・支える地域づくり（地域共生）に関する意見】 77 件

性別	年齢	ご意見
男性	20 歳代	人は利益のある事に執着をするので、そこを絡めた有益のある助け合い、支え合いの体制を作っておくことが合理的であると思う
男性	30 歳代	小さいマンションだとコミュニティの場が全く無い。地域・エリア毎の避難訓練などで集まると地域の方の顔が見えるかと。
男性	40 歳代	個々人のライフスタイルに合った支援（協力＝ボランティア）を市で登録制にして、自己責任、手弁当で多種類のボランティアを登録してもらい、余裕のある方に紹介していくシステムを作ればよいと思う。
男性	50 歳代	先日、お年寄り 1 人でお住まいのお宅に住宅の営業マンらしき方が、屋根を指さして何やら説明していました。私は建設関係ですので、騙されないでほしいなあと思いながら見ていました。悪質な営業が後を絶たない中、近所でしたので心配です。そういうのが嫌なので私は会社を立ち上げました。
男性	60～64 歳	意識はあってもタイミングが無かったり、きっかけが難しく行動に移せない（自分の場合、祭りやイベント等で最初はお客として関わる位の気軽さから、人や活動組織知っていくきっかけを増やして欲しい）。言葉を交わし、顔見知りとなることも一歩目かな。
男性	60～64 歳	すでにあるかもしれないが、若者と高齢者をつなぐ場があるとよいかも。
男性	60～64 歳	知人、そうでない人に関わらず、すれ違えば会釈をするような、また、気になったときには、またはそうでなくても気さくに声をかけられるような、「こんにちは」とか「どうしました?」「大丈夫ですか」など声をかけられるようなそんな地域性になるといいなと思います。
男性	65～74 歳	地道で長期的な活動が欠かせません。長期間活動して来た人、或いはグループ団体を核に短期、突発的な都合の良い時だけ参加出来る方々を受け止め、受け入れる仕組みづくりをしてその仕組みを行政からの援助の推進が望まれます。

性別	年齢	ご意見
男性	65～74 歳	地域における人とのつながりが希薄しており、誰でも参加できるイベントを企画してほしい。
男性	65～74 歳	市にて用事があっても無くても老人に会いに行く人々を集めてはどうか。一人にさせない事が必要と思う。
男性	65～74 歳	自分は今より地域の方々と関わりを持ちたいと考えていて町会の役員もしていますが、最近は町会にも入らず他人と関わりたくないと考えている人が多いです。誰とでも気軽に話せる様な地域にしていきたいです。
男性	65～74 歳	会社人間だったことの反省を踏まえ、1. シニアのスキル登録とプール制度設立。2. 上記の企業との連携化、活用化。3. 同交流制度の設立／運用のルーチン化。4. リスキング制度の設定／PR／事業化。
男性	65～74 歳	このようなアンケートでもなんでもよいが実態を把握すべき。困った人（経済的、メンタル、体力等）がどれほどいるのかピンポイントで支援支えあうことができるよう考慮必要か。
男性	75 歳以上	気軽に参加出来る団らん会。
男性	75 歳以上	最近近所にどんな人が住んでいるか分からない。数カ月前に近所に若い夫婦が住むようになったので挨拶に行ったら「個人情報教えられない」と断られた。家の前の道路等は一切清掃しないので、風が強い翌日は落ち葉などが汚い。気になって道路の掃除を 40 年くらい手伝っていたが、若い夫婦の地域との繋がりを持とうとしない考えに、現在は挨拶を交わす事もない。町会との繋がりを持つ家が少なく、地震など災害が起こったらどうするんだろう。回覧板を回す町内会の家が少なく、すぐに町会長の番が回ってくる。
女性	30 歳代	福生市に住んで未だ浅いですが、行政のサポートが充実していて、地域の行事も盛んなので子育てや日々の生活がしやすいと思っています。多摩川という自然もあることですし、ますます活気のある街になってほしいなと思います。高齢者の多い地域だなと思うので、新しい感覚(自分を大事にすること、多様性を認めること、テクノロジーを取り入れること)を教えられる場、交流会のようなものがあったら、ひとり暮らしの老人の方も明るい未来を生きるエッセンスを知れる機会になるのではと思います。
女性	40 歳代	まずは顔見知りになる事が大切だと思うので私は挨拶をするようにしています。地域に住んでいて顔を合わせるようにして。
女性	40 歳代	地域のお祭りは年齢も幅広く集まる印象があるので今後も続けていくと顔見知りも増えて良いと思う。子供の人数が減っているのでも、子供も混ざれる活動は各学校で掲示するなど、学校を通して知らせると良いのではないかなと思う。
女性	50 歳代	気軽に参加が出来て楽しめる企画等をしたら良いと思う。特に若い世代に参加が必要と感じます。

性別	年齢	ご意見
女性	50 歳代	地域の人が気軽に集まれる場所があると良いと思います。特に高齢者も気軽に寄れる場所が欲しいです。福東会館が近くに有りますが全く活用出来ていません。ここを広く皆が使える場所にして欲しい。昭島市の武蔵野会館を参考にして学習室を作り何か展示をして足を運んでもらう。お茶を飲み休憩出来るスペースを作る。是非お願いします。
女性	50 歳代	外国籍の方との交流が有るといいかもしれないです
女性	50 歳代	自分からは、一歩は踏み出せないで、周りからの声かけなどが必要だと思う。
女性	60～64 歳	ボランティアに参加する為にはどうすれば良いのか？最初は解らなかつた社会人だったので会社を辞めて始めて地域の事が見えて来た状態でした。
女性	60～64 歳	福生市には公園が幾つもありますが、集まって雑草を取る事を市民で行う事も、地域の人と知り合える機会だと思います。なんでも業者任せでなく、市民で街を綺麗にする運動あると、気軽にボランティア活動に参加し易いと思います。
女性	60～64 歳	福生はお祭りなど、地域がまだ生きていて感じています。子供が学校へ通う頃は、私自身、学校や子供会関連のさまざまな活動に参加しました。しかしそれを過ぎると正社員で働いていたせいもあり、忙しさを理由に遠ざかりましたが、その時に様々な人たちと知り合えたことは後々よかったと思っています。おそらく、子どもがいない世帯などは、地域活動に関わるきっかけがなかなかないのではないのでしょうか。そういう人たちが、まず参加できて、地域の人たちと知り合える面白い講座やイベントがあればよいと思います。
女性	65～74 歳	引き続きまちづくりボランティアなど、積極的にかかわらせていただきます。
女性	75 歳以上	家に引き籠らずに積極的に社会と関われるように声掛けして行けたら良いと思います。
女性	75 歳以上	一番身近な町会の関わり合いが大切だと思う。町会の行事に参加して、顔見知りになり、町会内の 1 人住まいの方等の情報やその他の情報を知り、気遣うことができる。役員のなり手が少なくなり行事も細々になりつつある。リーダーを育てるような企画があればよいのでは。
女性	75 歳以上	公園の落ち葉を掃きながら、朝夕の挨拶、ちょっとしたおしゃべりを楽しんでいます。笑顔と挨拶が心を暖かくしてくれたら嬉しいです。気負わず無理せず楽しくがモットーです。思いが書けて良かったです。

【福祉に関する意見】 96 件

性別	年齢	ご意見
男性	40 歳代	自立自助の考えが大切。頼れる環境作りも必要だが、個々の知識や行動力を上げて、極力頼らなくて済むことも地域への貢献だと思う、このアンケートも考えさせられるという点でとても役立っている。

性別	年齢	ご意見
男性	40 歳代	「地域共生社会」への取組みは長年実現してほしいと思っていた。単身世帯の増加で孤立傾向になる社会でも居心地良いと思う若者も増加し、地域との関わりは必要ないとする者が多いと思う。しかし、人間は一人では生活不可能。助け合う精神が減少する世の中になりつつあり、心配である。一人一人の考え方が変化する様、全国民一人一人に理解される制度を確立してほしい。
男性	50 歳代	総合的・包括的な窓口を設け、そこから各自・案件について必要な支援を複数の機関を組み合わせで対応することが必要と思う。
男性	65～74 歳	どんな困りごと（心配ごと）でも、気軽に相談できる窓口が欲しい。（一人暮らしなので自分一人で考えこんでしまうので、良くないと思う。）
女性	30 歳代	普段あまり考える事のなかった福祉について改めて考えるキッカケになりました。これからもっとより良い福生になるように協力しつつ期待しています。
女性	40 歳代	再犯者に関しては性犯罪や殺人などはいくら更生したといわれても受け入れられないと思う。子どもと引きこもっている方が沢山いると思う。そういう人が気軽に行ける場所が必要です。
女性	40 歳代	福祉に関する意識を高めることは難しいといつも感じる。何かをきっかけに意識することがあっても続けることが難しいとも感じる。福祉に関してもっと気軽に始められて続けられるような活動や知識を得る機会をもっと作ってほしい。
女性	50 歳代	地域の福祉について窓口が一本化されていないような感じで、問い合わせ先がどこにすればいいのかとても分かりにくい。窓口を一つにしてそこから次につなげていくようによろず窓口を作って欲しい。地域包括支援センターが離れている場所にあり不便な気がする。
女性	50 歳代	困っている事の種類に関わらず気軽に相談できる窓口（電話やメール）が欲しい
女性	65～74 歳	コロナ禍前迄、子育てボランティアを（ホット広場）や児童館での読み聞かせを経験しました。今私の母（近くの市に住む）の介護の為、ボランティアから遠ざかり、現在の子育ての方々、教育現場の状況を知る事が余り無いといったところです。母の介護を経験し、少しずつ介護の大変さを知ったところです。が、この福生市に於いて、生活に困っている方々がどの程度いらっしゃるのか…。時々、スーパーに困っている方々に食品の提供のポスターを見て、子育て中の方々には、以前に比べ様々な手当てが有ります。がしかし、高齢の方々に年金では生活もままならない方もいらっしゃる様で、今現在、福生市ではどうなのでしょう？
女性	75 歳以上	福生市は老人にすごく優しいです。福祉の面では福生市は最高で言う事は有りません。市役所に行っても対応がとっても良いですね。いつまでもこんな感じで変わらないで欲しいです。
女性	75 歳以上	福生市は福祉に関してしっかりしていると思います。住み良い町です。

性別	年齢	ご意見
女性	75 歳以上	共生社会を目指すには誰もが平等に生活できる事が必要。疑問に対し、発信した者が勝ちにならぬ様にして欲しいです。

【その他】 37 件

性別	年齢	ご意見
男性	20 歳代	福生市が近隣の市より人口減少、財政が厳しいというデータを見ました。学校給食の公費負担等若い世代にアプローチする方向をこのまま続けて欲しいです。
男性	20 歳代	昔から暮らしやすい街だとは思っています。これからも頑張っ欲しいです。
男性	40 歳代	アンケート内容は大事な問題ですが答えが無く難しい事だと思います。正にケースバイケースで地域ごとにそれぞれやる事は異なるかと思いますが全体の奉仕者として諦めずに頑張ってください。
男性	60～64 歳	アンケート結果を反映して欲しい。福祉行政に期待する。
男性	65～74 歳	この様なアンケート（調査）を多く行って、実情を確認して頂きたいと思います。
男性	75 歳以上	福生市に長く住んでいますが、今は満足しています。
回答しない	50 歳代	良いアンケートだと思います。結果（統計）を知ることができたらと思います。

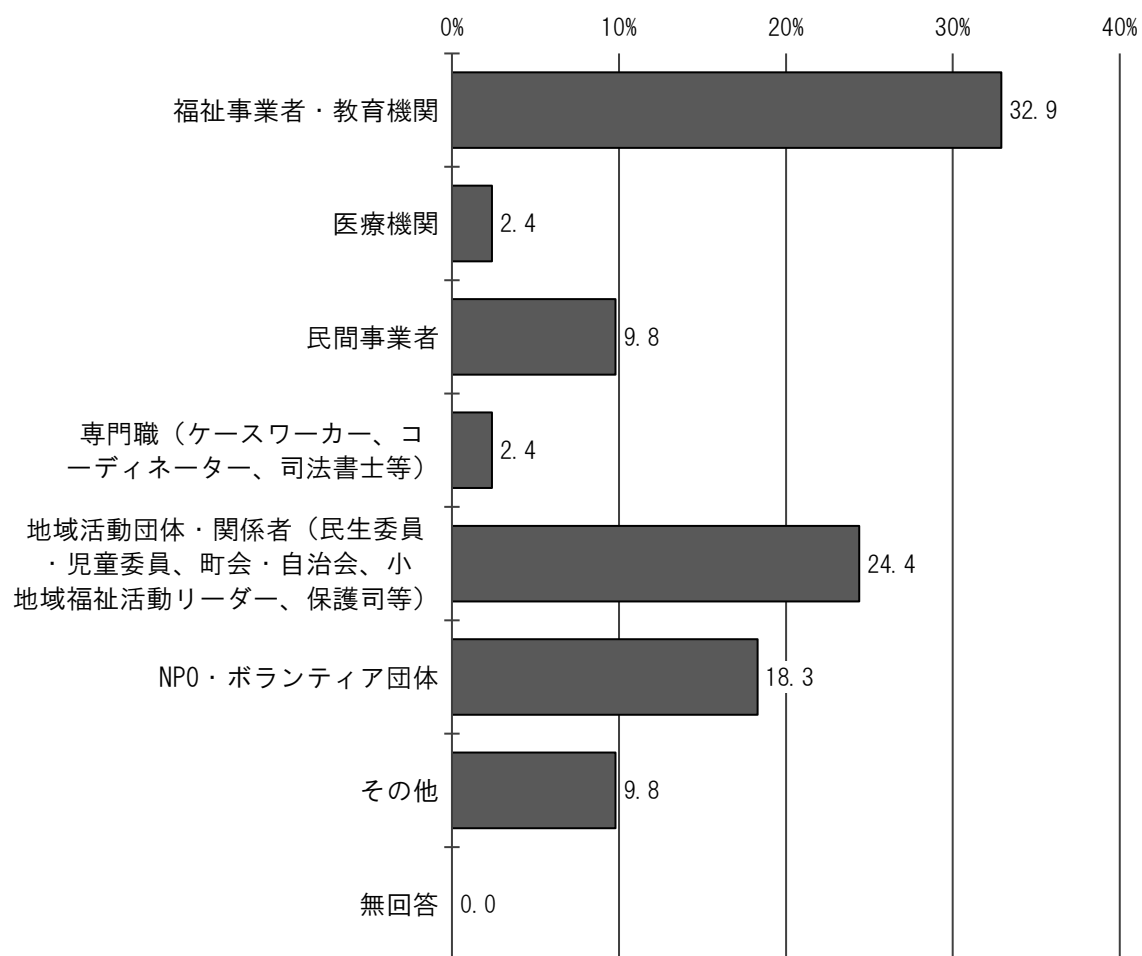
3 地域福祉関連団体調査結果

(1) 貴団体・事業者のことについて

問1 団体区分（単数回答）

「福祉事業者・教育機関」が32.9%と最も多く、次いで「地域活動団体・関係者（民生委員・児童委員、町会・自治会、小地域福祉活動リーダー、保護司等）」が24.4%、「NPO・ボランティア団体」が18.3%となっています。

n=82

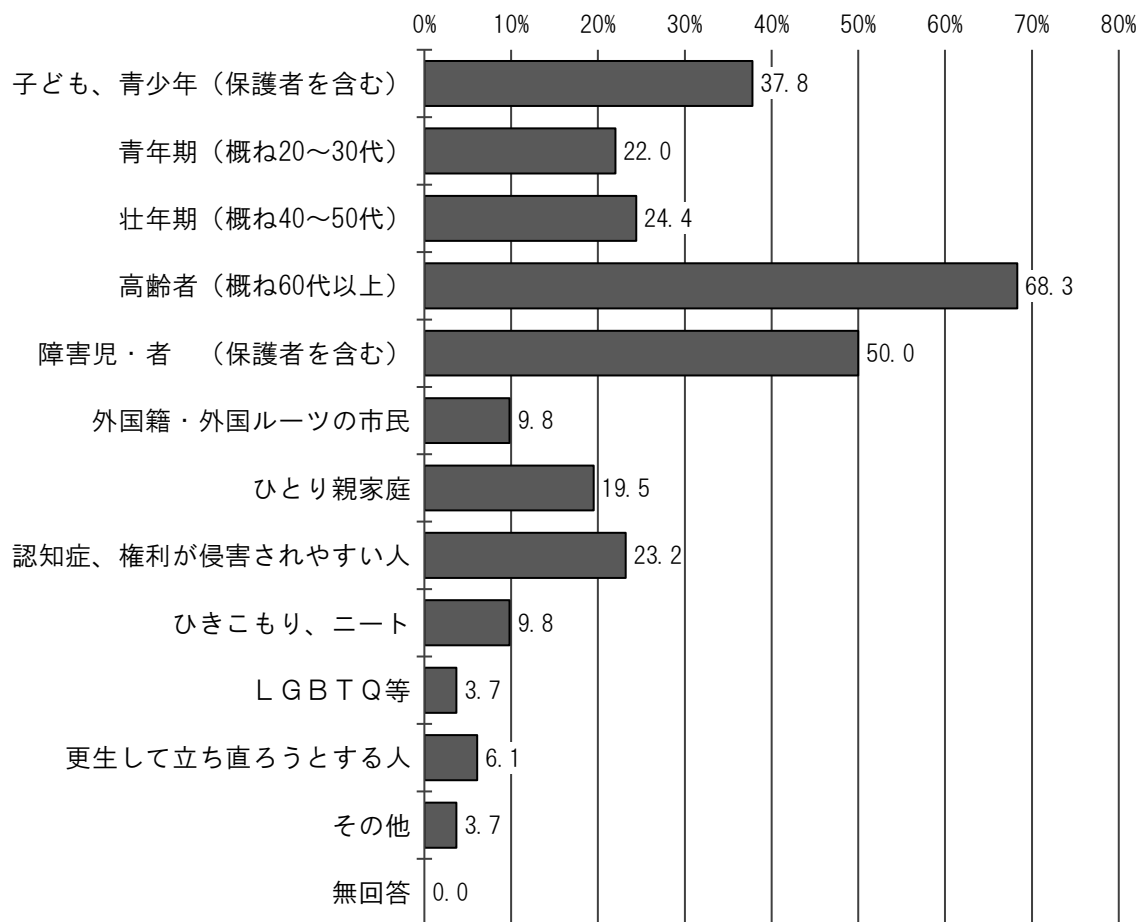


問1 主な対象者・世帯

(複数回答)

「高齢者（概ね60代以上）」が68.3%と最も多く、次いで「障害児・者（保護者を含む）」が50.0%、「子ども、青少年（保護者を含む）」が37.8%となっています。

n=82

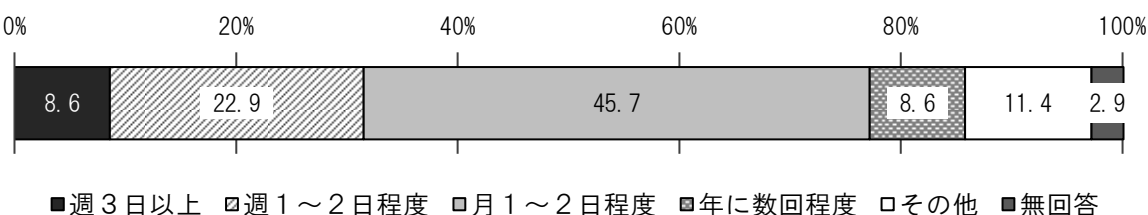


問2 団体区分が「5 地域活動団体・関係者」「6 NPO・ボランティア団体」の方 貴団体は、どのくらいの頻度で活動を行っていますか。

(単数回答)

「月1～2日程度」が45.7%と最も多く、次いで「週1～2日程度」が22.9%、「その他」が11.4%となっています。

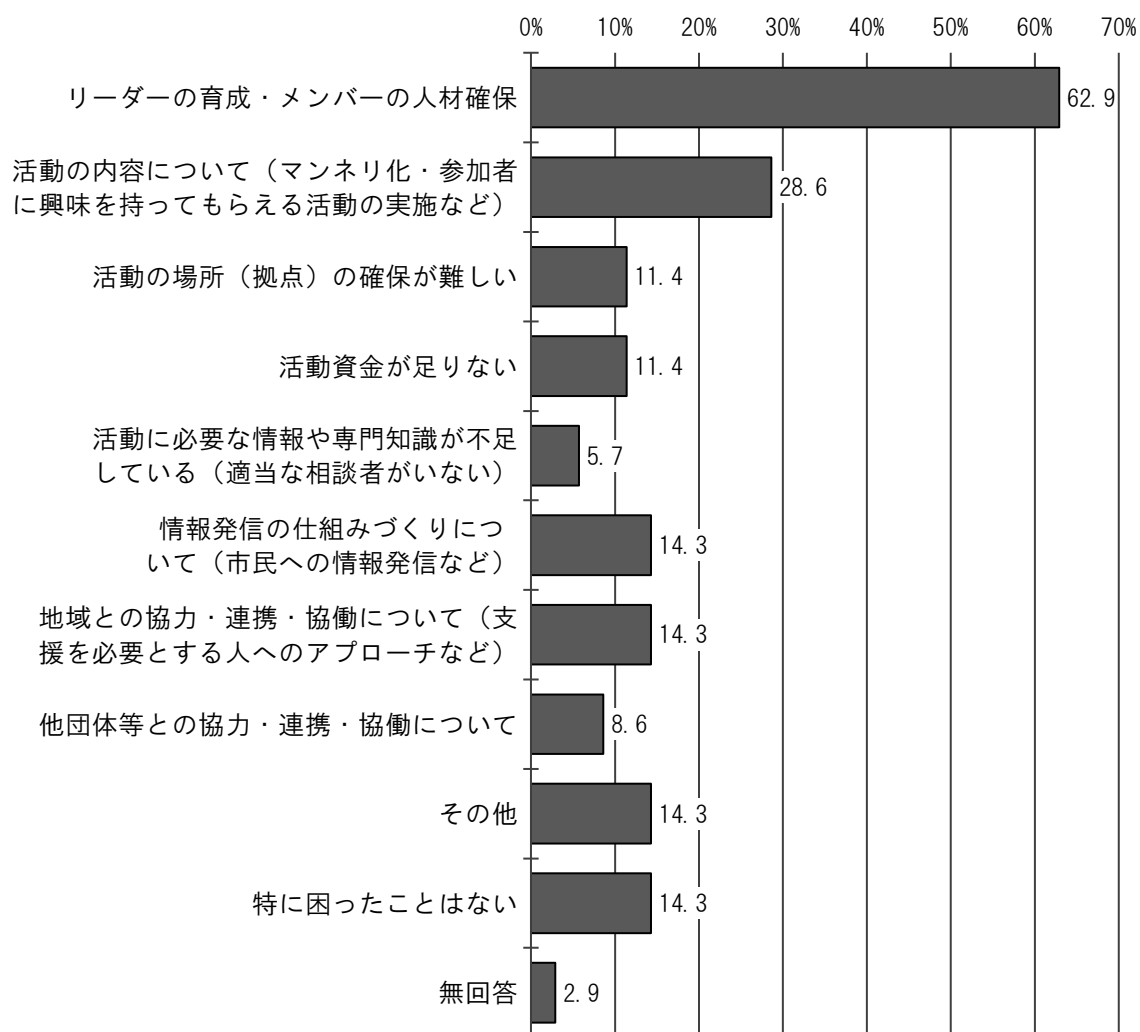
n=35



問3 団体区分が「5 地域活動団体・関係者」「6 NPO・ボランティア団体」の方
貴団体が活動を行ううえで困っていることはどのようなことですか。（複数回答）

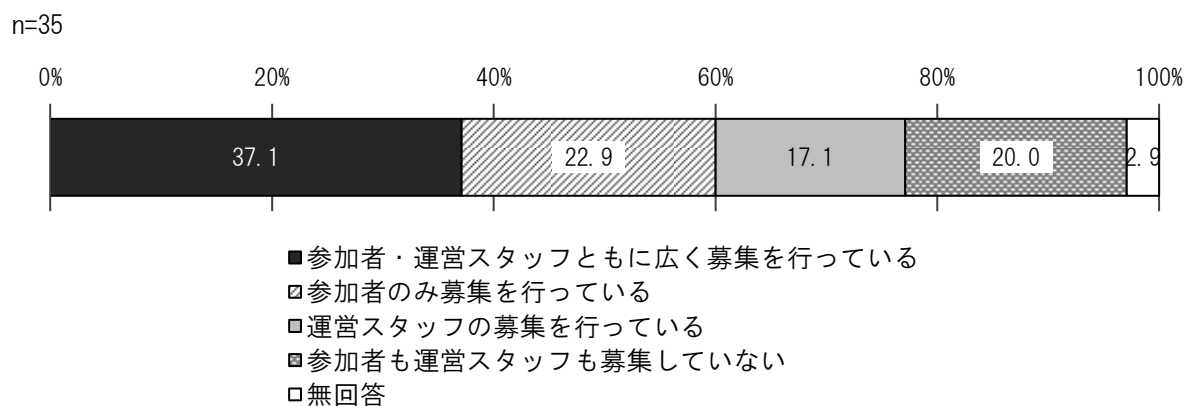
「リーダーの育成・メンバーの人材確保」が62.9%と最も多く、次いで「活動の内容について（マンネリ化・参加者に興味を持ってもらえる活動の実施など）」が28.6%、「情報発信の仕組みづくりについて（市民への情報発信など）」「地域との協力・連携・協働について（支援を必要とする人へのアプローチなど）」「その他」「特に困ったことはない」が14.3%となっています。

n=35



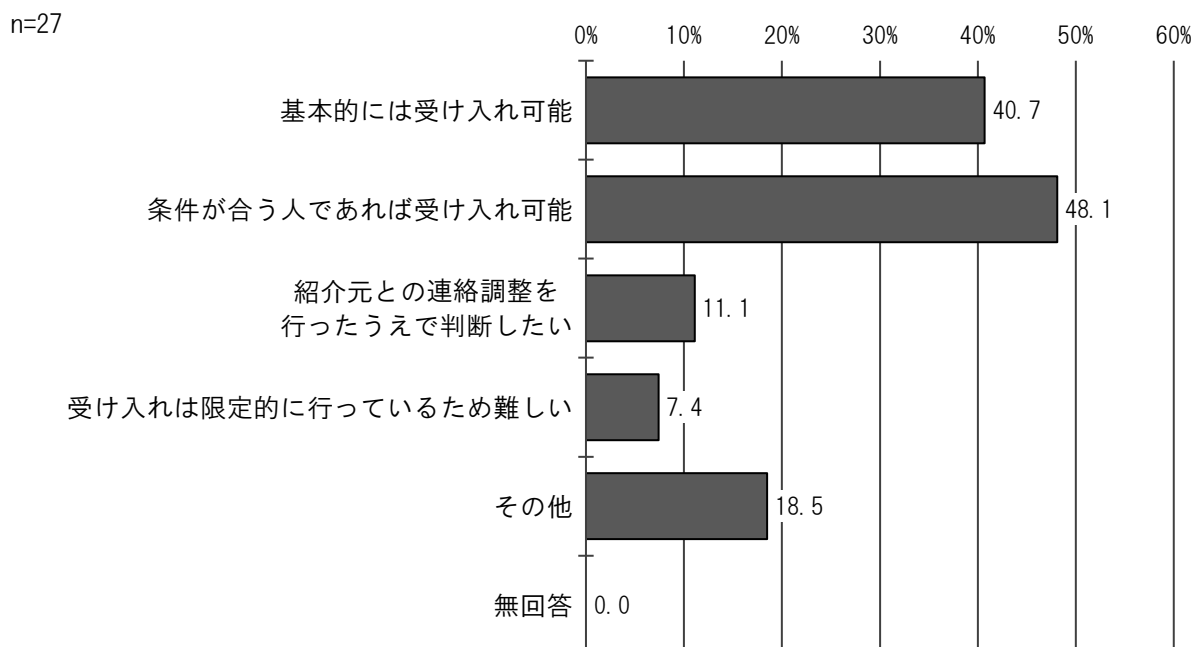
問4 団体区分が「5 地域活動団体・関係者」「6 NPO・ボランティア団体」の方
貴団体は現在参加者・運営スタッフの募集を行っていますか。 (単数回答)

「参加者・運営スタッフともに広く募集を行っている」が37.1%と最も多く、次いで「参加者のみ募集を行っている」が22.9%、「参加者も運営スタッフも募集していない」が20.0%となっています。



問5 問4で「1」～「3」(募集を行っている)と答えた方
行政や社協、地域活動団体等から、新規参加者・運営スタッフの紹介があった場合、貴団体での受け入れは可能ですか。 (複数回答)

「条件が合う人であれば受け入れ可能」が48.1%と最も多く、次いで「基本的には受け入れ可能」が40.7%、「その他」が18.5%となっています。

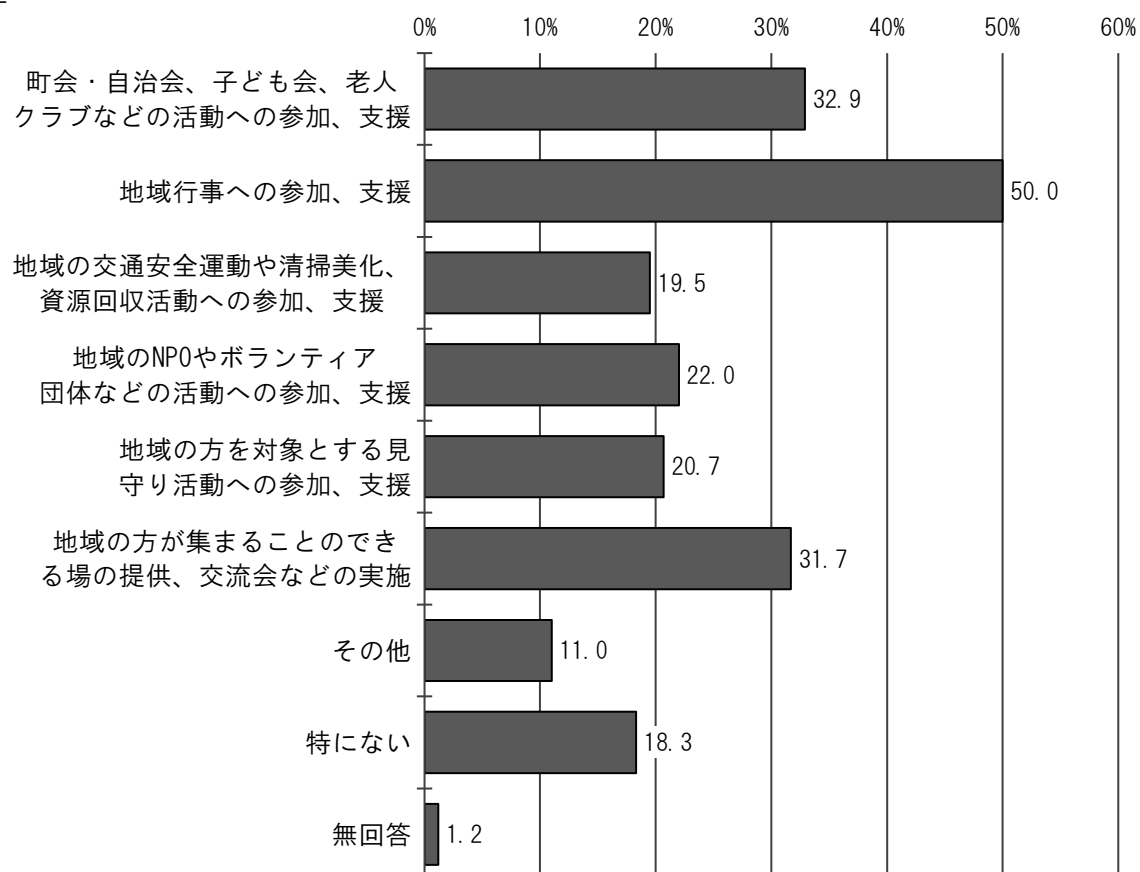


(2) 地域での取組について

問6 貴団体・事業者の活動の中で、地域と一緒にやっていることや、地域に向けて行っていることはありますか。(複数回答)

「地域行事への参加、支援」が50.0%と最も多く、次いで「町会・自治会、子ども会、老人クラブなどの活動への参加、支援」が32.9%、「地域の方が集まることのできる場の提供、交流会などの実施」が31.7%となっています。

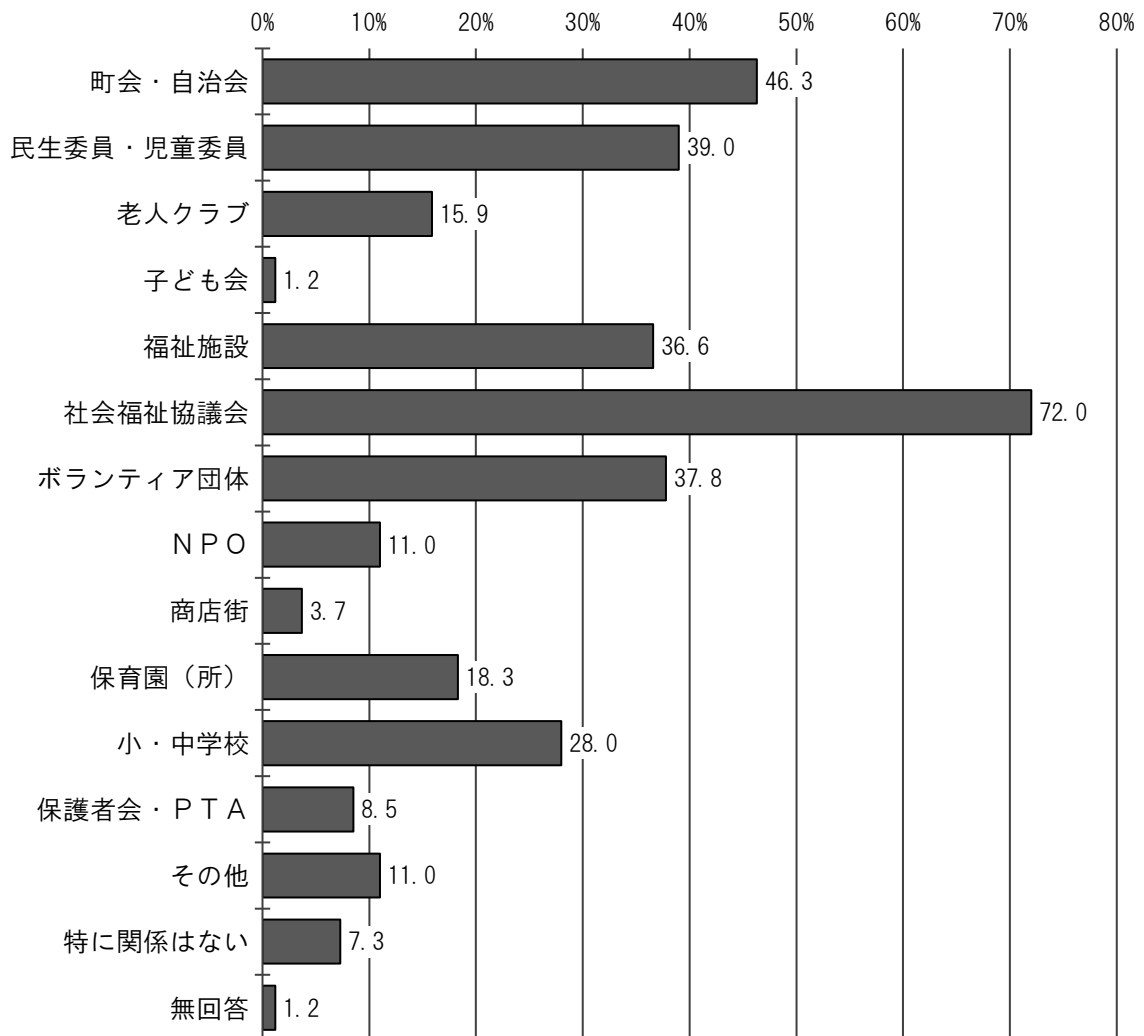
n=82



問7 貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。(複数回答)

「社会福祉協議会」が72.0%と最も多く、次いで「町会・自治会」が46.3%、「民生委員・児童委員」が39.0%となっています。

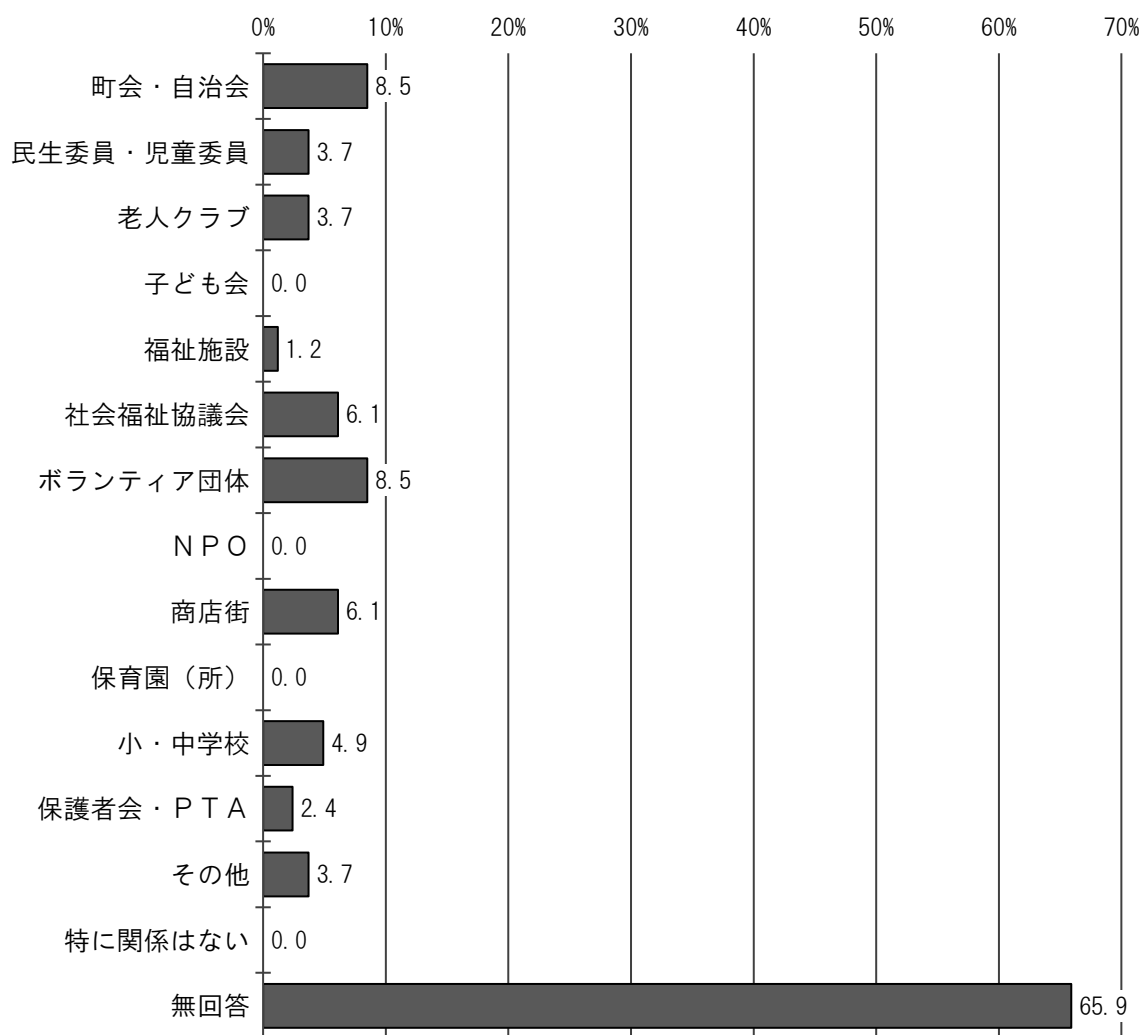
n=82



問8 今後、連携していきたい他の団体や専門職はありますか。該当する番号を選び（複数回答可）、連携したい具体的な内容をご記入ください。（自由記述）

「町会・自治会」「ボランティア団体」が8.5%と最も多く、次いで「社会福祉協議会」「商店街」が6.1%となっています。

n=82



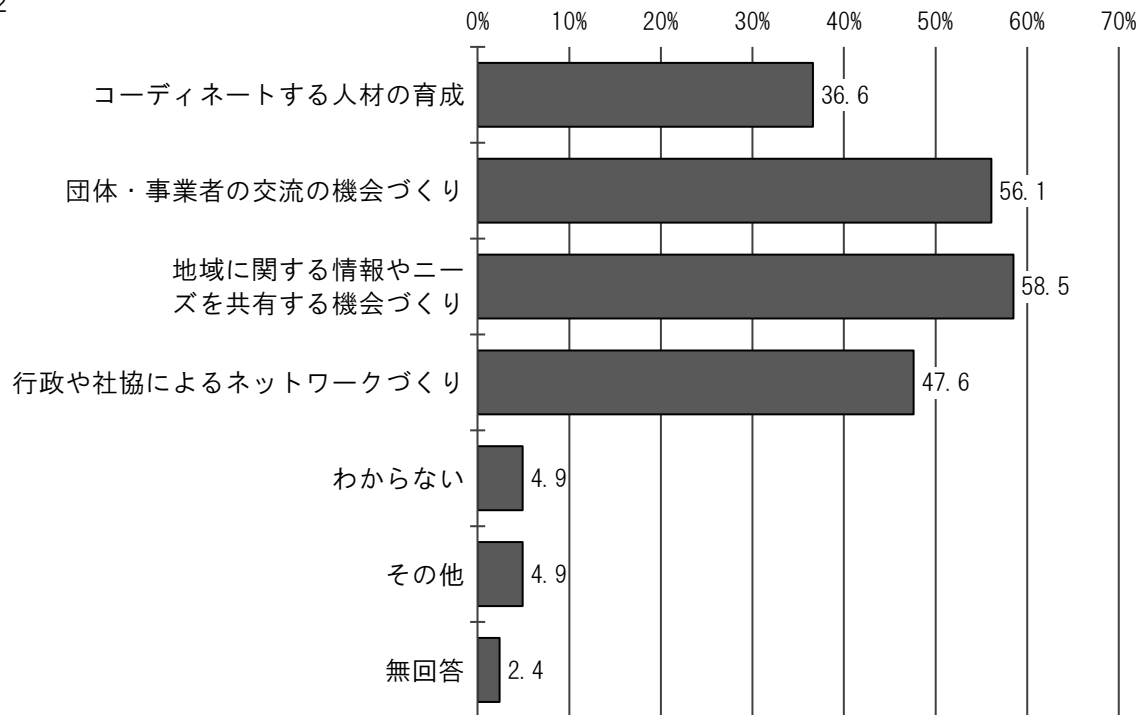
団体区分	連携したい具体的な内容
連携先：町会・自治会	
福祉事業者・教育機関	自治会、町会との連携を更に強めて行きたい。
民間事業者	イベント活動・相談活動。
その他	町会・自治会より当センターに会員として入会できる機会を設けたい。
その他	地域での障がい者の認知、支援等。
連携先：民生委員・児童委員	
NPO・ボランティア団体	生きづらさを感じている人・生活困窮者に相談場所の一つとして案内して欲しい。
NPO・ボランティア団体	一人暮らしで話し相手がいない方への傾聴。
連携先：老人クラブ	
民間事業者	健康に対する意識づくり等、ACPについて。
民間事業者	イベント活動・相談活動。
連携先：福祉施設	
福祉事業者・教育機関	人材確保について。
連携先：社会福祉協議会	
地域活動団体・関係者	サロン活動への協力。
地域活動団体・関係者	やはり専門の知識もある方達ですので指導が受けられる。
その他	材料や容器の管理と保管の場所を貸して欲しい。
その他	障害児・者の親は多くの葛藤や悩みを抱えています。同じ立場だからこそ分かり合える。専門家とはまた違う高い共感性を生かして傾聴の機会の場を作りたい。
連携先：ボランティア団体	
地域活動団体・関係者	同じ小地域活動の団体との情報交換交流。各ボランティア団体との情報交換。
地域活動団体・関係者	ボランティア団体との連携の仕方。
NPO・ボランティア団体	他団体（未就学児対象）の活動の趣旨や活動日等の一覧表があると、可能な協力体制が構築できる。
NPO・ボランティア団体	団体の活動内容。
NPO・ボランティア団体	対面傾聴をされている傾聴ボランティア団体。電話傾聴スタッフとして参加して貰えるか？
NPO・ボランティア団体	市民大学（町田や東松山など事例あり）を創設して、生涯学習の場と兼ねて市の計画に沿って「くらしと健康」「歴史・郷土」「国際・文化」など学ぶ場の提供。
その他	現状も協力し合っているので継続希望。

団体区分	連携したい具体的な内容
連携先：商店街	
福祉事業者・教育機関	職場実習の受け入れ等をお願いしたい。
福祉事業者・教育機関	商店だけでなく企業も含め資源、場所、知識、技術の提供を受けたい。
医療機関	喫茶店等の飲食店でのオレンジカフェの開催。
地域活動団体・関係者	商店街とイベントなど開催し障害者の啓蒙活動をしてみたい。
NPO・ボランティア団体	活動全般のご協力として食品のご提供、会場のご提供のお願いをしたいと思います。
連携先：小・中学校	
福祉事業者・教育機関	福祉教育の一環として当事者を交えた交流会や当事者（発達障害理解）をモデルにした疑似体験プログラム等の体験。
福祉事業者・教育機関	事業開始の折、児童発達支援に関連する機関との繋がりの中で展開している自治体で求められる福祉ニーズの抽出。
地域活動団体・関係者	小、中学校との連携は大切と思う。
連携先：保護者会・PTA	
NPO・ボランティア団体	経済的に困りの子育て世帯への情報提供のご協力。
連携先：その他	
福祉事業者・教育機関	事業開始の折、児童発達支援に関連する機関との繋がりの中で展開している自治体で求められる福祉ニーズの抽出。
民間事業者	教育委員会、医療機関、保育所等。
地域活動団体・関係者	犯罪予防、再犯防止の啓発活動。
連携先：町会・自治会、民生委員・児童委員	
地域活動団体・関係者	高齢者の見守り活動。
連携先：町会・自治会、老人クラブ	
地域活動団体・関係者	同じ地域に住んでいるので顔見知りでもあるので、話し合いや相談も出来るので。
連携先：町会・自治会、社会福祉協議会	
地域活動団体・関係者	町会、自治会との連携は大切と思う。
連携先：小・中学校、保護者会・PTA	
NPO・ボランティア団体	令和5年度では不登校児童・生徒数が150名を超え、中学生では都平均以上となっている現状をふまえ、子どもの昼間の居場所やフリースクール、親の会の活動につなげる

問9 団体・事業者同士の連携、協力関係を生むためには、どのような取組が必要だと思いますか。（複数回答）

「地域に関する情報やニーズを共有する機会づくり」が 58.5%と最も多く、次いで「団体・事業者の交流の機会づくり」が 56.1%、「行政や社協によるネットワークづくり」が 47.6%となっています。

n=82

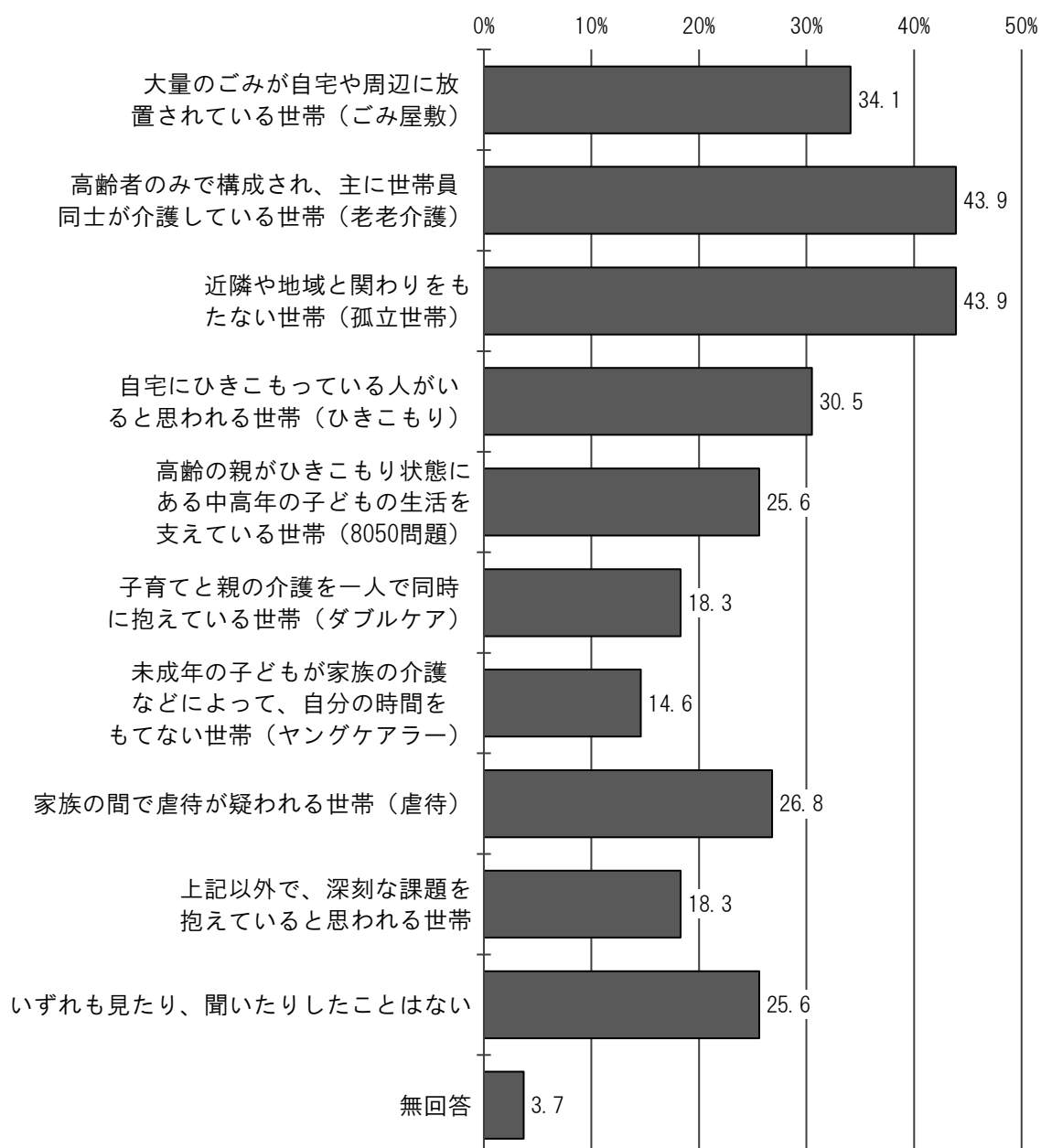


(3) 活動（事業）を通して見える地域の状況について

問10 活動（事業）を通して、次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。
（複数回答）

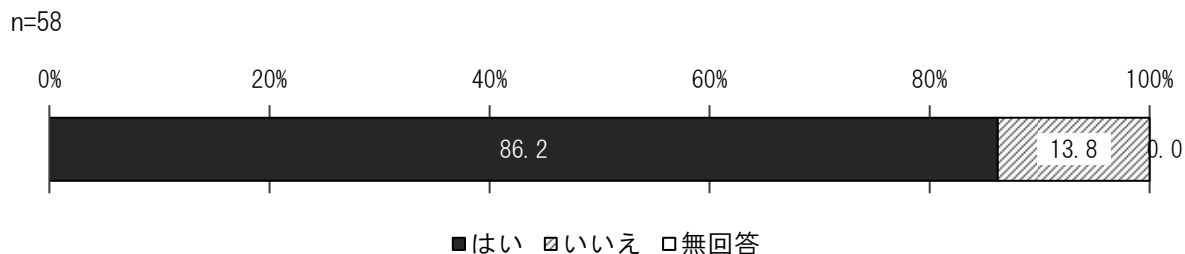
「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯（老老介護）」「近隣や地域と関わりをもたない世帯（孤立世帯）」が43.9%と最も多く、次いで「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）」が34.1%、「自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯（ひきこもり）」が30.5%となっています。

n=82



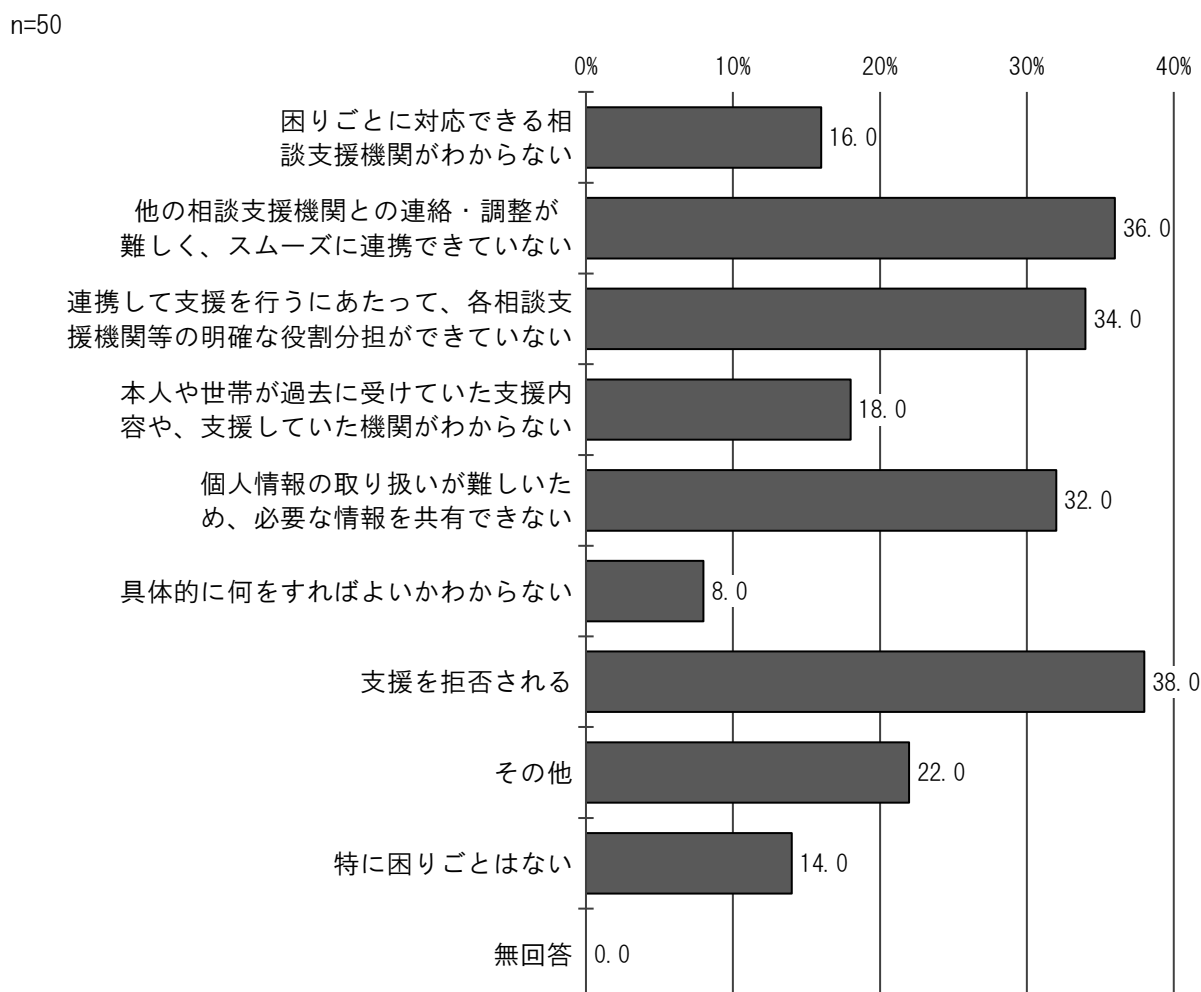
問11 問10で「1」～「9」（見たり聞いたりしたことがある）と答えた方
問10の1～9の項目の世帯を支援したことがありますか。（単数回答）

「はい」が86.2%と、「いいえ」の13.8%を上回っています。



問12 問11で「はい」と答えた方
支援している中でどのような困りごとがありましたか。（複数回答）

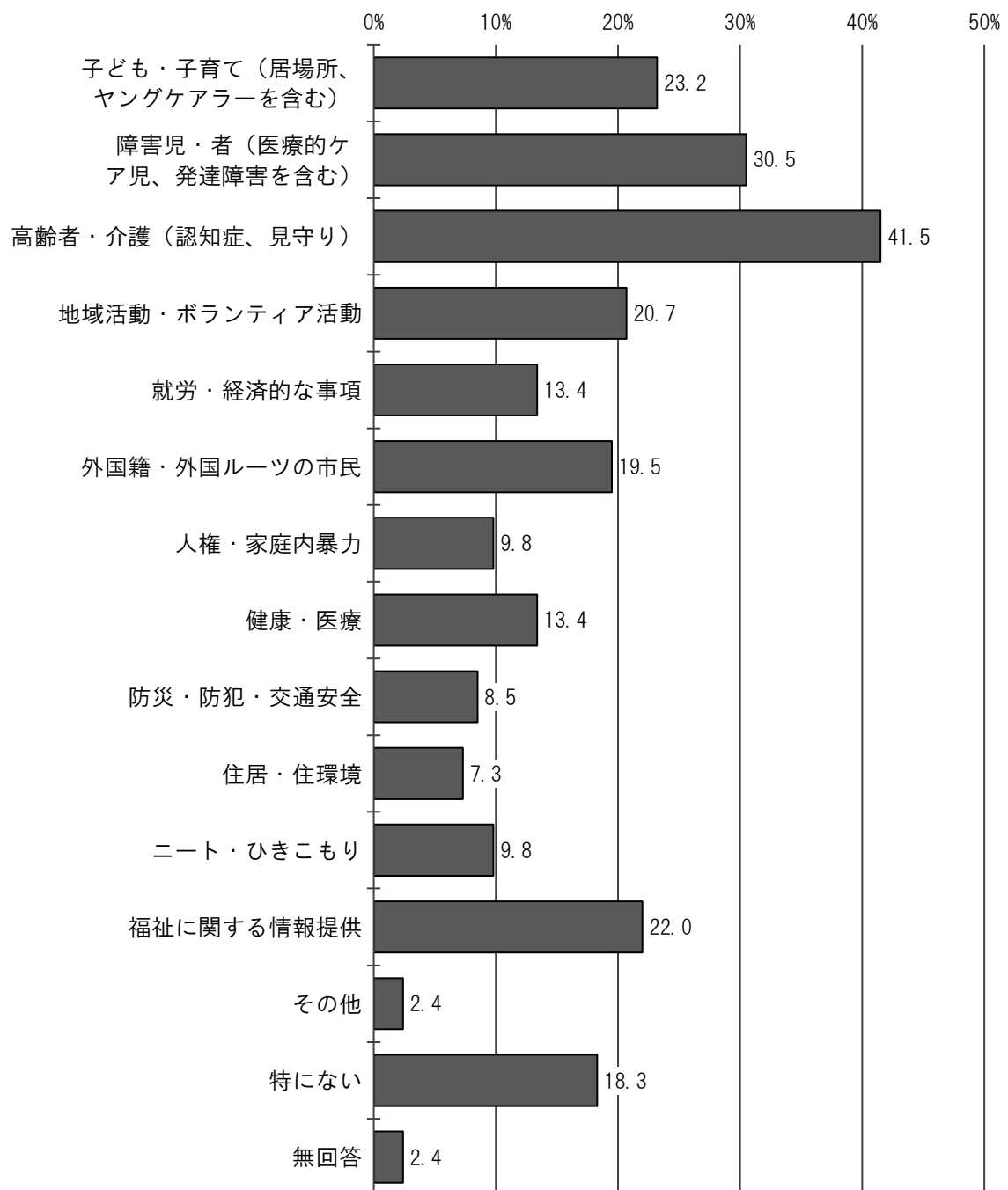
「支援を拒否される」が38.0%と最も多く、次いで「他の相談支援機関との連絡・調整が難しく、スムーズに連携できていない」が36.0%、「連携して支援を行うにあたって、各相談支援機関等の明確な役割分担ができていない」が34.0%となっています。



問 13 そのほか、活動（事業）の中で市民の抱えている課題として気になっていることはありますか。該当する項目番号を記入し、それについて内容を具体的に記入してください。
項目番号 （複数回答）

「高齢者・介護（認知症、見守り）」が41.5%と最も多く、次いで「障害児・者（医療的ケア児、発達障害を含む）」が30.5%、「子ども・子育て（居場所、ヤングケアラーを含む）」が23.2%となっています。

n=82



項目番号	
1 子ども・子育て(居場所、ヤングケアラーを含む)	8 健康・医療
2 障害児・者(医療的ケア児、発達障害を含む)	9 防災・防犯・交通安全
3 高齢者・介護(認知症、見守り)	10 住居・住環境
4 地域活動・ボランティア活動	11 ニート・ひきこもり
5 就労・経済的な事項	12 福祉に関する情報提供
6 外国籍・外国ルーツの市民	13 その他
7 人権・家庭内暴力	14 特になし

団体区分	項目番号	内容
福祉事業者・教育機関	1	外国人児童の入所が増加している。言語の問題等でコミュニケーション不足が心配される。
NPO・ボランティア団体	1	子どもへの接し方が少し強すぎるのではと思う言動を見る。読み聞かせの最中、場をかき回す子どもがいる。友達への接し方が一方的でトラブルになるケースが多い。家で読み聞かせをしてもらえる子どもが少ない。
福祉事業者・教育機関	2	サービスの受入れやニーズとのマッチングの難しさ。
民間事業者	3	認知症の為、徘徊による迷子
NPO・ボランティア団体	3	一人暮らし高齢者が病気になったりケガしたりした時の対処の仕方。近くに世話をしてくれる近親者がいれば良いが身寄りのない場合はどうするか。
地域活動団体・関係者	3	家族の理解があるか？(家族が気付かない。)
地域活動団体・関係者	3	足が悪くて行けない高齢者を積極的に参加させたいが送迎の手段が無い。
NPO・ボランティア団体	3	高齢者1人家庭が多く、今後心配です。
その他	4	ボランティア活動がもっと「当たり前の事」となって欲しい。時間は自分で作るものだし、何でもやってみなければ。
地域活動団体・関係者	4	どのように訪問すればのきっかけが解らない。
福祉事業者・教育機関	6	基地の街という特性も有って事業を利用する方々が多岐にわたり言語のみならず文化の違いなどを含めた支援の必要性に苦慮する。
その他	6	コミュニケーションが上手に図れない。
福祉事業者・教育機関	7	母子で暮らしている。障害者の子は一般就労しており、グループホームへ入所できるだけの稼ぎはあるが、母親はその子の収入が無ければ生活することができず、子どもが希望されているグループホームへの入所を拒否している。

団体区分	項目番号	内容
地域活動団体・関係者	9	活動への若い世代の無関心。実際の災害時の活動の仕方で何ができるか不安。
NPO・ボランティア団体	1, 6, 13	“虐待”とまでは言えずとも心配な様子の子供さんを見かけます。小学生のヤングケアラー？外国人の方への交通ルール（自転車）の説明を、市の転入手続き時や日本語学校などで徹底して欲しい。深夜、早朝の大声で会話しながらの二列走行を多く見ます。
福祉事業者・教育機関	13	社協他部署が対応しているのでそこを確認して頂きたい
NPO・ボランティア団体	1, 2	学校に行かない、行けない子どもが複数いる。フリースクール等に通っている子もいるが、基礎教育が十分か？多様性とは言われるが大人になった時、教育が不十分なために生活困難にならないか心配。 療養施設が足りないのか他市に通っている人の場合、保護者の負担が大きい。
福祉事業者・教育機関	1, 2	出来るだけ地域の拠点として手助けできればと考えている。
民間事業者	1, 2, 3, 12	相談支援専門員の不足のため、医療的ケア児の計画相談が立てられない。地域での居場所にも課題があると思う。
NPO・ボランティア団体	1, 2, 3, 4, 5, 6, 11, 12	フードバンクとして食品配布会を行っているので様々な事情を抱えた方も多くご利用になっています。特にひとり親家庭の経済的困窮、精神的不安、負担、孤独感、私達ボランティアでも想像できないほど大きいと思われます。先日のひとり親家庭向け配布会にて、一緒にいらっしゃったお子さんが、嬉しそうに準備したおもちゃを選んでお持ち帰りの際に保護者がこらえきれず涙を流されました。日々の生活を思い浮かべてのことかと思われ、私達ボランティアも胸をうたれました。私達ボランティア団体だけの運営では今後解決できない問題が増えてくる不安があります（運営費、人材確保、含め）行政のさらなるご協力を頂きたいです。
福祉事業者・教育機関	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 11, 12	様々な場面でニーズを持つ市民がどこに相談をしたらよいのかを知らない。特に突然支援が必要になった時の相談先が思いつかない。その為どうしたらよいのか困惑してしまう。
民間事業者	1, 2, 3, 5, 8, 12	適切な医療、福祉サービス等につながないケースが散見します。家族皆なんらかの困り事を抱えている状況で、誰かに助けを求める方法が分からない。人につながることに不安を感じていることもあるのかもしれません。
福祉事業者・教育機関	1, 2, 6	お子さんの障害について理解を得られないケースが有り保育するにあたって難しい場面が有ります。親御さん自身が発達障害と思われるケースの場合にどのように伝えと理解して頂けるのか大変にデリケートな問題の為に対応が難しいです。外国籍の方も感覚が違うので説明をしても理解して頂くのが難しい事が多く言葉の壁も有って対応に困る事が多々有ります。

団体区分	項目番号	内容
福祉事業者・教育機関	1, 2, 6	不登校、育児不安。発達障害の判定は無いが配慮を必要とする子への育児不安。必要な情報が正しく伝わらない。
福祉事業者・教育機関	1, 2, 6, 11	ヤングケアラーの実態把握と支援方法を知りたい。 障がいを抱える子の行き場（放デイが見捨てる家庭）。 日本語で困っている子どもの把握、支援の方法。 支援の仕方、協力機関。
NPO・ボランティア団体	1, 3, 5, 6, 8, 10, 11	外国籍や外国ルーツが問題ではなく日本で生活する為の在留資格とその資格で利用可能な制度の問題が大きい。就職活動の為に日本語力に大きな課題が有る方も多く就労に依る自立が困難な場合が有る。
NPO・ボランティア団体	1, 3, 6, 10	シングルマザーで4～6人の子どもがいて、食生活が安定していない。食品をお渡しすることがある。 介護保険の利用者で認知症もあるが精神疾患がある方が目立ってきた。（増えてきた） 高齢者で家族が病院同行できないとき、ケアマネが同行するが、医師とのやりとりで言葉のカベがある。 介護につながってきた高齢者世帯が所有する家が、施設入所により空き家となっていく。早めに情報を共有することで空き家再生につながる仕組みがあるとよいかも。
医療機関	1, 3, 8	不登校、学校教育そのもの。 重症化する前に専門職の早期介入による問題解決。
福祉事業者・教育機関	1, 4, 6, 7, 9, 11	十分な食事が取れない家庭が有る。新規参入が少ない。地域との関りが薄く住民との関係を築きづらい。
福祉事業者・教育機関	2, 3, 4, 5, 8, 10, 11, 12	全項目、社会資源（フォーマル、インフォーマル）の地図。
NPO・ボランティア団体	2, 3, 5	高齢の親の介護、施設への入所により親への想いから入所させた罪悪感。精神障害をお持ちの方、人間関係から仕事が上手く行かず解雇され次の仕事を探す不安、離婚問題の悩み等。
福祉事業者・教育機関	2, 3, 6, 9, 12	交通ルールやマナーなどが難しい、高齢者や外国籍の方々自由すぎて危険です。自転車通行が特に気になります。

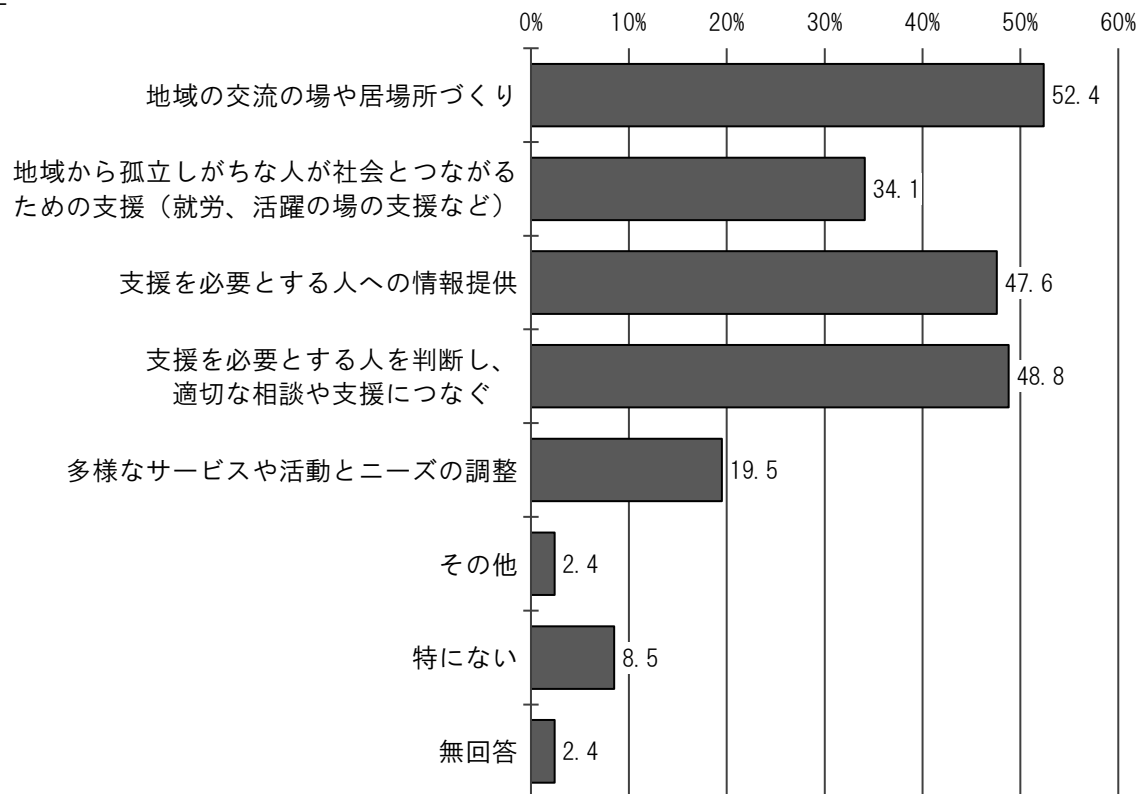
団体区分	項目番号	内容
その他	2, 3, 7, 10, 11, 12	児童発達支援センターが完成したことに感謝しています。本来は毎日通い高い専門性の療育を受ける場所であるので、是非、毎日通ってくる子が増え、幼稚園・保育園の他の第三の通園場所として存在を高めてほしい。 障害児・者の家族（とりわけ親）はその子を残して先に逝くことにとてつもなく大きな不安を感じています。特に1人っ子の場合は、自分の老後や死後のことも考えなくてはならない。課題が多いと感じる。 障害者の終の住処問題。入所施設の減少で特に重度障害者の行き先がなく困っている。それこそ、地域で生きていくため、市内に各種障害に対応したグループホームの増設が急務。8050 問題、ひきこもり中、いろいろなケースを目にします。親が老いて動けなくなる前に！！ 孤立を防ぎ、悩みや不安の吐露、情報共有が大切と感じている。
NPO・ボランティア団体	2, 4	会員の減少が有り増員の為の手段を模索中。
NPO・ボランティア団体	2, 4, 12	点訳を希望する方とつながれない（個人情報）。
その他	2, 3, 5	認知症になっていると思われる高齢者に家族がいない場合、どちらに相談すべきか分からない時がある。
福祉事業者・教育機関	2, 5	障害者の就労が難しくなって来ている。
福祉事業者・教育機関	2, 5, 11	就労先が遠方であることが多く、「長時間の通勤に耐えうるか」というポイントが障壁になっている。地元・近隣で働ける企業の開拓をしていく必要がある。 両親が高齢化し「親亡き後」の生活を見通すことができないケースが多い。
地域活動団体・関係者	2, 8, 12	障害児・者が気楽に参加できるスポーツ教室などが無い。 窓口に行かないと聞けないことがある。障害がある人は窓口へ行くことや調べることも難しいこともあると思う。
医療機関	3, 12	高齢者の独居に家族や親戚等が遠方や協力を中々得られない事が有る。介護保険、成年後見人等聞いた事は有ってもどのような事なのか申請の仕方等周知がされていないと感じる。
福祉事業者・教育機関	3, 4, 6, 8, 10, 12	中国語、スペイン語の通訳ができるボランティアさんがみつからず、意思疎通が困難な事がある。受診や介護サービス利用時だけでもよいので、無償もしくは低額で通訳して下さる方が必要。
福祉事業者・教育機関	3, 4, 7, 12	認知症の家族や親族の面倒を看る事になった際に具体的にどのような地域行政の援助を受けられるかと言った情報提供発信が出来る体制の拡充が重要であると思う。それが行き届いていないと介護者の孤独化、孤立化が進み家庭内での暴力や虐待に繋がって行くと思われる。

団体区分	項目番号	内容
地域活動団体・関係者	3, 4, 8, 12	高齢者夫婦の世帯で外に出ない為、デイサービスなど説明し 1~2 回通所したがやめてしまった。最近では夫婦で時々散歩しているので見守っている。 小地域福祉活動を月 1 回の割合で計画実施している。その際スタッフが気になる高齢者世帯、独居世帯にチラシを持参し、見守り、声掛けをしながら変化があれば民生委員から地域包括センターにつないでいる。 小地域活動の際、高齢者福祉の方や社協の方に参加してもらい情報提供してもらっている。
地域活動団体・関係者	3, 6, 12	地域の中で本当に必要な情報が入ってこない現状がある。見た様子では状況は分からない。
民間事業者	3, 7, 8	働き世代、不健康な方が多いと感じる。生産性が議論されているが、土台の健康が重要だと思います。体力がないと介護の仕事は務まらない。
福祉事業者・教育機関	3, 9	認知症の独居の方が多く介護サービスを受けているが家族の負担も大きい。詐欺に遭っているが気付くのに時間が掛かる。
NPO・ボランティア団体	-	視覚障害者へ音声での市の情報 CD を作成しているが障害者の数に比べて利用者がわずかである。紙面で伝えているが視覚障害者へは届いてなく情報の伝達と利用者増が大きな課題である。

問 14 地域共生社会の実現に向けて、貴団体・事業者として貢献したいと思うことはありますか。（複数回答）

「地域の交流の場や居場所づくり」が52.4%と最も多く、次いで「支援を必要とする人を判断し、適切な相談や支援につなぐ」が48.8%、「支援を必要とする人への情報提供」が47.6%となっています。

n=82



問 15 問 14 の回答について、具体的にできることや、うまくいっていないことなどがあれば教えてください。（自由記述）

団体区分	(1) 団体・事業者等にできること	(2) うまくいっていないこと・課題等
福祉事業者・教育機関	交流、相談の場の提供。	単体の事業者だけでは担いきれない事も多い。
福祉事業者・教育機関	事業所の特性を通して他の機関との協働を行う中で連携貢献をして行く事。	事業が始まって間もないので地域の中での事業所の立ち位置、発揮すべき専門性など把握できていない事。
福祉事業者・教育機関	施設の屋上をカフェとして開放し地域の方との交流の場として提供して行きたい。	-
福祉事業者・教育機関	社協としての役割を今後も実践していく	-
福祉事業者・教育機関	地域の拠点として子育て支援ができるように近隣の方への声かけなど積極的に行っている。	-
福祉事業者・教育機関	声を掛けてもらえば相談に応じることはできる。	まだ具体的な活動をしていない。
福祉事業者・教育機関	1～5 について既に行っているが特に 1 の交流の場の創設を進めたい。	-
福祉事業者・教育機関	利用者と共に地域活動に参加すること。利用者の強みと地域の強みをマッチングして交流を広げていく事。事業所自体が地域の社会資源に育っていく事。	市内の社会資源を活用し、または新たに創り出す経験が不足している様に感じている。お互いの強みを活かせる場の創出が必要。
福祉事業者・教育機関	生産品販売の機会を利用して、相談窓口や情報提供を行う。	人材不足で、事業所内で手がいっぱい、余裕がない
福祉事業者・教育機関	まずは法人内の事業所での連携を強め、必要に応じて法人外にも広げていけるように準備をしている。	どの事業所も既にいっぱい、余裕がなく、目の前の支援で手一杯になっている。
福祉事業者・教育機関	住民のニーズに合わせたサービスの提供、情報提供。	場所の確保が難しい。
福祉事業者・教育機関	地域包括や居宅との連携、情報共有。	-
福祉事業者・教育機関	具体的にはまだみつかってないです。	-
福祉事業者・教育機関	-	関係機関（行政の施設）との連携。
医療機関	介護を必要とする世帯への声掛け。	包括支援センター、高齢福祉課とより強く連携し、専門職の早期介入する事で、環境の改善を図る。

団体区分	(1) 団体・事業者等にできること	(2) うまくいっていないこと・課題等
医療機関	クリニックに通院されている患者様や家族へのオレンジカフェ案内。	クリニックに通院されていない地域の方々へのオレンジカフェの周知が難しい。
民間事業者	属性を問わない相談支援。断らない相談支援体制。	本人の居場所。ピアサポート支援。伴走型支援。まだ機能されていないのではないか、全てにおいて担い手の不足を解消する必要があると思う。
民間事業者	居場所、相談の場として「暮らしの保健室」のようなものを設置したいと思っている。	人の確保、配置等予算的な問題が大きい。場所、人（看護師、CM、ヘルパー等の職種）。
民間事業者	サービス内での提供だけでなく、それ以外の方にも利用頂ける事業所が理想と考えます。現状は一部のお年寄りの集まりですが、幅が広がればもっと良くなると思います。	会社もスタッフもたくさんのアイデアを持っているが、実行はできていない。目の前の仕事が優先で、先のことはできていない。
地域活動団体・関係者	サロンに来る人に楽しい時間を過ごして貰う事。	地域の人にサロン活動を知って貰って沢山の人来て貰いたい。
地域活動団体・関係者	近所で様子を伺ってから包括につなげるようにしています。	-
地域活動団体・関係者	日常生活用具の情報や使い方の提供	-
地域活動団体・関係者	現在、知的障害がある人の居場所づくりをしている。	-
地域活動団体・関係者	1. 月1回程度様々なイベントを計画し、短時間ではあるが地域の方々との交流、居場所づくりを心掛けている。2. 社協職員による血圧測定等で情報共有し病院等で受診する等説得している。3. 特殊詐欺等に会わないよう福生警察とも協力。	1. 天候によって参加者の人員が左右される。2. 町会の会館を借用しているが、クーラー等の冷暖房やマイク、スタンドの設備が不足。
地域活動団体・関係者	地域の状況は中々分からない為、意識していかないとと思う。	-
NP0・ボランティア団体	子どもの着衣等を見たり、行動を観察して問題がありそうな子どもを児童館に知らせる。	短時間の接触なので把握しきれない。
NP0・ボランティア団体	出来るだけ交流の場を作りお話を聴く。	元気な方は自分から出掛ける事が出来るがそうでない方への対応。
NP0・ボランティア団体	食事提供時間外に居場所に使ってもらっている。	ボランティアであるために仕事の合間の活動となる。必要とする人に十分な時間活動出来ない。場所貸しには気の置けない信頼できる人と分かるまで出来ない。

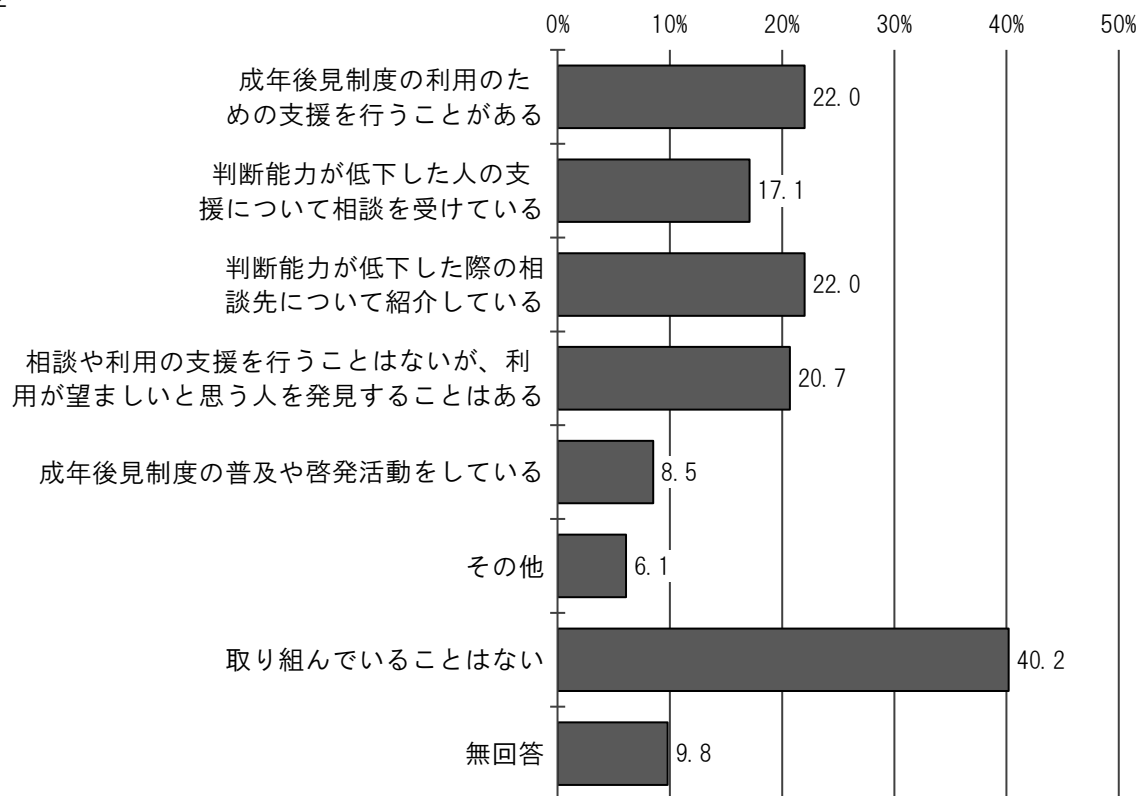
団体区分	(1) 団体・事業者等にできること	(2) うまくいっていないこと・課題等
NP0・ボランティア団体	食品配布を通じて支援。	本当に支援が必要な方の利用より不必要な方が多く利用しているようで本当に必要な方に情報が伝わっていないのではないか。
NP0・ボランティア団体	行政や社協等の公的な機関と連携し広く支援を届ける為に受け身の支援から届ける支援へ変革する為の体制作り与其他機関との連携を進めている。	体制作りに年単位での時間が掛かる。
NP0・ボランティア団体	1. 子ども食堂、体操教室、無料塾の開催で人をつなぐ場をつくる。 2. 会社を定年した人、発達障害グレーゾーンの人の雇用。 3. 紙媒体・SNS で発信。 4. フードロスを包括や市役所から連絡を受けて食品お渡し、連携。	5. コミュニティソーシャルワークとして社協が事業化して担っていくように関わってほしい 3. 必要な人に届かない 口コミが最強なので多くの人に知らせる取り組みが必要
NP0・ボランティア団体	傾聴をする中で体調の事、認知の進行、生活での様子等気になる事を社協に伝えて支援につなげて貰った事が有る。	個人情報保護の点からボランティアが出来る事は限られている。
NP0・ボランティア団体	-	障害者への情報提供と利用者増。
その他	・ 啓もう活動。 ・ 障がい児・者の余暇活動や地域への参加。 ・ 集う場や機会の確保。	小さな、いちサークルでは想いはあっても出来る事が限られています。市報等を利用して、名も知らぬ団体の呼びかけには反応も少ないことがあります。 「親なき後」の自助学習会の参加登録は60名を超えましたが、ほぼ口伝えのPRでした。やはり公的機関の共催や後援、（または市などが主催されることへの協力など）でないと発展していかない。
その他	高齢者向けに就労の場を与えることができる。当センターで就労している高齢者で認知症と思われる方がいた場合、家族等に報告することができる。また、就労を通して孤独死等の防止ができる。	地域に知名度があまりない為、会員数が増加しない。
その他	-	空店舗対策、お店の閉店。

（４）権利擁護支援について

問 16 活動（事業）の中で、成年後見制度の利用を必要とする人を発見したり、利用のための支援などを行うことがありますか。（複数回答）

「取り組んでいることはない」が40.2%と最も多く、次いで「成年後見制度の利用のための支援を行うことがある」「判断能力が低下した際の相談先について紹介している」が22.0%、「相談や利用の支援を行うことはないが、利用が望ましいと思う人を発見することはある」が20.7%となっています。

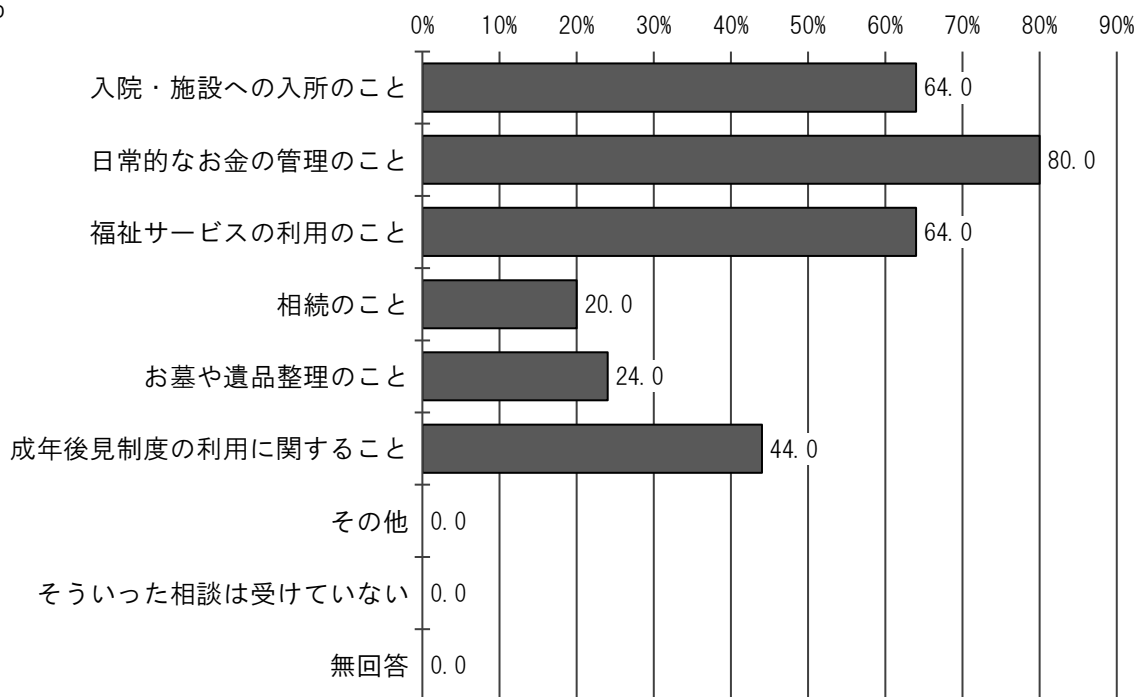
n=82



問17 問16で「1」「2」「3」（成年後見制度の利用を必要とする人を発見したり、利用のための支援などを行うことがある）と答えた方
その際、どのような困りごとや相談が多いと感じますか。（複数回答）

「日常のお金の管理のこと」が80.0%と最も多く、次いで「入院・施設への入所のこと」「福祉サービスの利用のこと」が64.0%、「成年後見制度の利用に関すること」が44.0%となっています。

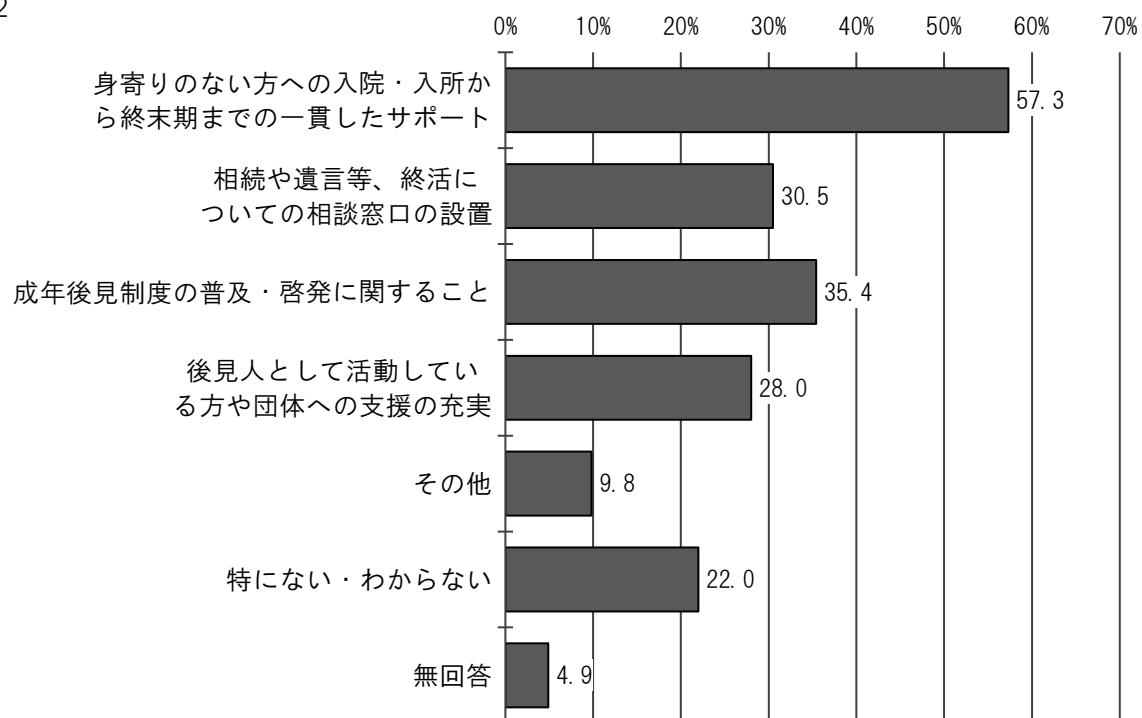
n=25



問 18 権利擁護支援について、今後どのような取組が必要だと感じますか。（複数回答）

「身寄りのない方への入院・入所から終末期までの一貫したサポート」が 57.3%と最も多く、次いで「成年後見制度の普及・啓発に関すること」が 35.4%、「相続や遺言等、終活についての相談窓口の設置」が 30.5%となっています。

n=82

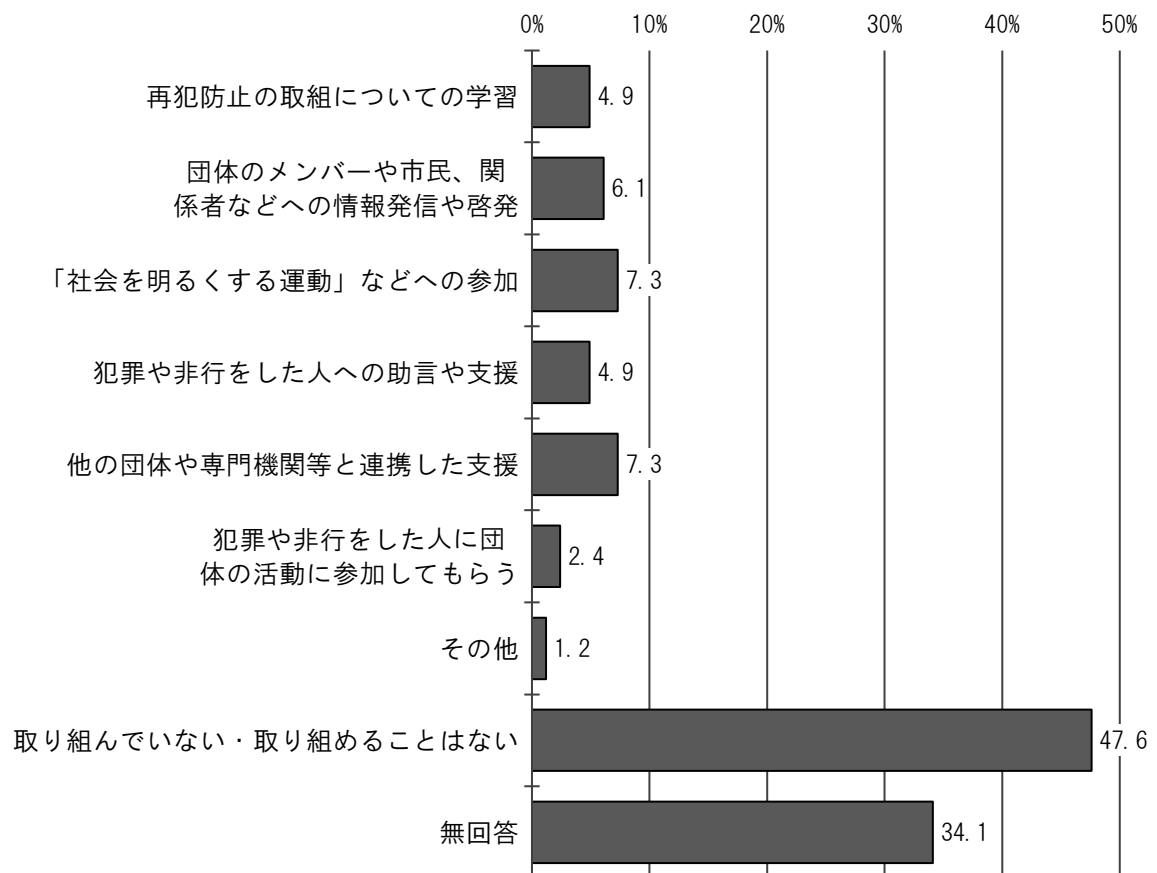


(5) 再犯防止について

問 19 再犯防止の推進のために、貴団体・事業者が①現在取り組んでいること、または②今後取り組んでいきたいことはありますか。(①②それぞれあてはまるものすべてに○)
①現在取り組んでいること (複数回答)

「取り組んでいない・取り組めることはない」が47.6%と最も多く、次いで「社会を明るくする運動」などへの参加」「他の団体や専門機関等と連携した支援」が7.3%、「団体のメンバーや市民、関係者などへの情報発信や啓発」が6.1%となっています。

n=82

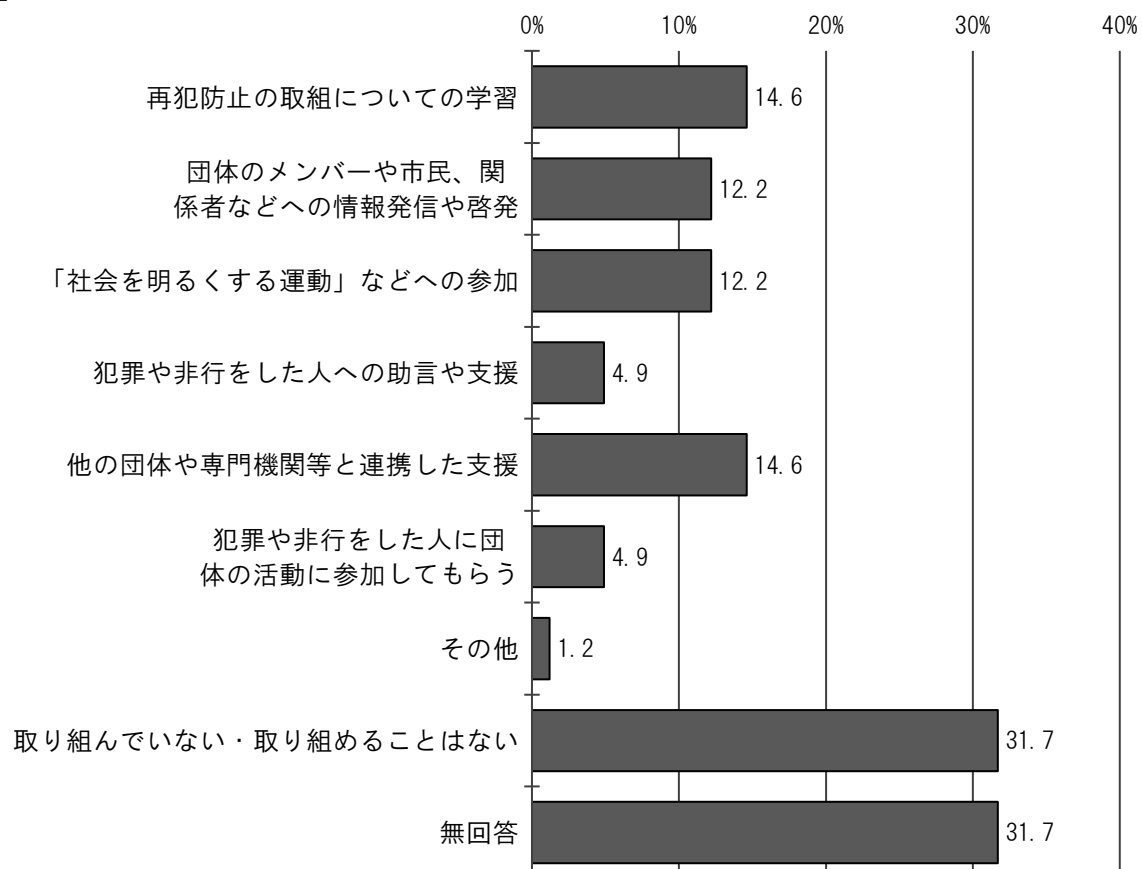


②今後取り組んでいきたいこと

(複数回答)

「取り組んでいない・取り組めることはない」が31.7%と最も多く、次いで「再犯防止の取組についての学習」「他の団体や専門機関等と連携した支援」が14.6%、「団体のメンバーや市民、関係者などへの情報発信や啓発」「社会を明るくする運動」などへの参加」が12.2%となっています。

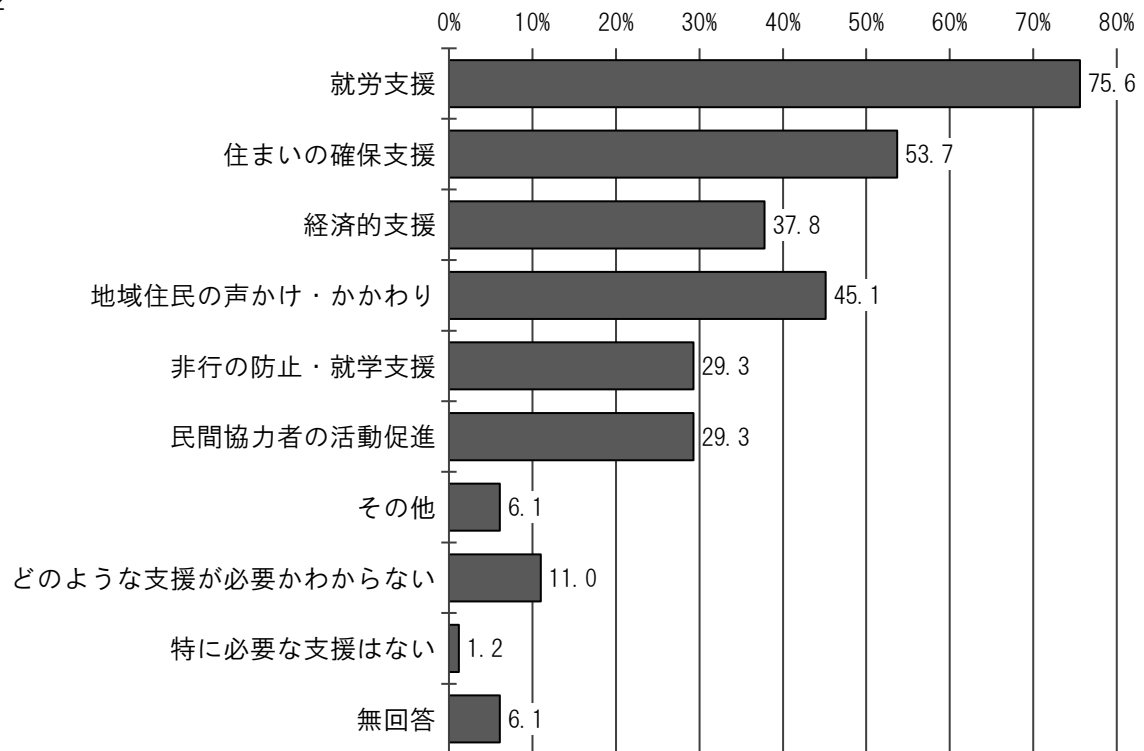
n=82



問 20 犯罪をした人が更生して地域で生活する場合に必要な支援は何だと思いますか。
(複数回答)

「就労支援」が75.6%と最も多く、次いで「住まいの確保支援」が53.7%、「地域住民の
声かけ・かかわり」が45.1%となっています。

n=82



(6) ご意見・ご要望等

地域福祉推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。

団体区分	内容
福祉事業者・教育機関	地域の中での保育園が協力して出来ることをこれからも行っていきたいと思います。
福祉事業者・教育機関	地域の関係性が希薄になっている現代社会だが、気持ちを持っている市民もいる。その市民のバックアップや活躍の場の促進、子ども達への地域教育も必要と思う。故郷を想う心を育てていくことは大切であると思う。好きになるように。
福祉事業者・教育機関	問 20 に対しては、再犯防止が強く推し進められた場合に行うべき支援。支援の方が先に充実することは望まない。
福祉事業者・教育機関	少子高齢化や家族形態の変化等社会の変化に伴い住民の抱える課題は、複雑化・複合化・多様化している。本人や家族の努力だけで課題を解決することや、一人ひとりの課題に公的な支援で対応することは難しい。自助・公助には限界があり、これらをカバーするために共助への期待が高まり、地域において共助の広がりと自主性を高めていくことが重要である。さらにアウトリーチに力を入れ、相談や支援に自らつながることが出来ない人についても、地域や支援につなげることが重要である。誰もが繋がりをもち、相互に支え合える地域づくりが今求められている。
医療機関	アンケート内容以外では、自殺防止のゲートキーパー活動にも関心があります。
民間事業者	地域共生社会とはお年寄りも子供も障害をお持ちの方もみんな一緒に暮らしていく。この地域で自分らしく助け合って、高めあっていくことだと思います。そのためには、1. 制度、分野の垣根を取り払う。2. 支え手と受け手の関係性を取り払う。3. 排除しない。4. 丸ごと受け止め、包括的な支援。以上が必要だと思います。また、IPW 多職種連携が必要になってくると思います。
民間事業者	いろいろな課題を地域の課題としてとらえていく事は、人と人との関わり、つながり、関心を持つことが重要になってくるとアンケート記入しながら思いました。
地域活動団体・関係者	高齢となり会員と参加者が減ってきている。皆さん、若いつもりが多くなっている。
地域活動団体・関係者	サロン活動をして良かった事は地域の高齢者がどのような事で悩み、一緒に考え解決に向けて共に動けた事です。それとスタッフの近所の高齢者への見守りの意識が高い事です。
地域活動団体・関係者	マンションに住んでいます。入居当時は子供達多く賑やか活気ありましたが、50 世帯中、残り住むのは 8 世帯で独居ほとんど、淋しいです。その中、進んで地域とまでには無理で体調の低下で大変静かな住まいになっています。その中、元気な 3 名ほどの住人を地域の会に誘うことが私の役目になっています。

団体区分	内容
地域活動団体・関係者	活動始めて20年になります。最近は町会に入る方も減り、近所にどんな人が住んでいるのかも分からなくなっています。ある方が25年間住んでいるけれど、町会に入っていないでも困らなかったと云っていた方が、家に孫が生まれたらやはり町会の行事に参加させてやらなくてはと（夏まつり、盆踊り、桜まつり）町会に入会しました。いろいろな行事に積極的に参加してくれています。やはり地域にある町会が大事になっていくのでしょうか、と考えます。
地域活動団体・関係者	個人情報重視されているため集まりのお知らせをしたくても年齢が分からないため、お誘いすることが出来ないで困っています。団地ですので出入りが多いので。
地域活動団体・関係者	知的障害、その他障害がある方向けのスポーツ教室が不十分です。パラスポーツの時間帯は事業所で働いている方は参加できない時間帯です。年に数回ではなく定期的にできることを考えて下さい。
地域活動団体・関係者	現在は高齢化が進み、共稼ぎ世帯も多く、定年の年齢も上がり、各町会共に町会離れで地域の交流が減少している今、地域を知ってもらい交流出来る方法を考えることが大切な時期で、子ども達を通じて保育園や学校、町会や老人会等と連携した行事活動を通じて「わ」作りが必要かな。
NP0・ボランティア団体	高齢化、経済悪化により携われる人が年々減少している。ボランティアに頼るのは限界があると思います。又、支援が必要な方を見つけ出すものそれぞれの事情で難しいと思います。一人一地域担当で細かく区割りして支援できるように体制づくりと一貫して支援ができるよう、システムを構築していくことができればと思います。
NP0・ボランティア団体	傾聴ボランティアは地味な活動ですが施設訪問して老人の方の表情が最初と最後では明るくなり聴くという事がとても大切な活動だと改めて感じさせられ、これからは続けて行きたいと思います。
NP0・ボランティア団体	再犯防止のための更生施設を市でつくり、そこに市民（民間事業者等）が協力して運営していくシステムをつくるのは？
NP0・ボランティア団体	社会的、経済的にも生きづらい時代だと思います。子供達、孫達が未来に夢を持てるような日々の生活が営まれる社会であることを期待します。今、私ができることのひとつとしてボランティアに参加しています。
NP0・ボランティア団体	地域共生社会は良いが、実際は困っている人が図々しい人なのかも知れない。しかしその曖昧さ、行政にない堺のなさが好まれているところでもあるので、活動しながらよりよい場所へと進みたい。
NP0・ボランティア団体	行政のボランティア団体に対する支援や共感をより多く願います。現在も様々なご協力を頂いておりますが私達ボランティアだけでは力不足な事も多く不安な要素で継続を断念しなければならないかも知れませんのでよろしくお願い致します。
NP0・ボランティア団体	地域福祉計画と連動して、地域福祉活動計画があるがその計画を作る際に他市のように住民座談会を開催したりして、市民の声やニーズを聞いた上で、社協職員が活動計画（アクションプラン）を計画策定するだけの実力を発揮してもらいたい。民間と協働して、現場や地域の情報を市役所には共有してほしいと思う。

団体区分	内容
NP0・ボランティア団体	電話傾聴を通じて利用者の方の見守り活動を行っています。3年目に入り信頼関係も出来て来ました。日々の生活での困り事やぐち等を話す事で心が軽くなったり元気になって頂けていると感じます。傾聴講座修了者の新たなスタッフを増やしたいです。
NP0・ボランティア団体	アンケート調査なのは承知しましたがボランティア団体が回答するには内容が難しく抽象的でした。選択肢も当てはまる時は多数有る反面、設問が活動には結びつかず回答出来ないものも有りました。回答の際の注意事項などを提示して頂けると回答し易くなると思いました。
その他	福祉関係事業関係者のあまりにも低賃金には驚く。ボランティアとしてそばから見ている立場だが、それでも頑張る職員に頭が下がる。
その他	私たちは障がい児者と家族の会です。自分の子が障害児をもっているとわかった時の苦悩は忘れられませんし、成長した今も、そして今後も折りふれ、くり返されるものと思います。この心の支えは専門の医師や施設・機関だけではなく、同じ立場の者です。どこかでお役に立てることがあればいつでも協力いたしますし、また私たち当事者の生の声を聞いていただける機会も欲しいと感じています。数年毎のアンケートなどでは捨えない。日々戦っているリアルを届けたい。
その他	当会には高齢の方々が加盟され各々地域や施設の慰問などに活躍しています。元気な高齢者でいる事に文化芸能活動寄与している事、地域の方々に元気を与えられると自負し活動して行きたいです。

2章 ヒアリング調査

1 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、市内で活動する福祉関係団体・事業者に対し、活動上の課題や地域の現状を把握し、市の施策の検討材料とするとともに、関係団体・機関が相互に連携しながら地域福祉の推進に取り組むことができるよう、団体間の情報共有や、横のつながりのきっかけとすることを目的として実施しました。

(2) 調査概要

地域福祉関連団体アンケート調査に回答のあった団体のうち 14 団体に聞き取り調査を依頼し、日程調整の結果、11 団体への調査を実施しました。

調査方法：グループヒアリング

実施日	聞き取り団体
令和 6 年 12 月 26 日	● NP0 法人インクルージョンセンター東京オレンジ (NP0・ボランティア団体) ● 福生市小地域福祉活動鍋一福祉地区「うめぐみ」(地域活動団体) ● 合同会社つぼみ (福祉事業者)
令和 7 年 1 月 7 日	● 電話に依る傾聴ボランティアの会「なごみ」(NP0・ボランティア団体) ● 労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団 (福祉事業者) ● 楓ケアプランセンター (福祉事業者) ● 特定非営利活動法人ヒューマンケア (NP0・ボランティア団体) ● 障がい児・者と家族の会ぷくぷく (障害者団体)
令和 7 年 1 月 10 日	● みんなの食堂ママごはん (NP0・ボランティア団体) ● 傾聴ボランティア“ハピネス” (NP0・ボランティア団体) ● 社会福祉法人あすはの会 (福祉事業者)

2 調査結果

第1回（令和6年12月26日実施）結果

連携して取り組んでいること・取り組みたいこと

カテゴリ	団体区分	内容
活動の情報交換	地域活動団体	● 小地域での活動では、関わる地域や人が限定されてしまうので、ボランティア団体など幅広い活動を行っているところとの情報交換の機会があれば、活動に関するヒントやアイデアなど参考にできるのではと感じた。
支援に向けたアプローチ・連携	NPO・ボランティア団体	● 生活困窮は制度で対応できる人ばかりではなく、解決に至るには自分たちだけでは難しいので、個別のケースに合わせて様々な団体・機関と連携している。市内には知らない団体がまだいるので、つながりを広げていきたい。 ● 当事者の単位・範囲が難しい。ひきこもり・高齢者という単純な区切りだけではないため、その人のケースに応じた様々な当事者団体が発展できればと思う。
地域づくり・居場所づくり	福祉事業者	● 介護サービス事業所として、健康づくりと地域づくりを一体的に行う必要性を感じている。また、すでに具合が悪くなっている方では、高齢者の終末期として、自宅を望むのか、病院を望むかなど、本人を尊重するための判断が難しい。身近な相談場所として、元気で健康なうちから自分の生き方を考えていくよう意識づけをしていきたい。

連携・協力関係を生むために重要だと思うこと

カテゴリ	団体区分	内容
支援に向けたアプローチ・連携	福祉事業者	● 市・社協など、公的な機関が主導となった呼びかけが必要。分野を問わず、支援できる団体が一堂に会する機会を設けられたら良いと思う。 ● 地域ケア会議などに参加しているが、会議形式だとかしこまって発言しにくい。ため、発言のしやすい環境づくりが大切だと感じる。ゆるやかなつながりを広げて、ハブになる場所や人が大切だと思う。
	NPO・ボランティア団体	● 人の生活には区切りがなく、福生市に限定する必要もないため、広く声をかけていくことが大切だと考える。最初から中学校区のような枠組みをつくるのではなく、広く寄せ集めて、コーディネートできるような体制が良い。 ● 居場所同士でもかかわりができると、横のつながりが広まると思う。
相談しやすい体制	福祉事業者	● 1つの家庭で問題が混在しており、専門外のことに時間を費やすこともある。また、情報が多すぎて選択できない、相談できないという人もいるため、窓口が分かりやすくなるとありがたい。
地域づくり・交流	福祉事業者	● 地域に顔を出すようにしており、イベントへの声かけなどもしている。何かあったときは地域の人や高齢者とかかわりのある事業者から「こういう人がいた」と声をかけてもらっており、そのようなつながりの大切さを感じている。

活動を通じて感じる地域の課題

カテゴリ	団体区分	内容
支援に向けたアプローチ・連携	地域活動団体	● 小地域福祉活動としてメンバーで周辺の状況を把握し、見守りも兼ねて声かけもしている。何回伺っても会えない人がいるが、薬局、床屋、会食など地域の人の人から情報が入ってくることもある。
多問題を抱える家庭	福祉事業者	● 支援をする中で紐解いていくと、ごみ屋敷、ひきこもり、病気の疑いなど、家庭環境の問題が見えてくる。自分たちでは手に負えないこともあるので、様々なパターンに応じて、相談先に連れて行ったり保健所につないだりしている。
孤立を防ぐかわり	福祉事業者	● 昨今は独居に限らず、家庭内でも孤立状態になっていることがあると感じる。
	NPO・ボランティア団体	● 支援者でもかわりを諦めてしまうようなケースがないとは言えず、そういった方の孤立が怖い。制度での解決は難しく、地域の見守りなどが必要。
	地域活動団体	● 転入して仕事一筋でやってきた方、特に男性は定年を迎えた後に燃え尽きてしまい、外に出ない、地域の人と馴染めないという状況に陥る。結果、ごみ屋敷となり、孤立するということもある。早い段階で地域に一步踏み出すことができれば、地域のことが良く見えるようになり、なじむことができると思う。
市民意識・セルフネグレクト	福祉事業者	● 誰に助けを求めているかわからない人や、身内の外に繋がること、頼ることへの不安・恥ずかしさを感じている人がいると思う。
	NPO・ボランティア団体	● 外国籍の人が多く、日本人でも日本語を話せない人がいる。現状、日本語ができない人の雇用はかなり厳しい。在留資格がかわるので、こちらでどうできるところではないこともある。日本語を話せない人には日本語プログラムへの参加を促しているが、もう少し理解できた方が生活しやすいのではという方でも、「自分は理解できている」という自信があり断る人もいる。

支援が必要な人に対し団体・事業者としてできること・うまくいっていないこと

カテゴリ	団体区分	内容
孤立を防ぐかわり	地域活動団体	● 参加者への声掛けで、家族を連れだしてもらおうなど地域とのつながりを持ってもらうようにしている。
居場所づくり	福祉事業者	● 市役所の窓口のハードル高いことが課題だと感じる。本当に困っている人は窓口に来ないので、地域の相談窓口づくりが重要。 ● 地域の中で、気軽に立ち寄り、おしゃべりする中で不安を話せるような場をつくりたい。一般の人だけではなく、看護師やケアマネなど専門家が常駐し、健康チェックなどを通じて話を聞き、道筋をつくってあげることで、安心感や支えに繋がるのではと思っている。 ● 熊川地区に新設した福祉施設は、庭とデッキを広く、開放的にした。子どもも遊びに来てくれる場になればと思っている。
	NPO・ボランティア団体	● 現在、フリースペースづくりを進めており、来る理由を問わず、受付・予約も不要としている。居心地が良く、ただ居ていい場所。人目から閉ざされた公園のような場所が福生市にもっと広がっていったらと思う。

		● 生活困窮の方がいきなり仕事に就くのはハードルが高いため、フリースペースの当番をお願いしてはどうかと考えている。無償にはなるが、中間的就労として就労体験の場になればよい。課題もたくさんあり実現は検討中。
地域づくり・交流	地域活動団体	● 子どもや子育て家庭を巻き込まなければ、地域活性にはつながらないと感じている。PTAに呼び掛けることで、両親や祖父母が夏祭りを手伝ったり、遊びに来てくれたりする。

第2回（令和7年1月7日実施）結果

連携して取り組んでいること・取り組みたいこと

カテゴリ	団体区分	内容
活動の情報交換	NPO・ボランティア団体	● 近隣市も含め、同様の傾聴活動をしている団体と、活動の実態について話す機会があるとよい。
団体の情報発信	障害者団体	● 障害を持つ子の保護者に寄りそい、同じ立場でわかりあえるよう活動を行っているが、不安や葛藤を抱える保護者にとっては、足を踏み出しづらいところがある。早くに活動や情報を知ってもらえるよう、FVAC や社協など、公的なところの後援などがついていけば、アクセスしやすくなるのでは。
支援に向けたアプローチ・連携	障害者団体	● 30 歳を過ぎて働いたことがなく、相談支援・サービス利用もないという方などは、保護者も悩み、疲弊し、外で迷惑をかけるなら、と支援を受けるまで時間がかかってしまう。障害福祉課から情報をいただき、連絡を取っているが、一步を踏み出しやすいようなシステムが連携してできるとよい。 ● 就労や就学などの専門家と、当事者団体が連携して支援できるとよい。ペアレントメンターの要請を市がもっと積極的に呼びかけてよいのではないかな。
	福祉事業者	● 学校と家庭が子どもを取り巻く環境の基本だが、学童に迎えに来ないひとり帰りの子どもとは、家庭とのつながりを持てず対応に苦慮することも多い。学校との関係性が良くなかったり、学童に対して協力的ではなかったりするなど、家庭の問題がなかなか外に出ないケースもある。学校や行政、施設と話をする機会がなく、つながることがうまくいっていない。個人情報のためということは理解できるが、話し合えないと解決できない課題もある。うまく連携していければよい。
	NPO・ボランティア団体	● 傾聴ボランティアは電話や対面など様々な選択肢があると、相談先として頼りやすくなるのではと思う。会としては独立を求められているが、当事者の細かい情報は小さい団体では扱いきれないので、難しい。社協のもとでやっている活動という安心感も重要だと感じている。
居場所づくり	NPO・ボランティア団体	● 市内で 150 名くらい不登校の子どもがいて聞いている。市が用意している場所もあるのだと思うが、合う合わないがあるので、地域の人が得意分野を活かして、子どもの生活力を高め、何かやりたいという気持ちかわいてくるような緩やかな支援やつながりを持てる居場所があるとよい。 ● 同じ問題を抱える人が集って悩みを語りあえる場が必要で、いろいろな共通

		項目の場をつくれるといいと思う。 ● 人を集めるのは得意だが、場所の確保が難しい。土日に使用していないところを、フリースペースのように開放してもらいたい。カフェやサロンのような形で人目につくところでいろいろな人が集まって飲食をしているというのが、居場所づくりには大事だと考えている。
--	--	--

活動を通じて感じる地域の課題

カテゴリ	団体区分	内容
セルフネグレクト・多問題を抱える家庭	福祉事業者	● 高齢者への支援を行うなかで、その子ども、孫など、家族が多問題を抱えていながら支援につながっていないケースがある。自分からつながれない人、福祉のお世話にはなりたくないという意識が根強い。どう一歩を踏み出せばよいかわからない方がいる。
支援に向けたアプローチ・連携	NPO・ボランティア団体	● 傾聴の活動上、アドバイスはしないことになっているが、アドバイスが欲しいという人への対応を検討している。相談先を直接教えることはできないが、明らかに支援が必要だと感じた場合は、社協へ報告するようにしている。
	福祉事業者	● 介護保険事業につながる人はいいが、水面下で表に出てこない方への支援が一番の課題と感じている。どう見えるようにして、公的なものにつなげていくのかを考えていかなければいけない。2025年問題と言われていた年を迎え、8050問題、ヘルパーの担い手など、今後連携しながら考えていかなければならないと思う。 ● 本人の意思がない限り、支援までは届かないため、情報共有はできても次の一歩が進まないこともある。様々な立場の方がかわり、その人にとって信頼できる人、本人に合う人を通じて結び付くというのも手段と思う。
	福祉事業者	● 0～18歳それぞれの年代が抱える問題、学校や不登校の問題を把握している。配慮の必要な子ども多数おり、その子に合った対応を日々考えているが、人手不足で難しい面もある。 ● 外国籍の子どもも多く、家では外国語、学校では日本語と、ストレスを抱えて荒れてしまう子がいる。 ● 外国人、日本語が難しい子どもは、市から翻訳機を借りているが、うまく機能せず、ちょっとした相談でも回答するのに30～40分かかってしまう。
	福祉事業者	● 課題に対して資源を開発していくというコミュニティソーシャルワークを行っていく必要があり、地域の得意なもの、資源を持ち寄って、上手に課題を解決できるようなコミュニティビジネスのようなことができればよいと思う。市や社協が中間支援組織として活躍してほしい。同じ領域で活動している人に声掛けをして、現状を共有できるようにしてほしい。
困窮家庭の実態	福祉事業者	● 物価高もあり、慢性的に高齢者の生活が苦しく、食べ物が不足しているという課題がある。フードバンクが子どもへの配付だけに切り替えることになったが、高齢者がますます食べ物に困るのではないかと危惧している。 ● 不登校になりかけている子の背景には、ひとり親で働いておらずご飯を食べていない、宿題の管理ができていないなど、家庭力が弱体化しているので学

		習支援、生活支援といったサポートが必要だと感じる。
市民意識・交流	障害者団体	● 障害のある人が地域の中で生きていく場所、住める場として、グループホームが増えてほしいと思うが、実際に近所に障害者施設ができるとなると、反対する方もいる。地域に理解をしてもらう機会が一番大事と考える。 ● 障害者の余暇活動のため、市内サッカーチームに協力いただいてサッカー体験をしている。特技をお持ちの地域住民に少しずつかかわってもらえれば、地域の中での理解も深まっていくと感じる。地域の目が一番のセキュリティになると思う。
サービスの質	福祉事業者	● 放課後デイやグループホームなど、施設としてはたくさんできているが、質が懸念される。民間施設の事業者がすごく増えているので、ぜひしっかりとした監査を市にやってもらいたい。
相談しやすい体制	福祉事業者	● 認知症家族の会を見ると、近年は子育て中の母など働き盛りの若い年代が増えている。働いている世代に向けて SNS などを活用したアプローチしやすいような相談窓口が必要だと感じる。

支援が必要な人に対し団体・事業者としてできること・うまくいっていないこと

カテゴリ	団体区分	内容
地域づくり・交流	障害者団体	● 地域福祉計画の中で、障害児・者が地域の中の一員として溶け込めるような施策が作れればよいと思う。できることは限られるが、マイノリティの方の役に立ちたい。
	福祉事業者	● 外国人世帯が増え言語の問題が大きくなっている。来年度から多文化キッズサロンを開催予定。学習、相談機能、交流機能など検討中だが、まずは周知し、ニーズの吸い上げから始めていく必要があると考えている。
	福祉事業者	● 地域とのかかわりに参加できていないが、声をかけてもらえれば、情報提供やつながりづくりができると思う。また一住民として子どもたちへの声掛けをしていきたい。

第3回（令和7年1月10日実施）結果

連携して取り組んでいること・取り組みたいこと

カテゴリ	団体区分	内容
支援者に対するアプローチ	NPO・ボランティア団体	● 困っている人がいることは把握しているが、誰がというところまでは情報として入ってこないため、もどかしく感じる部分がある。把握している人と連携したいが、個人情報の守秘義務があると思う。
団体の情報発信	NPO・ボランティア団体	● 傾聴のニーズは増えていくと考えられるため、団体として支援できることはしたい。民生委員や社協、包括など困りごとを把握している方を通じて、団体の活動を共有してもらうことで少しずつ連携が取れるとよい。
活動の情報交換	福祉事業者	● 労働力人口が減っている中、福祉人材の確保や、採用後の定着が課題となっ

		ている。福祉法人や福祉施設同士でどのような工夫をしているかなど、情報交換する機会があれば良い。
--	--	---

活動を通じて感じる地域の課題

カテゴリ	団体区分	内容
支援に向けたアプローチ・連携	NPO・ボランティア団体	● 学校に行っていない人の受け入れをしているが、週1回しかできていない。それ以外の日をどう過ごしているかまでは把握できていない。 ● 上のきょうだいが学校に行かないことで、下の子が学校に行かないことのハードルが下がる問題があると感じている。気持ちは尊重すべきだが、大人になって生活困難になることを防ぐ、教育を受ける機会の支援が重要では。
孤立を防ぐかかわり	NPO・ボランティア団体	● 社協のほっとサービス事業として、利用者から緊急連絡が入ったことがある。一人暮らしの高齢者に何かあった時、どう対応すればよいのか不安になった。状況によって社協と連携しながら対応していくことになる。
相談しやすい体制	NPO・ボランティア団体	● 都内の他自治体では20歳代・30歳代の方の電話傾聴の利用者がいるそうだ。悩みや不安を打ち明ける機会として、ニーズがあると感じている。

支援が必要な人に対し団体・事業者としてできること・うまくいっていないこと

カテゴリ	団体区分	内容
居場所づくり	NPO・ボランティア団体	● 所有しているマンションの一部屋を活用している。活動していない日もあるので、信頼関係を築いた方であれば、活用してもらうことは可能。 ● 子ども食堂に加え、高齢者の孤立防止に食事の場を提供している。部屋を分けているわけではないのだが、子どもと高齢者で座る部屋が自然と分かれてしまい、あまり世代間の交流はできていないかもしれない。高齢者からは声をかけている様子もあるが、関わりすぎて嫌がられたりすることもある。
居場所づくり・交流	福祉事業者	● 福祉施設を地域の方に知ってもらうため、作業棟を活かして、カフェとして開放することを考えている。障害者施設として、色々な人がいるということを地域の人に知ってもらう必要があると感じている。
居場所づくり・相談しやすい体制	NPO・ボランティア団体	● 例えば市役所の一角など、ちょっと立ち寄って話を聞いてもらうことができる場所があれば良いと思っており、できることをしていきたい。 ● コロナ禍は対面傾聴の活動場所がなくなったため、解散も考えたが、福祉センターに入浴に来る方がいるため、そこで傾聴をすることになった。1年くらい続けたが来る方が減ったため現在は実施していない。

**第7期福生市地域福祉計画策定に向けた
基礎調査報告書**

令和7年3月 福生市

発行：福生市役所 福祉保健部 社会福祉課
〒197-8501 東京都福生市本町5番地
代表電話：042-551-1511